

平成 3 0 年度

南魚沼市 湯沢消防署 訓練塔 新築工事

■ 図 面 リ ス ト ■

図 面 番 号	図 面 名 称	縮 尺	図 面 番 号	図 面 名 称	縮 尺	図 面 番 号	図 面 名 称	縮 尺
A - 01	建築工事仕様書（１）	-	S - 01	構造設計標準仕様	-	M - 01	配管平面図	1/50
02	建築工事仕様書（２）	-	02	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）	-			
03	建築工事仕様書（３）	-	03	鉄骨構造標準図（１）	-			
04	建築工事仕様書（４）	-	04	鉄骨構造標準図（２）	-			
05	建築工事仕様書（５）	-	05	ベースバック柱脚工法 設計・施工標準図	-			
06	案内配置図	1/200	06	ＱＬデッキ合成スラブ 設計・施工標準図	-			
07	建物概要・面積表・仕上表	-	07	各 階 伏 図	1/100			
08	各 階 平 面 図	1/50	08	基礎詳細図・地中梁リスト・基礎首リスト	1/40			
09	立面図・断面図	1/100	09	鉄骨部材リスト	1/20			
10	矩 計 図	1/50	10	鉄骨構造梁継手標準図	1/20			
11	階 段 詳 細 図	1/40・1/10	11	軸組図（１）	1/100			
12	建 具 表	1/50	12	軸組図（２）	1/100			
13	建 具 詳 細 図	1/5	13	鉄骨架構詳細図	1/40			
14	揚上用架台・登坂パネル詳細図	1/50						
15	解体工事・外構図	1/250						

富 所 設 計

南魚沼市湯沢消防署 訓練塔新築工事設計図		平成 30 年 2 月（全 ※ 枚）	
仕 様 書		Ⅱ 特記仕様	
Ⅰ 共通仕様		1. 項目は、番号に ○印の付いたものを適用する。 2. 特記事項は、○印の付いたものを適用する。 ○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 ○印と※印の付いた場合は、共に適用する。 3. 特記事項に記載の（ ）内は表示番号は、標仕の当該項目、当該図または当該表を示す。 なお、（参考 ）は標仕の「各部配筋 参考図」を表す。 4. 製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また（ ）内は製品名を示す。	
2. 標仕に用いられている用語を次のとおり読み替える。 (付)「契約書」を「新潟県財務規則(昭和57年3月1日新潟県規則第10号)別記(第78条関係)建設―工事請負基準約款」(以下「約款」という。)に読み替える。 (2)「監督職員」を「監督員」に読み替える。 (3)「特記仕様書」を「特記仕様」に読み替える。 3. 次の各号に該当する標仕の項目について、標仕の規定を別表に置き換えて適用する。 (1) 1章 1.1.2用語の定義の(1)、(14)及び(21) (2) “ 1.4.2材料の品質の(a)及び(b) (3) “ 1.4.4材料の検査等の(a) (4) “ 1.6.1工事検査の(b)及び(d) 4. 次に掲げる標仕の規定は、適用しない。 1章 1.1.2 用語の定義の(22) “ 1.6.2 技術検査		章 項 目 特 記 事 項 ① ① 工事実績情報の登録 (1.1.4) 2 概成工期 ※無し ・有(工期 平成 年 月 日) (1.2.1) ③ 品質計画等 建築基準法に基づき指定する条件 (1.2.2) ・地区の区分に応じた風速 (V o (m/sec)) ○ 3 0 ・ 3 2 ・地表面粗度区分 ・Ⅰ ・Ⅱ ○Ⅲ ・Ⅳ ・多雪地域の指定 積雪区分 告示第1455号 別表 (29) ④ 監理技術者の要件 ※建築工事に係る監理技術者証を有するもので、次のいずれかの要件を満たす監理技術者を専任で配置できること。 1 建築工事の施工に関し、1 0年以上の実務経験を有すること。 2 一級建築士又は一級建築施工管理技士の資格取得後4年以上の実務経験を有すること。 5 電気保安技術者 ※要() (1.3.3) ⑥ 発生材の処理等 2 4 追加特記 7「発生材の処理等」による。 (1.3.8) 7 特別な材料の工法 標仕に記載されていない特別な材料の工法は、材料製造所の指定工法による。 ⑧ 技 能 士 (1.5.2) 適用工事種別 技能検定の職種 鉄筋工事 ○鉄筋施工(鉄筋組立て作業) コンクリート工事 ○型枠施工 鉄骨工事 ○とび ブロックALC工事 ・ブロック建築 ・ALCパネル施工 防水工事 ・アスファルト防水工事作業 ・塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ○シーリング防水工事作業 石工事 ・石材施工(石張り施工) タイル工事 ・タイル張り 木工事 ・建築大工 屋根及びとい工事 ○建築板金(内外装板金作業) ・スレート施工 金属工事 ○内装仕上げ施工(鋼製下地工事作業) 左官工事 ○左官 建具工事 ○サッシ施工 ・ガラス施工 カーテンウォール工事 ・カーテンウォール施工(PC) ・サッシ施工 ・ガラス施工 塗装工事 ○塗装(建築塗装作業) 内装工事 ・フローリング系床仕上げ工事作業 ・ボード仕上げ工事作業 ・表装(壁装作業) 植栽工事 ・造園 9 見本施工 ※実施する() (1.5.5) 10 化学物質の濃度測定 2 4 追加特記 8「化学物質の濃度測定」による。 (1.5.9) ⑪ 完成図等 ※下記のものを作成し提出する。なお、作成方法・部数等は監督員の指示による。 ○案内図及び配置図 ○平面図 ○立面図 ○断面図 (1.7.1～1.7.3) ○仕上表 ○建物の保全に関する説明書(取扱説明書を含む。) ※竣工図 (A2 1 部 A3 1 部) ○CADデータ ・下記図面をCADデータ化し電子媒体にて提出する。作成方法・媒体等は、監督員の指示による。 案内図、配置図、各階平面図、立面図、断面図、矩計図、杭・基礎関係図、各伏せ図、各リスト、その他監督員が指示した図面 ⑫ 施工図等の取扱 施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用权は、発注者に委譲するものとする。 ⑬ 工事完成写真 工事完了後整理のうえ監督員に提出する。 ※提出部数 2 部 14 特別完成写真 写真専門業者の撮影した外観カラー写真 部提出する。(ネガ共) 大きさ ※キャビネ ・半紙 ・電子データ (2 0 0dpi/inch) ⑮ 工事施工状況写真 ※工事施工状況写真の撮影は、工事に係る材料、施工及び品質管理の状況が確認できるように行うものとし、「国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 営繕工事写真撮影要領(平成24年版)・同解説 工事写真の撮り方 建築編」を参考に、撮影計画書を作成して、監督員に提出する。 ただし、あらかじめ監督員の承諾を受けた場合は、撮影計画書の作成を省略できる。 ※提出部数 1 部 2 4 追加特記 6「工事区分表」による。 ⑯ 設備工事との取合い	
2 仮設工事		1 監督員事務所等 ・監督員事務所 ・10 ・20 ・35 ・65 ・ m程度を設ける。 (2.3.1) ・仮設事務所の中に監督員用空間を m程度確保する。 ・監督員が使用できる備品として、下記のものを工事期間中現場に用意し、貸与する。 ・保護帽 ケ ・雨具 着 ・長靴 足 ・安全帯 組 ② 工 事 用 水 構内既存の施設 ※利用できない ○利用できる(※有償 ・無償) ③ 工 事 用 電 力 構内既存の施設 ※利用できない ○利用できる(※有償 ・無償) ④ 仮 設 建 物 等 現場事務所、倉庫、下小屋等の仮設建物の位置はあらかじめ監督員の承諾を受ける。	
⑤ 足 場		外部足場は枠組足場とする。 (2.2.4) 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立等に関する基準」における2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 (3.2.3)(表3.2.1) ・構内指示の場所(・敷き均し ・堆積) (3.2.5) ○構外搬出適切処理(指定場所：) ・処分地未特定のため、場内仮置きとし契約後変更とする ④ 1 試験 ・試験杭 位置、本数及び寸法 ※図示 ・監督員の指示による (4.2.1～4.2.4) ・杭の載荷試験 ・鉛直載荷試験 ・水平載荷試験 試験位置 ※図示 載荷荷重 N/mm ² ・地盤の載荷試験 ※平板載荷試験 ・試験位置 ※図示 載荷荷重 N/mm ² ・通心力高強度プレストレストコンクリートくい(PHC杭) ・外設鋼管付きコンクリートくい(SC杭) ・プレストレスト鉄筋コンクリートくい(PRC杭) ・ 杭径(mm) 杭長(m)及び種別 継手箇所数 長期設計支持力(kN/本) セット数等 試験杭 位置は図示 本 杭 先端部形状 ※開放形 ・閉そく平たん形 (4.3.2) 施工法 (4.3.3～4.3.5) ・特定埋込み杭工法(建築基準法に基づく埋込杭工法とし、杭材料は指定又は認定条件に適合するもの) ・セメントミルク工法 支持地盤への掘削深さ ・1.5m程度 ・支持地盤への掘入れ深さ ・1 m以上 ・打込み工法 施工法の種別() 水平方向の位置ずれ精度 ・100mm以下 ・ mm以下 杭の継手 ※アーク溶接() ・無溶接継手() (4.3.6) 杭頭の処理 ※切断しない ・ (4.3.7) コンクリートの種別及び設計基準強度 (4.5.3)(表4.5.1) ()種かつ()N/mm ² 以上 セメントの種類 ※高炉セメントB種 ・ (4.5.3) 帯筋 ※参考2.2④丸形(ロ) ・図示 (4.5.3) 掘削工法 ・アースドリル工法(※安定液使用 ・無水掘削) (4.5.4) ・リバース工法 ・オールケーシング工法(孔内の水張 ※行う ・行わない) ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.5) ・拡底杭工法(※安定液使用 ・) 孔壁測定 ・行う ・行わない (4.5.4～4.5.5) ※再生クラッシュラン ・切込み砂利及び切込み砕石 (4.6.2) 施工箇所 ※建物内の土間ｽﾗﾌﾞ 及び土間ｺﾝｸﾘｰﾄ下(ﾋﾞｯﾄﾞ下を除く) (4.6.5) ・図示による ④ 砂利地業 ⑤ 床下防湿層 ⑤ ① 鉄筋の種別 (5.2.1)(表5.2.1) 種類の記号 呼 び 径 (mm) 備 考 ・SD345 D19～ 異形鉄筋 ・SD295A D19未満 異形鉄筋 ・ 呼び名19mm以上の柱、梁の主筋 ※ガス圧接 ・重ね継手 (5.3.4) 継手位置 ※各部配筋参考図による ・図示 定着長さ() ② 鉄筋の継手及び定着 (5.3.4) ③ 鉄筋の最少かぶり厚さ 最小かぶり厚さは目地底から算定する (5.3.5) ・耐久性上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下表による 施 工 箇 所 表5.3.6の値に加える寸法(mm) 柱、梁、壁及び底などの外気に接する打放し面 ※1 0 ・ ※H形(口は除く) ・ (参考2.2) ※行う ・行わない (参考2.1) 一般壁 ※A形 ・B形 ・図示 (参考4.4) 耐震壁 ※図示 ⑦ 梁貫通孔の補強形式 ※H形 ・MH形 ・M形 (参考7.1) ○既製品(建築基準法による指定又は認定を受けたもの) ※超音波探傷試験 ・引張試験 (5.4.9) ⑥ ① 普通コンクリートの設計基準強度 設計基準強度 Fc(N/mm ²) 施 工 箇 所 スランプ ○2 1 ・基礎・基礎梁・デッキプレート ・18 ○1 8 ・土間コンクリート ・15 ○1 5 ・捨てコンクリート ・15 ・ ※構造体コンクリート：発注強度=設計基準強度(Fc)+構造体強度補正值(S) ※I類 ・II類 (6.2.1)(表6.2.1) ② レーミストコンクリートの種類 ③ セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 (6.3.1)(6.13.2)(表6.3.1) ・高炉セメントB種() 普通ポルトランドの品質は、JIS R5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋ｺﾝｸﾘｰﾄに用いる場合を除く。 水和熱 7 d 352 J/g以下 28 d 402 J/g以下	
④ 骨材の品質		アルカリシリカ反応性による区分 (6.3.1)(6.5.4) ・A ※B(※コンクリート中のアルカリ総量 R t=3.0kg/m 以下)	
⑤ 混和材料の種別		※混和剤 ・混和材 (6.3.1)(6.3.2)	
⑥ 無筋コンクリート		※下記のコンクリートは無筋コンクリートとして扱う。 (6.14.1) ・配管埋設用コンクリート ・防水層保護コンクリート ・捨てコンクリート ・側溝類コンクリート ・裏込めコンクリート ・	
⑦ 型枠		外部に面するコンクリート打放し仕上げ(仕上塗材、塗装等の仕上げを行う場合を含む。)の打増し厚さ ※20mm ・図示 (6.8.2) ひび割れ誘発目地 ※図示 ・監督員の指示による	
8 ｺﾝｸﾘｰﾄ躯体表面の処理		外装ﾀｲﾙ後張り面の躯体表面の処理 (6.8.3)(11.3.7)(15.2.4) MCR工法又は(15.2.4)(C)による目荒らし工法とする。なお、目荒らし工法の場合は、モルタルの接着に適した粗面に仕上げる工法を1.2.2「施工計画」による品質計画で定める。また、粗面の状態は、監督員の承諾を受ける。 適用範囲は1 1章ﾀｲﾙ工事 3 ｺﾝｸﾘｰﾄ素地面の処理による。 コンクリートの増打ち厚さ ※2 0mm ・	
⑨ コンクリート打放し仕上げ		厚さは合板の厚さとする。 (表6.2.4) 種 別 ｺｰﾝｸﾘｰﾄの仕上げ面 厚さ 施 工 箇 所 ・A種 ・面うち ・面と同一 ※12mm ・15mm ○B種 ○面うち ・面と同一 ※12mm ・15mm ・C種 ・ 12mm	
10 寒中コンクリート		・適用する ※適用しない (6.11.1)	
⑦ ① 鉄骨の製作工場		・監督員の承諾する製作工場 (7.1.3) ・建築基準法第77条の4 5第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた㈱日本鉄骨評価センター又は(社)全国鐵構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「M グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場	
② 施工管理技術者		※適用する ・適用しない (7.1.3)(7.1.4)	
③ 鋼 材		鋼材の材質 (7.2.1)(表7.2.1) 種類の記号 使用箇所 規格等 SM400B 大梁 ※JIS規格による BQR295(SN490C) 柱(ダイヤフラム) ※JIS規格による SS400 小梁・間柱 ※JIS規格による	
④ 高力ボルト		※ﾄﾚｯｼﾝｸﾞ高力ﾎﾙﾄ ・J I S 形高力ﾎﾙﾄ ・溶融亜鉛めっき高力ﾎﾙﾄ (7.2.2)	
⑤ 工作図		高力ボルト及び普通ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2) ※建築工事監理指針による ・図示	
⑥ 開先形状		※鉄骨工事技術指針による ・図示 (7.6.4)	
⑦ スカラップ		※図示による ・監督員の指示による (7.6.7)	
⑧ 溶接部の試験		A O Q L ※4 . 0 % ・2 . 0 % (7.6.11) 検査水準 ※第6水準 ・図示 (7.6.11)(表7.6.2) 試験の種類 試験箇所 試験方法 ○超音波探傷試験(UT) 構造設計標準仕様書による ※標仕7.6.11(b)による ・放射線試験(RT) ・マクロ試験	
⑨ デッキプレート		○焼抜き栓溶接 ・アークスポット溶接 (7.7.8) ・隅肉溶接 ・	
10 耐火被覆		(7.9.2～7.9.6) 種 別 所要性能及び適用構造区分 ・耐火材 吹付け ・乾式吹付けﾛｯｸｰﾙ ・耐火材 吹付け ・半乾式吹付けﾛｯｸｰﾙ ・耐火材 吹付け ・湿式吹付けﾛｯｸｰﾙ ・ ・耐火板張り ・耐火材巻付け ・ｽﾗﾝﾞﾘﾓﾙﾀﾙ塗り	
⑪ アンカーボルトの保持及び埋込み工法		※構造用ｱﾝｶｰﾎﾙﾄ(形状、寸法は図示による。) (7.10.3) ・建方用ｱﾝｶｰﾎﾙﾄ(・A種 ※B種 ・C種) (表7.10.1)	
⑫ 柱底均しモルタル		※A種 ・B種 (表7.10.2)	
⑬ 錆止め塗料塗り		※A種 ・B種 (表18.3.1)	
⑧ ① 建築用コンクリートブロック		補強ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾛｯｸｰ造 (8.2.2) 断面形状及び圧縮強さによる区分 厚さ(mm) 適用箇所 ※空洞ﾌﾛｯｸｰ16 ・空洞ﾌﾛｯｸｰ16-W	
2 鉄筋の加工及び組立		※図示 ・監督員の指示による (8.2.5)	
3 ALCパネル		(8.4.2～8.4.5)(表8.4.2)(表8.4.3) 種 類 単位荷重(N/m ²) 厚さ(mm) 取付け工法種別等 ・外壁パネル ・1180 ・1960 ・190 ○A種 ・B種 ※平パネル ・120 ・意匠パネル ・ ・間仕切パネル ・80 ・100 ・C種 ・D種 ・E種 ※平パネル ・ ・屋根パネル ・980 ・100 ※標仕8.4.5による ・床パネル ・2350 ・3530 ・100 ・150 耐火性能・有り(・1時間 ・2時間)	
Ver. 290401			
一級建築士事務所 株式会社 富所設計 一級建築士 建設大臣登録 第114217号 富所清治 新潟県南魚沼市君沢525 TEL 025-783-3150		PROJECT 南魚沼市 湯沢消防署 訓練塔 新築工事 TITLE 建築工事仕様書(Ⅰ)	
DATE 2018/02 SCALE -		No. A-01	

防水工事	4 押出成形セメント板 (ECP)	(8.5.2～8.5.4) (表8.5.1) (表8.5.2)	施工箇所	表面形状	厚さ(mm)	幅(mm)	工法	耐火性能
	・外壁パネル	※フラットパネル ・デザインパネル ・タイルヘンダパネル					・A種 ・B種	※有り() ・無し
	・間仕切壁パネル	※フラットパネル ・デザインパネル ・タイルヘンダパネル					・B種 ・C種	※無し ・有り()
	1 アスファルト防水	(9.2.2) (9.2.3) (表9.2.3)～(表9.2.9)	種別	施工箇所				
	・A1-1 ・A1-2 ・A-2 ・D-2 ・B1-2							
	アスファルト ※3種	(9.2.2)						
	断熱工法の断熱材 厚さ(mm) ※25	(9.2.2)	材質 屋根保護防水断熱工法 ※JIS A 9521押出法*リフォーム3種bA(スチ層付) 又は、JIS A 9511押出法*リフォーム保温板3種b(スチ層付)					
	材質 露出防水断熱工法	※JIS A 9521硬質ウレタン断熱材2種1号若しくは2号又は、JIS A 9511A種硬質ウレタン保温板2種1号若しくは2号						
	乾式保護材の材料	(9.2.2)	種類	寸法(mm)：厚さ×幅	適用			
	・押出成形セメント板	※Ⅰ類	※15×		※無石棉に限る			
・窯業系パネル	・Ⅱ類	・×						
・金属複合板	※12×							
2 改質アスファルトシート防水	(9.3.2) (9.3.3) (表9.3.1)～(表9.3.3)	種別	施工箇所					
・								
3 合成高分子系ルーフィングシート防水	(9.4.2) (9.4.3) (表9.4.1) (表9.4.2)	種別	厚さ	施工箇所	仕上塗料塗り	使用分類		
・					・シルバー	・非歩行		
・					・カラー	・軽歩行		
PCCコンクリート部材下地	(9.4.4)	目地処理(接着工法) ※図示						
入隅部の増張り(S-F1、SI-F1工法の場合) ※行わない ・行う(幅 mm程度)								
4 塗膜防水	(9.5.2) (9.5.3) (表9.5.1) (表9.5.2)	種別	施工箇所				備考	
・X-1						仕上塗料塗り		
・X-2						・シルバー	・カラー	
種別 X-1の脱気装置								
・設ける 材質	※製造所標準仕様	・	設置数量					※製造所指定数量
・㎡当たり1箇所								
5 シーリング	(9.7.2) (表9.7.1)	下表以外は標仕表9.7.1による。		(9.7.2) (表9.7.1)				
施工箇所	シーリング材の種類(記号)							
接着性試験	(9.7.5)	※簡易接着性試験 ・引張接着性試験(施工部位)ただし試験成績書を監督員に提出し、承諾を得た場合は試験を省略できる						
6 防水の保証等		※防水工事は、新潟県防水工事業協同組合員の施工とし、受注者は新潟県防水工事業協同組合と連名の保証書を提出する。ただし、県が認めた場合は、組合員外の施工とすることができる。この場合は、受注者と施工者との連名の保証書とする。						
工法種別	施工箇所	保証期間						
・工法		10年間						
・工法		10年間						
・工法		10年間						
10 石工事	1 天然石張り	(10.2.1)	石の品質	(10.2.1)				
	壁用石材	※2等品	・1等品(施工場所)					
	壁及びその他の石材	※1等品	・2等品(施工場所)					
	石の種類・表面仕上げ	(10.2.1) (表10.2.1) (表10.2.2)	施工箇所	種類	産地・名称	厚さ(mm)	仕上りの種類	
2 テラゾ張り	種石の種類	※大理石	・	(10.2.1)				
	表面仕上げ	※本磨き	・	(表10.2.2)				
3 床及び階段の石張り	床石張りの石裏面処理	・行う	(10.6.2)					
	屋内のワックス掛け	・行う	(表10.1.5)					
11 タイル工事	1 陶磁器質タイル	(11.2.2)	タイルの種類	(11.2.2)				
	施工場所・用途	形状寸法(mm)	耐凍害性	うわぐすり	役物	色	備考	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施釉	・無釉	・あり	・なし	
		・あり	・なし	・施				

[illegible]

定義

「Ⅴ提案」とは、建設工事請負基準約款（以下「約款」という。）第20条の2の規定に基づき、設計図書に定める工事目的物の機能、性能等を低下せしめなく請負代金額の低減を可能とする施工方法等に係る設計図書の変更について、乙が甲に行う提案をいう。

2 Ⅴ提案の意義及び範囲

(1) 乙がⅤ提案を行う範囲は、設計図書に定められている内容のうち工事材料及び施工方法等に係る変更により請負代金額の低減を伴うものとし、原則として、工事目的物の変更を伴わないものとする。

(2) 以下の提案は、Ⅴ提案の範囲に含まれないものとする。

① 工期の延長等施工条件の変更を伴う提案

② 条件変更が確認された後の提案

③ 入札時に入札参加資格要件として求めた同種工事又は類似工事の範囲を超えるような工事材料又は施工方法等の変更の提案

3 Ⅴ提案書の提出

(1) 乙は、前項のⅤ提案を行う場合は、次に掲げる事項をⅤ提案書（様式1～4）に記載し、甲に提出しなければならない。

① 設計図書に定める内容とⅤ提案の内容の対比及び提案理由

② Ⅴ提案の実施方法に関する事項（当該提案に係る施工上の条件等を含む）

③ Ⅴ提案が採用された場合の請負代金額の概算低減額及び算出根拠

④ 甲が別途発注する関連工事との関係

⑤ 工業所有権を含むⅤ提案である場合、その取扱いに関する事項

⑥ その他Ⅴ提案が採用された場合に留意すべき事項

(2) 甲は、提出されたⅤ提案書に関する追加的な資料、図面その他の書類の提出を乙に求めることができる。

(3) 乙は、前項のⅤ提案を契約の締結日より、当該Ⅴ提案に係る部分の施工に着手する35日前までに、甲に提出できるとする。

(4) Ⅴ提案に関する費用は、乙の負担とする。

4 Ⅴ提案の審査

(1) Ⅴ提案の審査にあたっては、施工の確実性、安全性、設計図書と比較した経済性等を評価する。

5 Ⅴ提案の採否等

(1) 甲はⅤ提案の採否について、Ⅴ提案の受領後14日以内に乙に通知（様式5）しなければならない。但し、その期間内に通知できないやむをえない理由があるときには、あらかじめ乙の同意を得た上で、この期間を延長することができるものとする。

(2) 提出されたⅤ提案が適正と認められなかった場合の前項の通知は、採用しない理由を付して行うものとする。

(3) 甲は、Ⅴ提案による設計図書の変更を行う場合は、約款第20条の2の規定に基づくものとする。

(4) 甲は、Ⅴ提案による設計図書の変更を行う場合は、約款第25条の規定により、請負代金額の変更を行うものとする。

(5) 前項の変更を行う場合においては、Ⅴ提案により請負代金額が低減すると見込まれる額の10分の1に相当する金額（以下「ⅤE管理費」という。）を削減しないものとする。

(6) Ⅴ提案を採用した後、約款第19条の条件変更が生じた場合において、甲がⅤ提案に対する変更を求めた場合、乙はこれに応じるものとする。

(7) 甲は、約款第19条の条件変更が生じた場合には、約款第25条第1項の規定に基づき、請負代金額の変更を行うものとする。Ⅴ提案を採用した後、約款第19条の条件変更が生じた場合の前記(5)のⅤE管理費については、変更しないものとする。

但し、双方の責に帰することができない事由（不可抗力や予測することが不可能な事由等）により、工事の続行が不可能、又は著しく工事低減額が減少した場合においては、甲乙協議して定めるものとする。

6 Ⅴ提案の保護

Ⅴ提案については、その後の工事において、その内容が一般的に使用されている状態となった場合は、無償で使用できるものとする。ただし、工業所有権等の排他的権利を有する提案についてはこの限りでない。

7 責任の所在

甲がⅤ提案を適正と認め、設計図書の変更を行った場合においても、Ⅴ提案を行った乙の責任が否定されるものではない。

(A 4 縦)

様式 1

年 月 日

V E 提 案 書

新潟県知事 米山 隆一 様

受注者

住 所

氏 名

印

建設工事請負基準約款第 20 条の 2 に基づき V E 提案書を提出いたします。

工 事 名 :		連絡者 氏名
契約締結日 :		TEL FAX
V E 提案の概要		
<p>(注) 記入欄が不足する場合は、様式 1 に準じて記入して下さい。</p> <p>概算低減額は、提案を審査する上で参考とするものです。</p>		
番 号	項 目 内 容	概算低減額 (千円)
概 算 低 減 額 合 計		
V E 提案の詳細		
<p>(1) 設計図書に定める内容と V E 提案の内容の対比等</p> <p>(2) V E 提案による概算低減額の算出根拠</p> <p>(3) その他詳細資料及び図面</p>		

(A 4 縦)

様式 2

番号		項目内容	
----	--	------	--

(1) 設計図書に定める内容と V E 提案の内容の対比			
【現状】 ……略図等		【改善案】 ……略図等	

(2) 提案理由

(3) V E 提案の実施方法 (材料仕様、施工要領等を記入)

(4) 品質保証の証明 (品質保証書の添付等)

(5) その他

(A 4 縦)

様式 4

番号	項目内容
(1)	関連工事との関係
(2)	工業所有権を含むV E提案である場合、その取扱に関する事項
(3)	V E提案が採用された場合に留意すべき事項

[illegible]

(A 4 縦)

様式 5

第 号
平成 年 月 日

V E 提案採否通知書

受注者

住 所

氏 名

様

新潟県知事 米山 隆一

特記仕様書「 V E 提案について」に基づき、平成 年 月 日付け
で提出されました V E 提案の審査結果は、下記のとおりです。

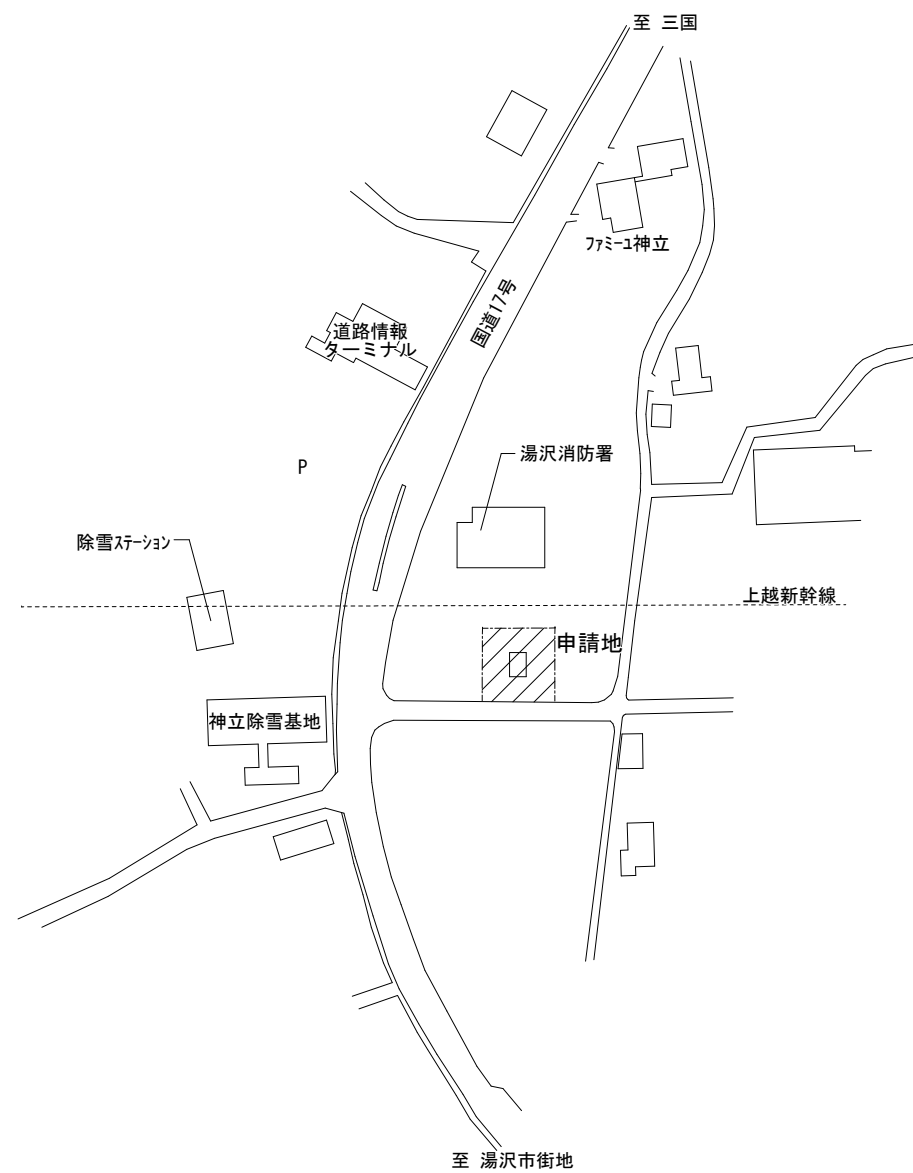
工事 番号 : 工 事 名 : 契約締結日 : 平成 年 月 日		V E 提案項目数 : 採 用 項 目 数 : 不 採 用 項 目 数 :		
V E 提案に対する「採否」及びその理由				
番号	項目内容	採否 区分	適否の理由	特記事項
		採・否		
		採・否		
		採・否		

(注) 採否に関する問い合わせ先

新潟県土木部都市局常課課

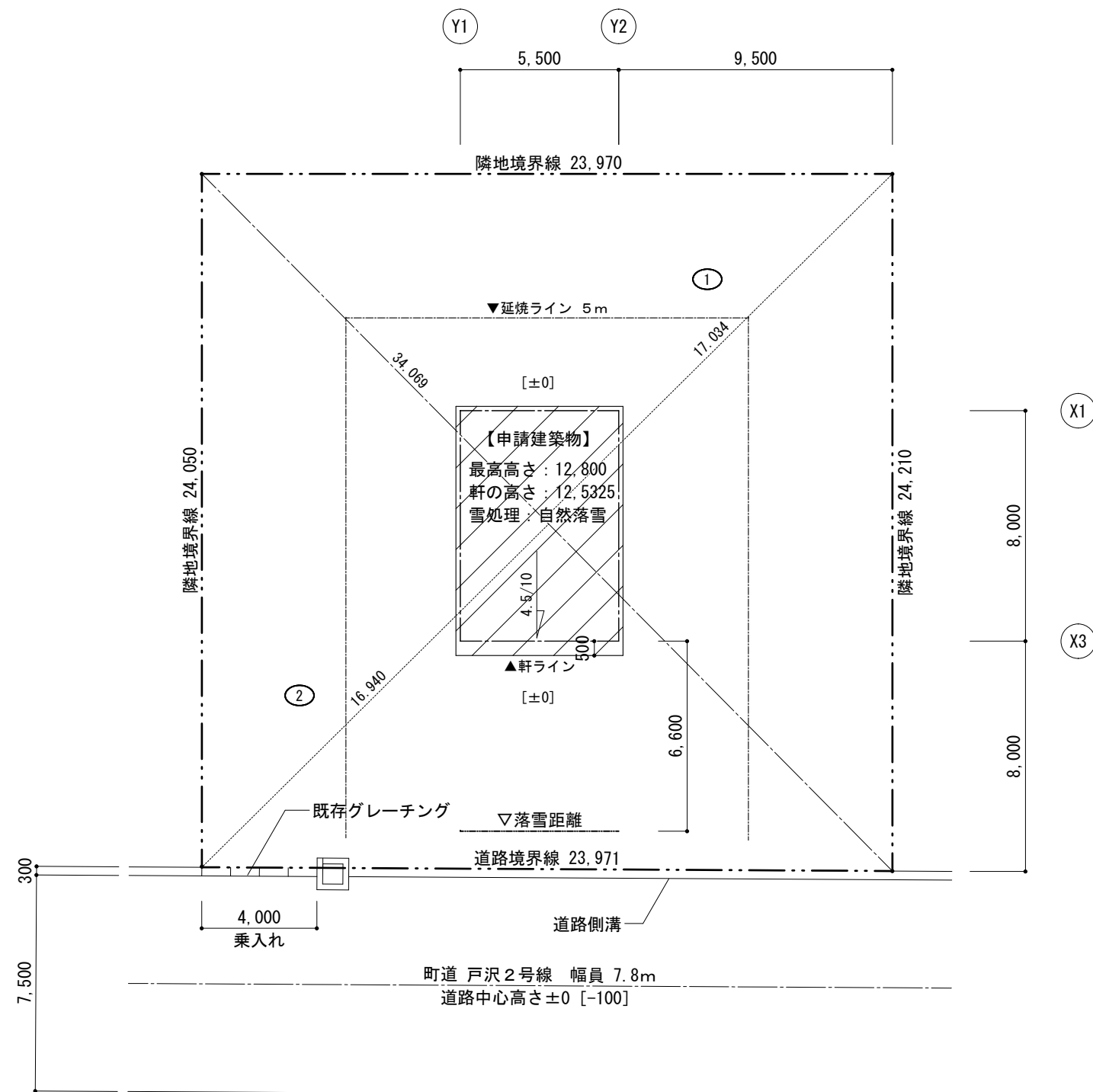
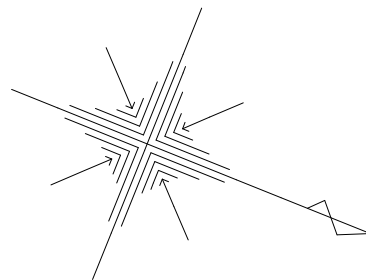
班

電話番号：



案内図

工事場所：新潟県 南魚沼郡 湯沢町 大字 神立 2586番地1
都市計画：区域内（区域区分非設定）
用途地域：無指定地域
容 積 率：200%
建ぺい率：70%
日影規制：無
防火地域：無
そ の 他：下水道処理区域



配置図

S=1:200
[※]=GL高さ

番号	底 辺	高 さ	倍 面 積	面 積
1	34.069	17.034	580.331346	290.1656730
2	34.069	16.940	577.128860	288.5644300
合 計				578.7301030
敷 地 面 積				578.73 m²

敷地求積表

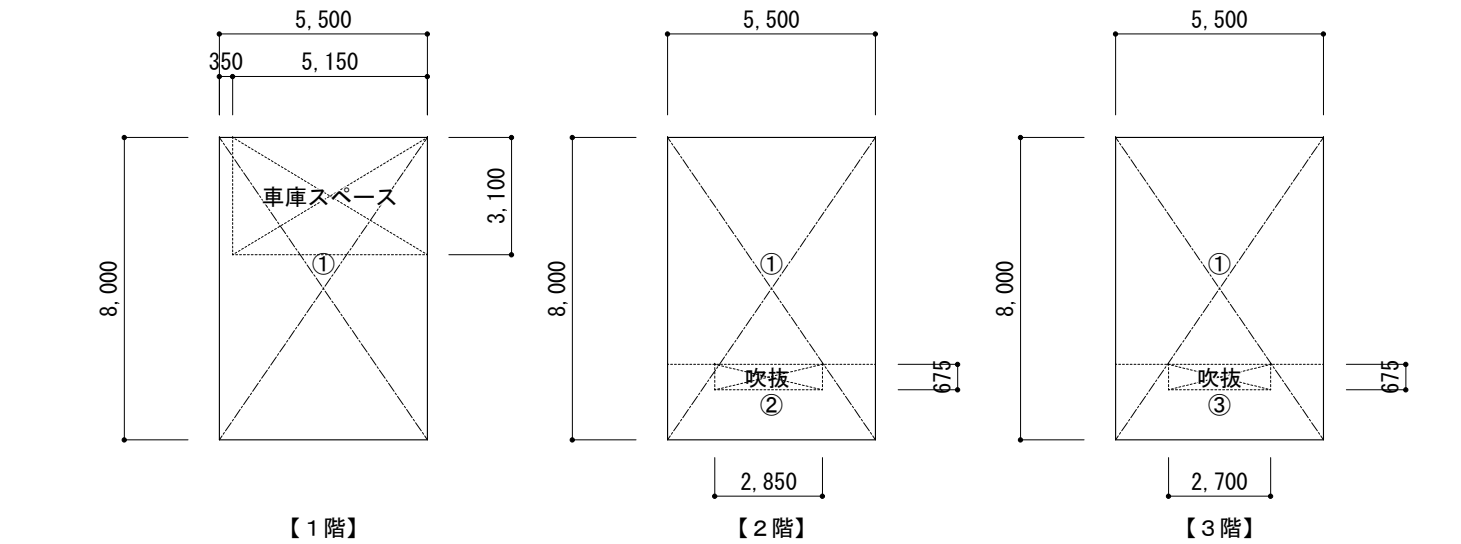
建築物概要	
工事名称	湯沢消防署 訓練塔 新築工事
工事場所	新潟県 南魚沼郡 湯沢町 大字 神立 2586番地1
工事種別	新築工事
用途地域	無指定地域
防火地域	指定なし
その他の地域等	下水道処理区域
工期	平成30年 月 日 ～ 平成30年 月 日
敷地面積	578.73㎡
建築面積	44.00㎡
延床面積	128.24㎡
建ぺい率	70%
容積率	200%
用途	消防訓練棟 (区分：08990)
階数	地上3階
最高の高さ	12.800 m
軒の高さ	12.5325 m
構造	鉄骨造
耐火区分	-
便所	-
電気設備	
衛生その他設備	訓練用送水管

外部仕上表	
屋 根	葺き板：カラーGL銅板 t=0.4mm 横葺き 下葺き：アスファルトルーフィング940 野地板：耐火野地板 t=18mm 母屋：C-100×50×20×2.3 SOP塗装
軒・軒裏	軒裏：リブ波カラー銅板 t=0.35mm 破風・鼻隠し：木板下地 カラーGL銅板巻き t=0.4mm
雨 樋	-
外 壁	ラワン合板 t=9.0mm + 防水シート下地 金属サイディング 縦張り t=15mm 胴縁：C-100×50×20×2.3
土台・水切り	カラーGL銅板加工 t=0.35mm
地 覆	コンクリート打放し
開口部	住宅用アルミサッシ・ドア（半外付） 軽量シャッター 三方枠
そ の 他	庇：既製品 D=350 登坂パネル：□45縦胴縁 + 2L-65×65×6 @600 + 耐水合板 t=12mm DP塗装（塗り分け） ロープ擦れ止め：SUS製曲げ加工 防雪ネット：SUS製金具・ワイヤー 雪囲い金物（市販品）+ 落とし板4枚 WP

特記事項

・カラーGL銅板＝塗装溶融55%7Mニウム亜鉛合金めっき銅板 JIS G3322 規格品

面積算定表



記号	算定式				建築面積		床面積						
							1階		2階		3階		
1	5.500	×	8.000	=	44.000	1	44.000	1	44.000	1	44.000		
2	2.850	×	0.675	=	▲ (1.923)	-	-	2	▲ (1.923)	-	-		
3	2.700	×	0.675	=	▲ (1.823)	-	-	-	-	3	▲ (1.823)		
					44.000		44.000		44.076		42.178		
44.00 m ²						44.00 m ²		42.07 m ²		42.17 m ²		延べ面積 128.24 m ²	

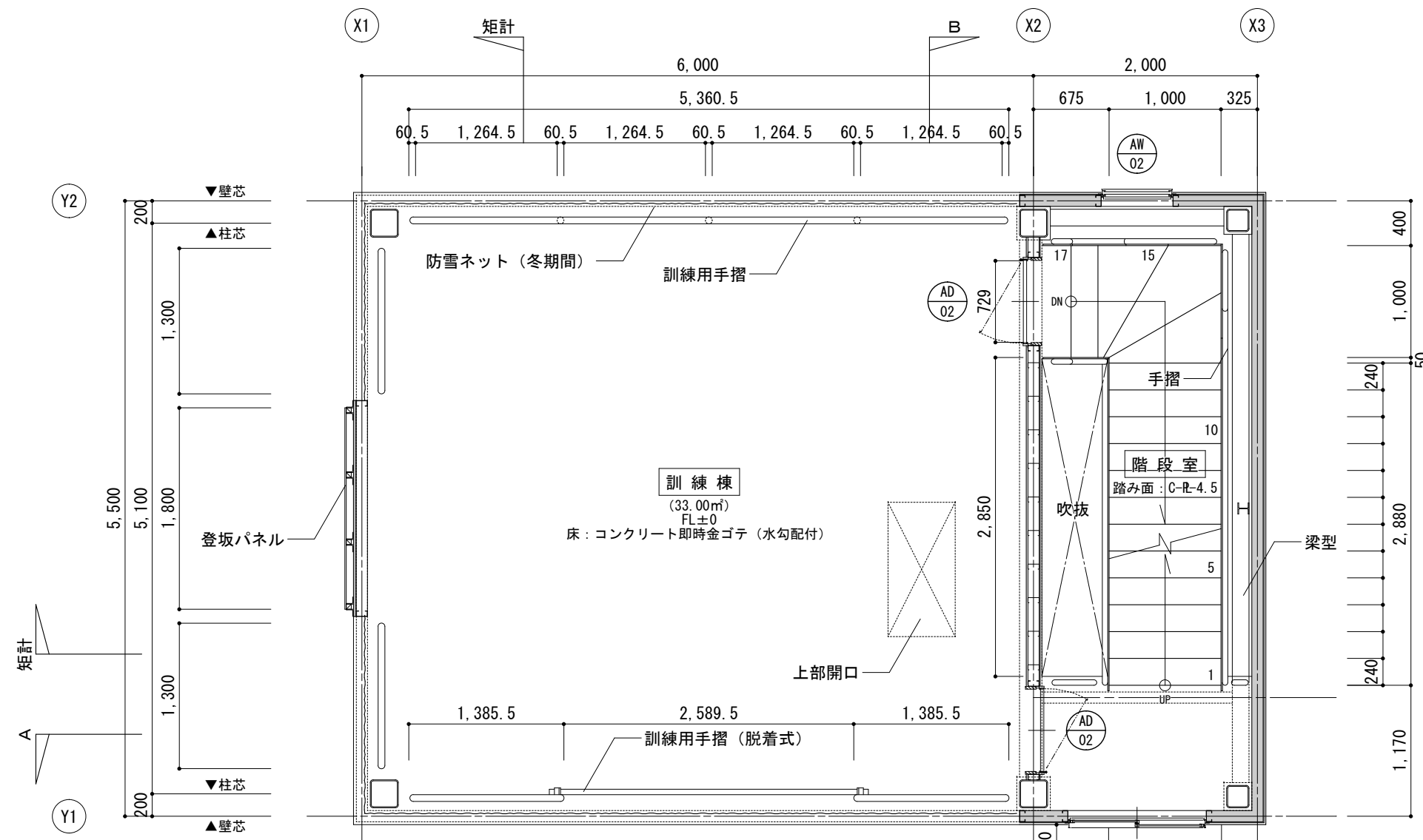
車庫スペース：5.150 × 3.100 = 15.965㎡ ≦ 128.24 / 5 (128.24 × 0.2 = 25.648㎡)
∴容積率算定 延べ面積 = 128.24 - 15.96 = 112.28㎡

内部仕上表

室名		床高	天井高	床		幅木・腰 仕上	壁		天井		廻縁	特記事項
				下地	仕上		下地	仕上	下地	仕上		
1階	訓練室	±0	-	D10 @250 捨てコンクリート：t=50mm 防湿処理：ポリエチレンフィルム t=0.15mm 砕石：t=120mm	コンクリート金ゴテ押え	-	鉄部（柱・胴縁）現し	下地調整 + 錆止め処理 + SOP塗装	デッキプレート t=1.2mm 亜鉛めっき処理品	-	――	
2階	訓練室	±0	-	D10 @200 デッキプレート t=1.2mm 亜鉛めっき処理品	コンクリート金ゴテ押え	-	LGS100形 鉄部（柱）現し	金属サイディング 縦張り t=15mm 下地調整 + 錆止め処理 + SOP塗装	デッキプレート t=1.2mm 亜鉛めっき処理品 鉄部（梁）現し	- 下地調整 + 錆止め処理 + SOP塗装	――	訓練用手摺：φ60.5 t=4.9 溶融亜鉛めっき（一部脱着式） 訓練用パイプ：φ60.5 t=4.9 溶融亜鉛めっき
3階	訓練室	±0	-	D10 @200 デッキプレート t=1.2mm 亜鉛めっき処理品	コンクリート金ゴテ押え	-	LGS100形 鉄部（柱）現し	金属サイディング 縦張り t=15mm 下地調整 + 錆止め処理 + SOP塗装	鉄部（梁・母屋）現し	下地調整 + 錆止め処理 + SOP塗装	――	床：一部 防塵塗料塗装（赤色） 白線ライン W=50mm 揚上用架台 φ76.3 t=5.2、φ60.5 t=4.9 溶融亜鉛めっき 床ハッチ：縞鋼板 t=4.5mm 補強リブ材 L-40×40×5 SOP / 指穴開口 / 落下防止チェーン 訓練用手摺：φ60.5 t=4.9 溶融亜鉛めっき（一部脱着式） 訓練用パイプ：φ60.5 t=4.9 溶融亜鉛めっき
共通	階段室	-	-	C.R-4.5	下地調整 + 錆止め処理 + SOP塗装	ササラ：R-12 下地調整 + 錆止め処理 + SOP塗装	LGS100形 鉄部（柱・胴縁）現し	ラワン合板 t=9.0mm張り 下地調整 + 錆止め処理 + SOP塗装	-	-	――	手摺：下地調整 + 錆止め処理 + SOP塗装

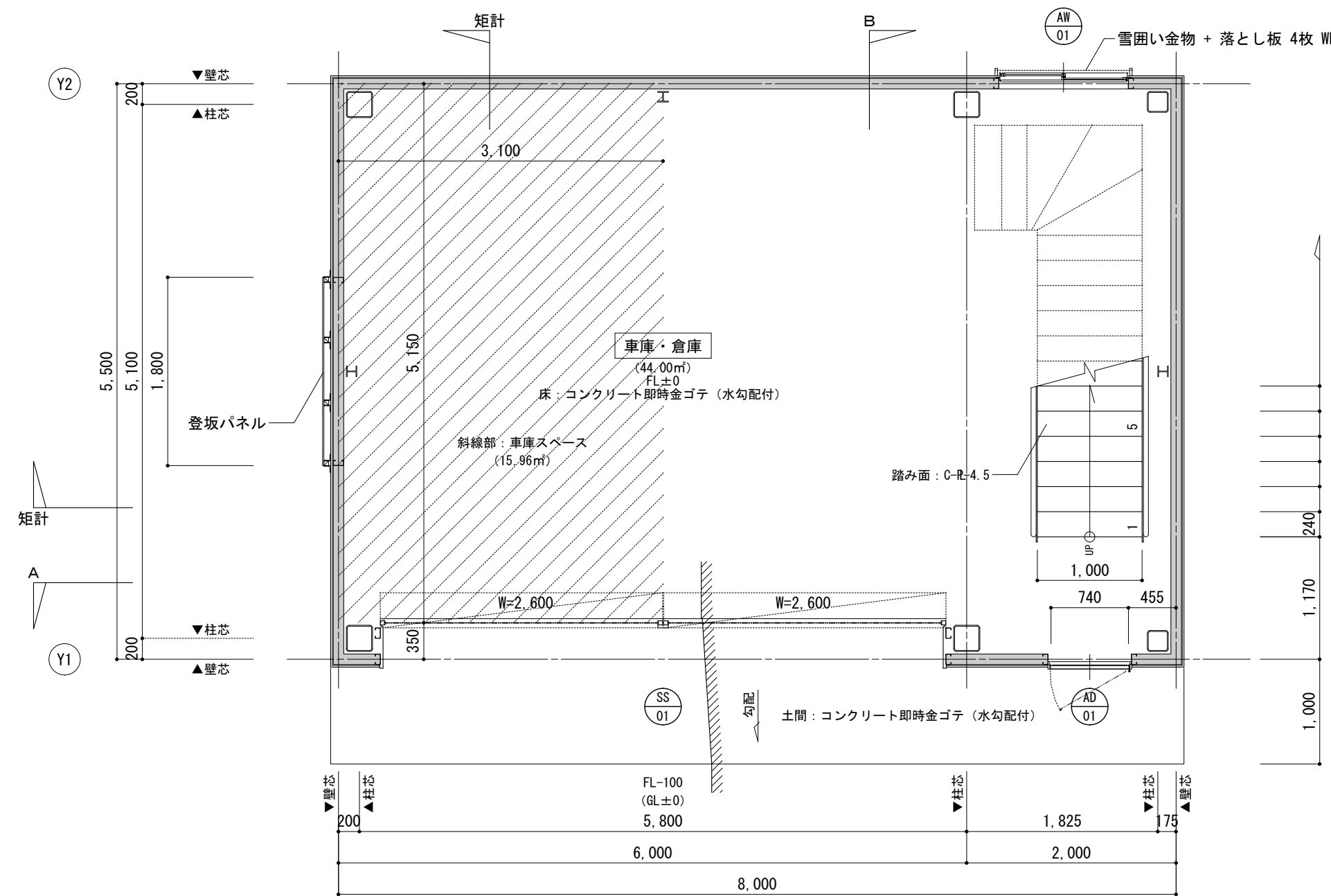
【凡 例】 SOP・・・合成樹脂調合塗料（不燃認定番号：NM-8585） DP・・・耐候性塗料 EP・・・合成樹脂エマルジョン塗料 UC・・・ウレタン樹脂ワニス CL・・・クリアラッカー WP・・・木材保護塗料

	一級建築士事務所 株式会社 富所設計 一級建築士 建設大臣登録 第114217号 富所清治 新潟県南魚沼市君沢525 TEL 025-783-3150				PROJECT 南魚沼市 湯沢消防署 訓練塔 新築工事	DATE 2018/02	No. A-07
					TITLE 建物概要・面積表・仕上表	SCALE -	



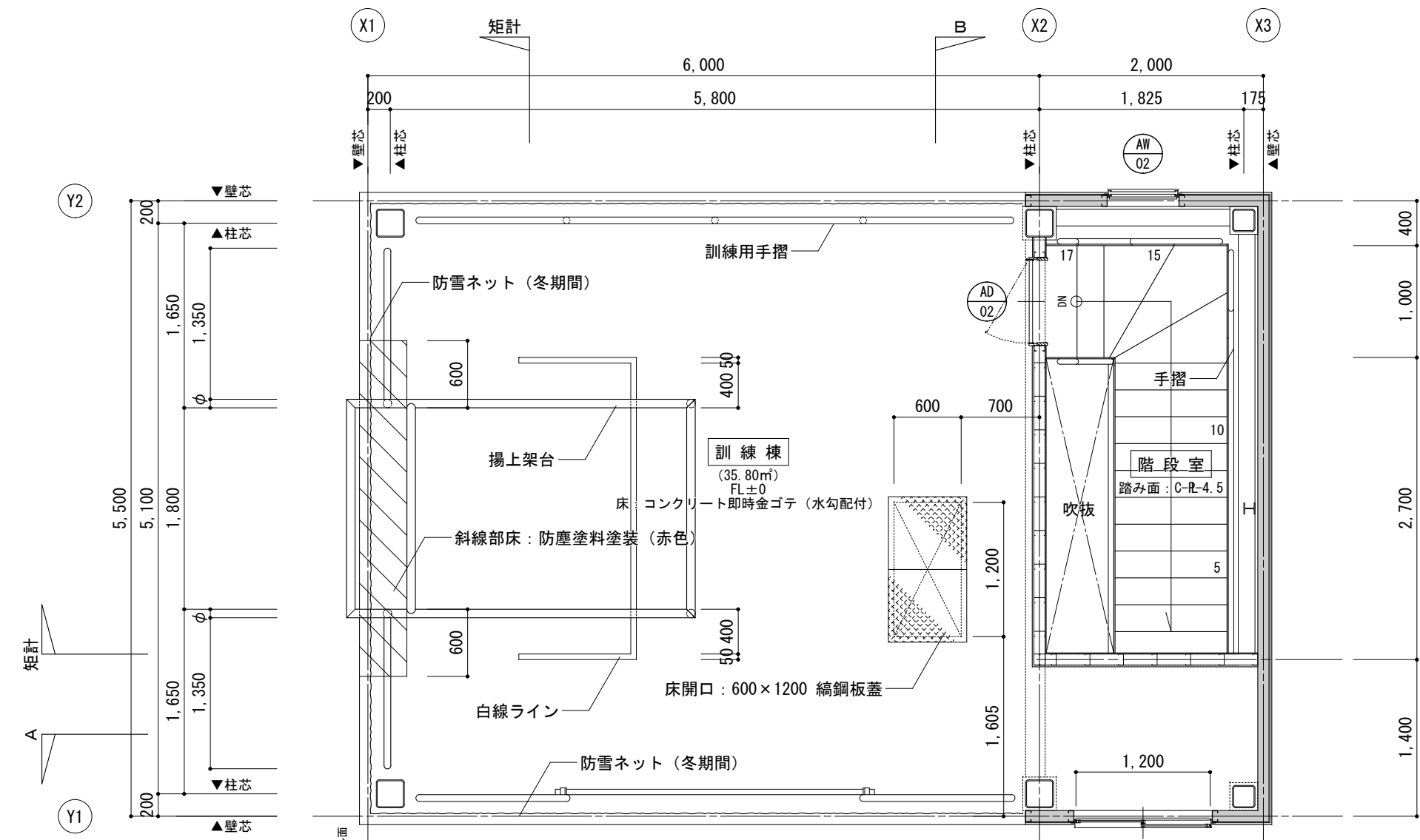
2 階 平 面 図

S=1:50



1 階 平 面 図

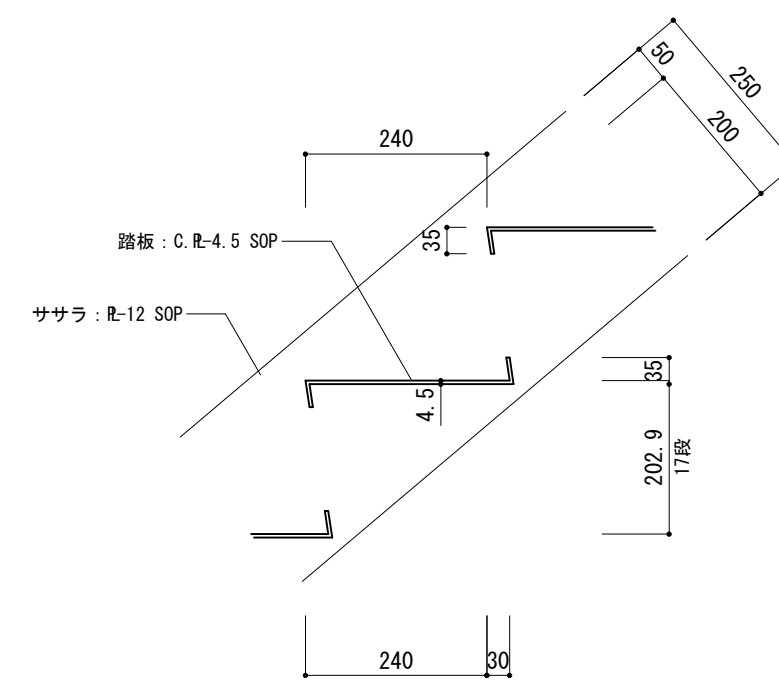
S=1:50



3 階 平 面 図

S=1:50

※φ=76.3



階段詳細図

S=1:10

凡 例

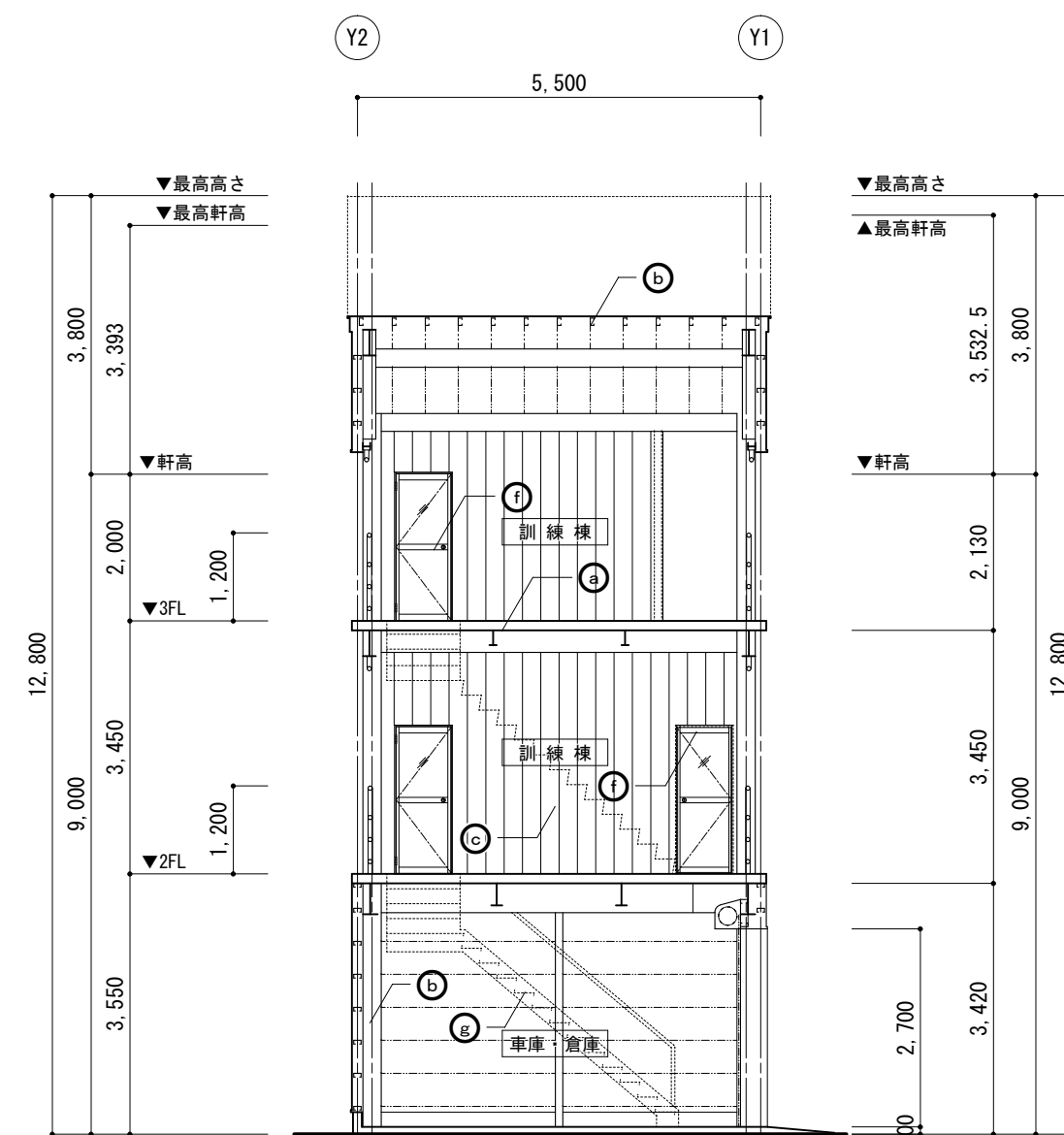
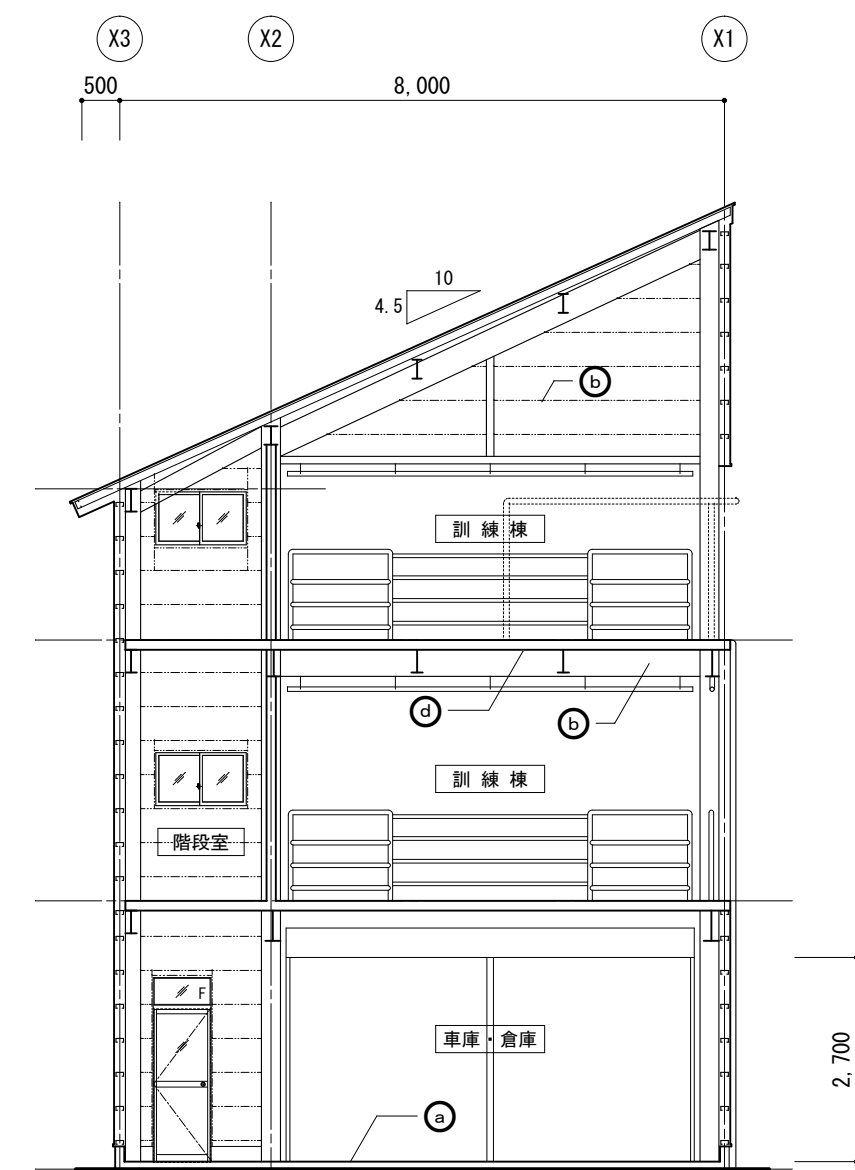
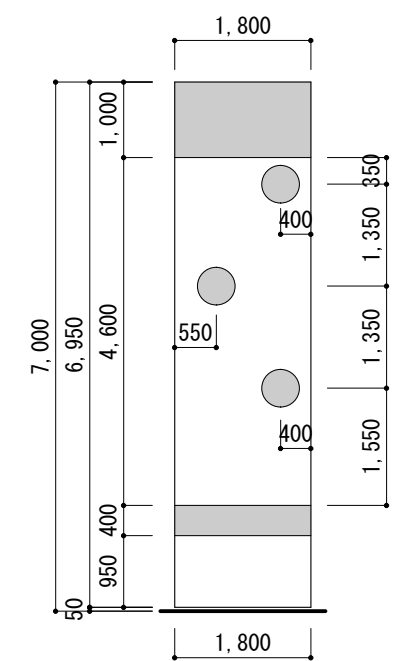
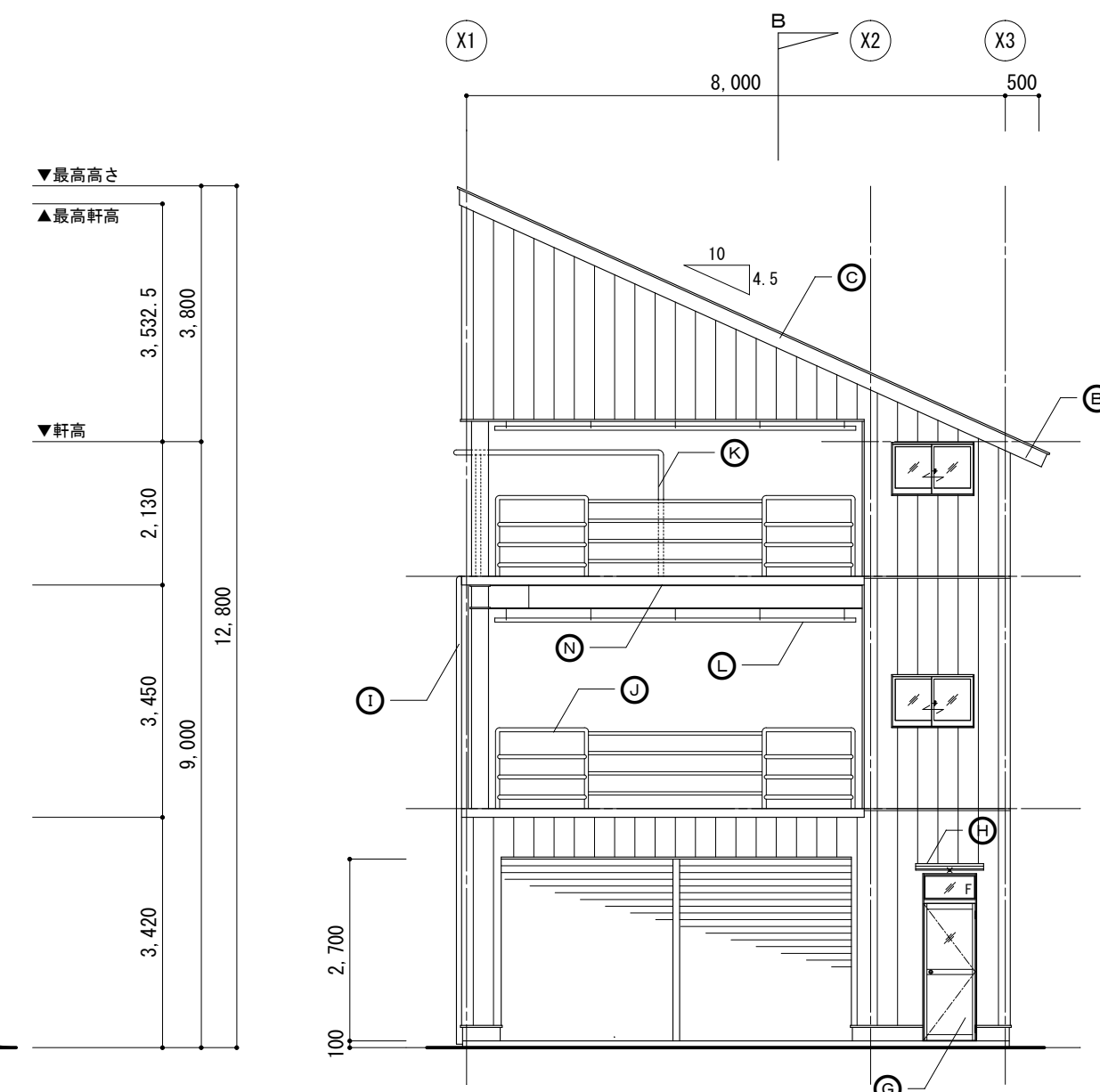
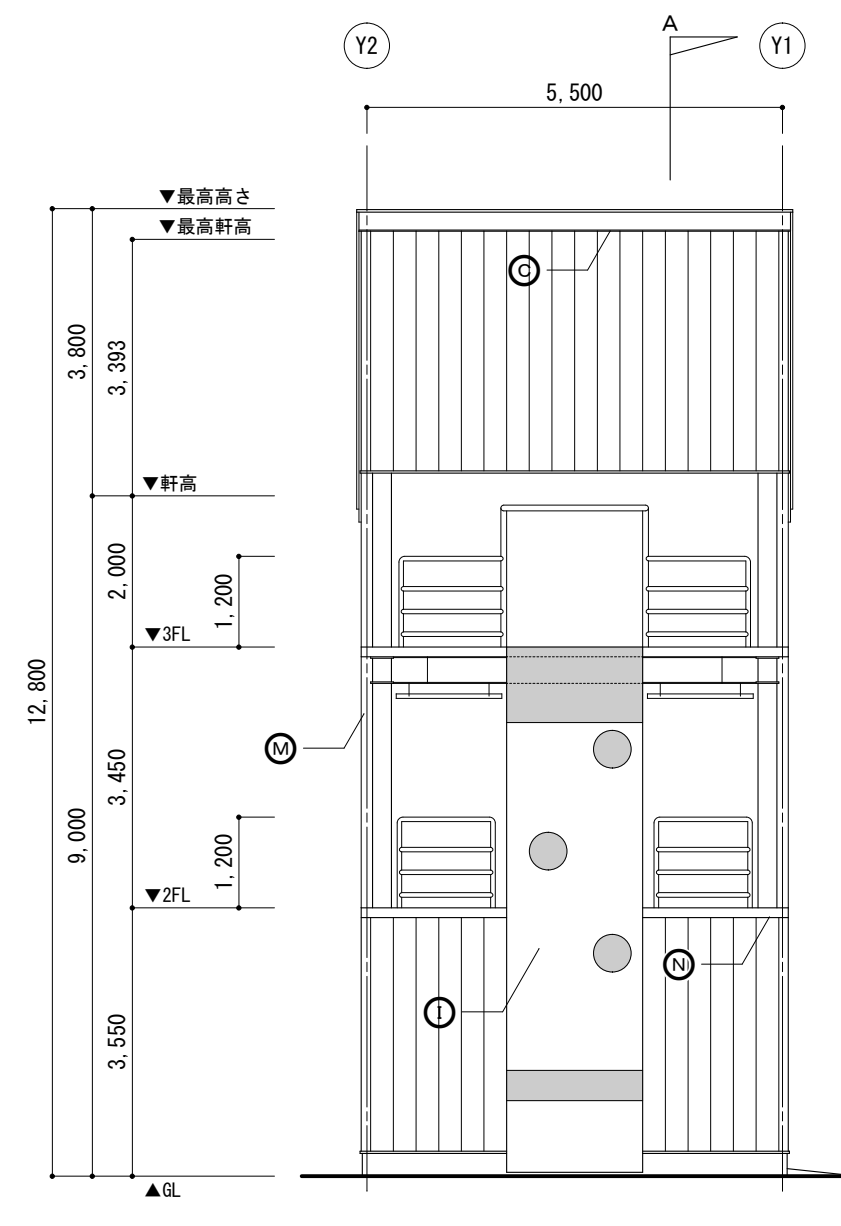
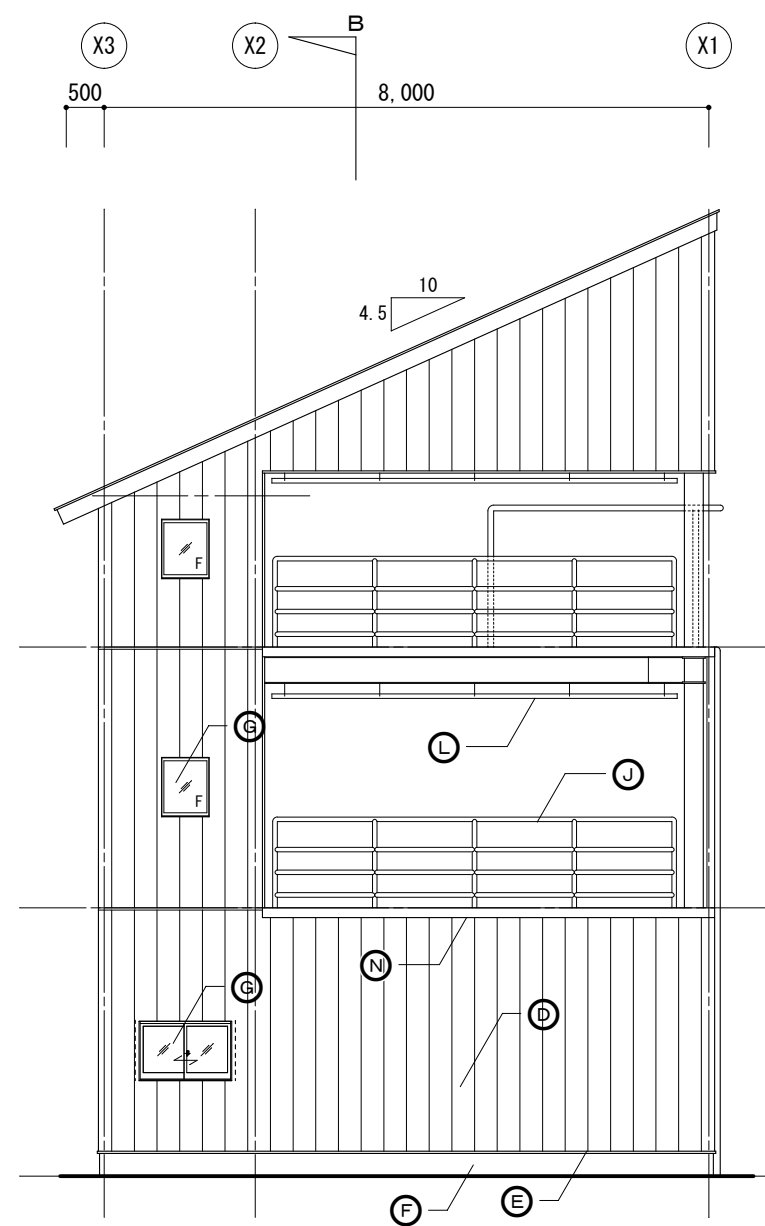
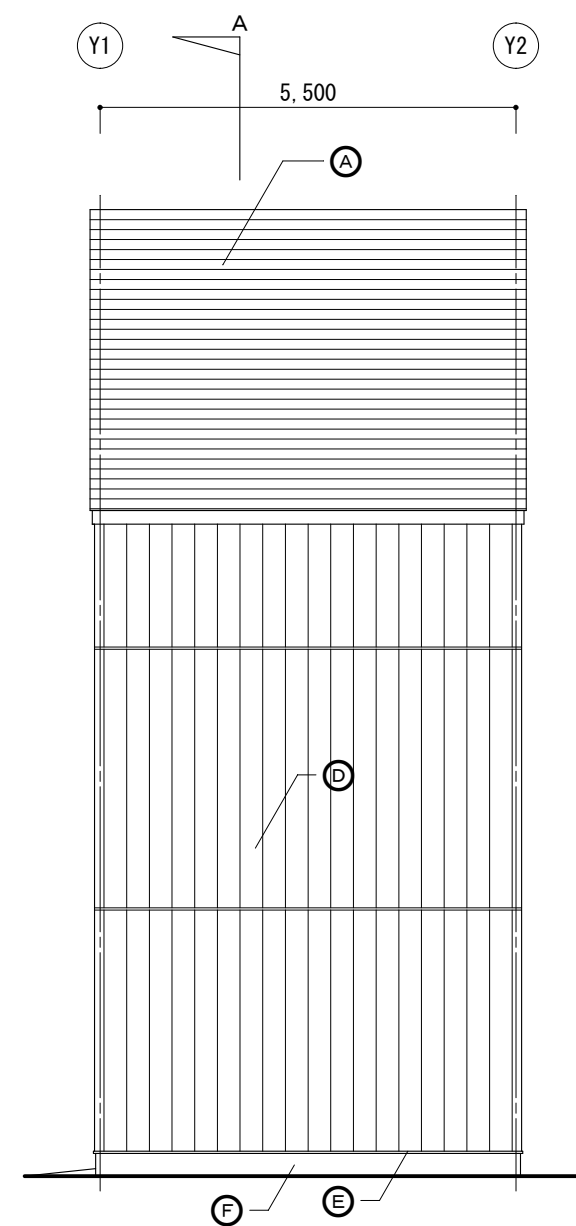
※ 01 建具番号

一級建築士事務所
株式会社 富所設計
一級建築士 建設大臣登録 第114217号 富所 清 治
新潟県南魚沼市君沢525 TEL 025-783-3150

PROJECT 南魚沼市 湯沢消防署 訓練塔 新築工事
TITLE 各 階 平 面 図

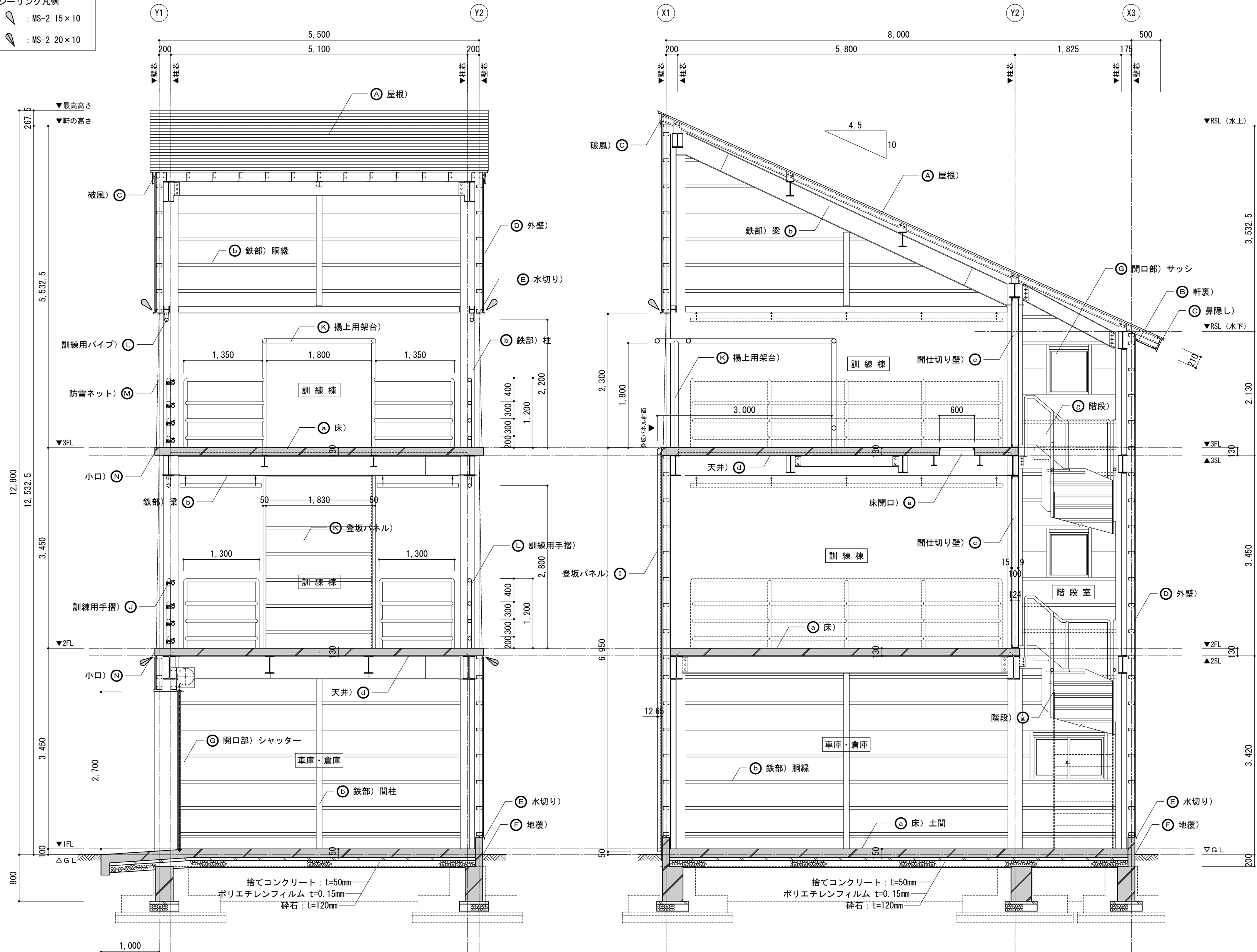
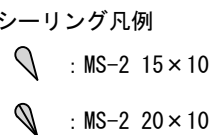
DATE 2018/02
SCALE 1/50 (A2)

N. No. A-08



外部仕上表	
Ⓐ	屋根 葺き板：カラーGL鋼板 t=0.4mm 横葺き 下葺き：アスファルトルーフィング940 野地板：耐火野地板 t=18mm 母屋：C-100×50×20×2.3 S0P塗装
Ⓑ	軒裏 リブ波カラー鋼板 t=0.35mm
Ⓒ	破風・鼻隠し 木板下地 カラーGL鋼板巻き t=0.4mm
Ⓓ	外壁 ラワン合板 t=9.0mm + 防水シート下地 金属サイディング 縦張り t=15mm 胴縁：C-100×50×20×2.3 S0P塗装
Ⓔ	水切り カラーGL鋼板加工 t=0.35mm
Ⓕ	地覆 コンクリート打放し
Ⓖ	開口部 住宅用アルミサッシ・ドア（半外付） 軽量シャッター，三方枠：ボンデ鋼板 S0P
Ⓖ	庇 既製品
Ⓘ	登坂パネル 耐水合板 t=12mm DP塗装（塗り分け） 下地：□45縦胴縁 + 2L-65×65×6 @600 ローブ擦れ止め：SUS製曲げ加工
Ⓙ	訓練用手摺 φ60.5 t=4.9 溶融亜鉛めっき（一部脱着式）
Ⓚ	揚上用架台 φ76.3 t=5.2, φ60.5 t=4.9 溶融亜鉛めっき
Ⓛ	訓練用パイプ φ60.5 t=4.9 溶融亜鉛めっき
Ⓜ	防雪ネット SUS製金具・ワイヤー
Ⓝ	デッキプレート小口塞ぎ R-1.6 S0P塗装
Ⓖ	雪囲い金物（市販品） 落とし板 4枚 WP

[illegible]



矩 計 図

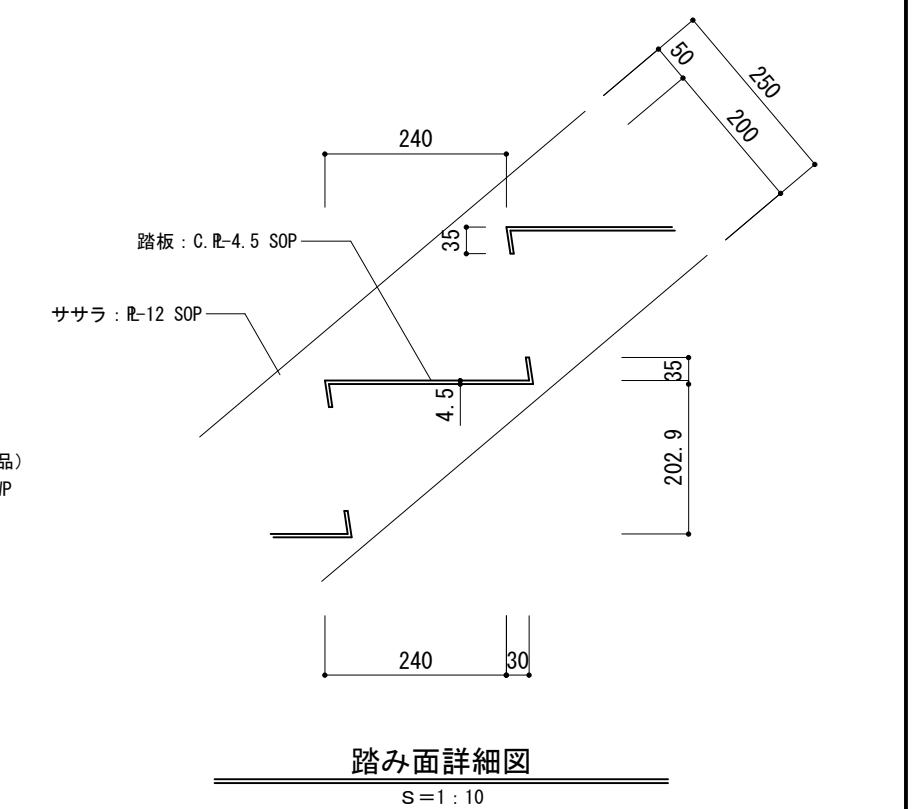
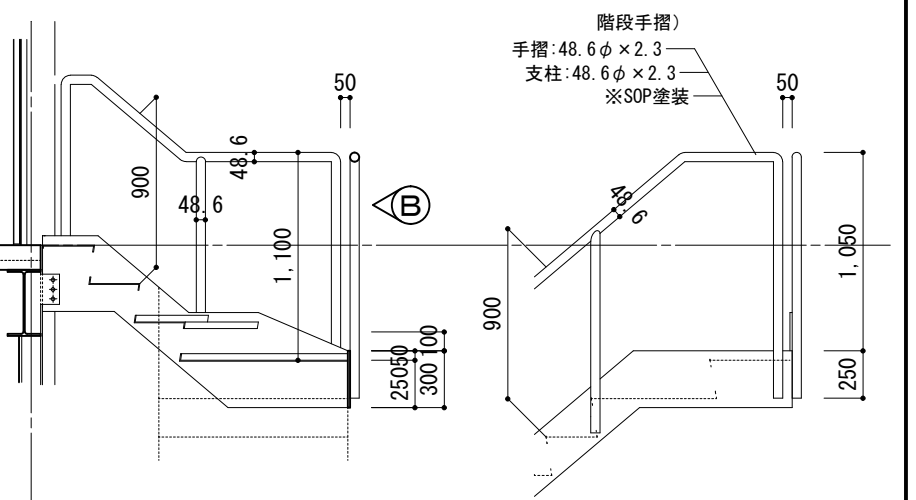
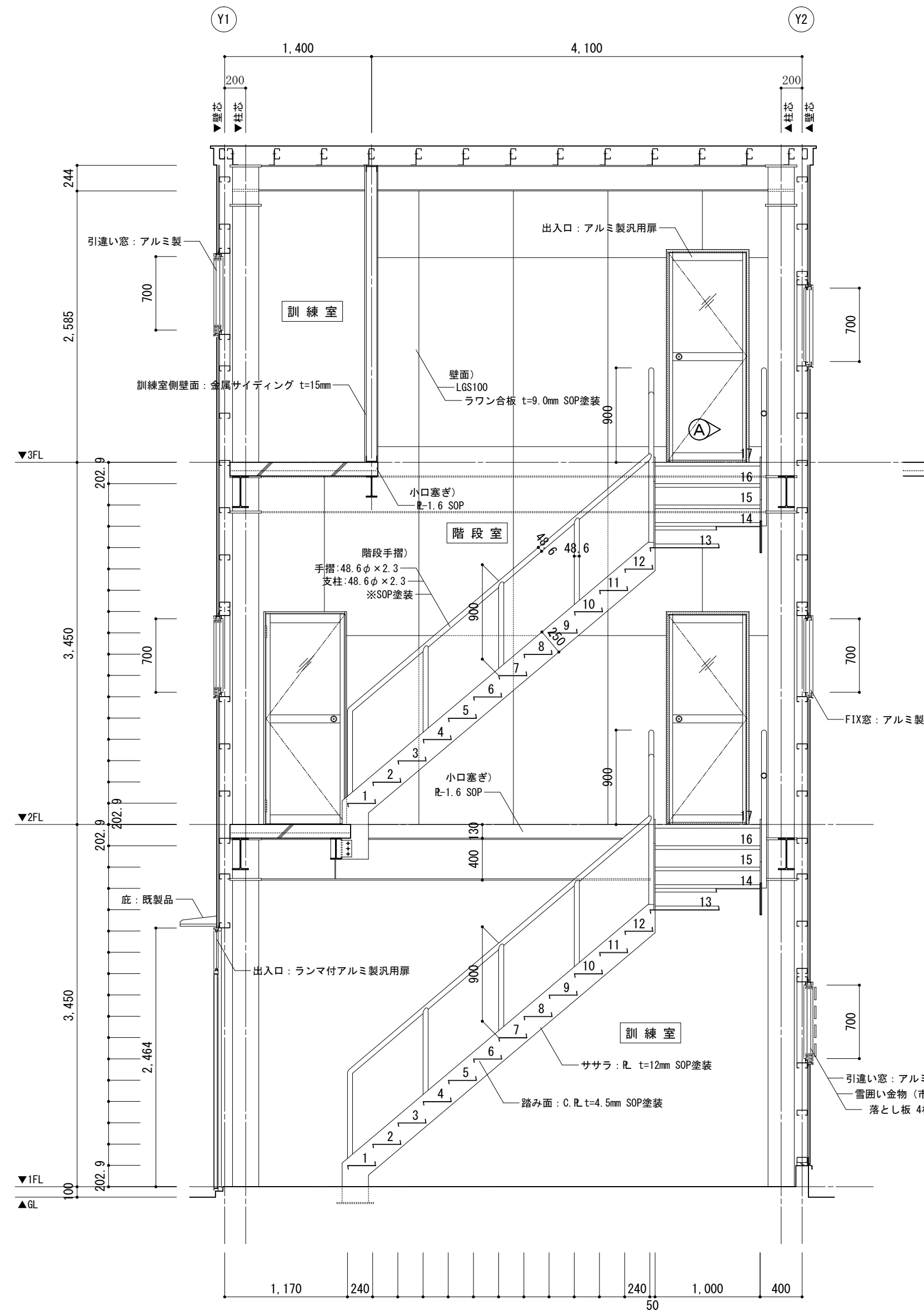
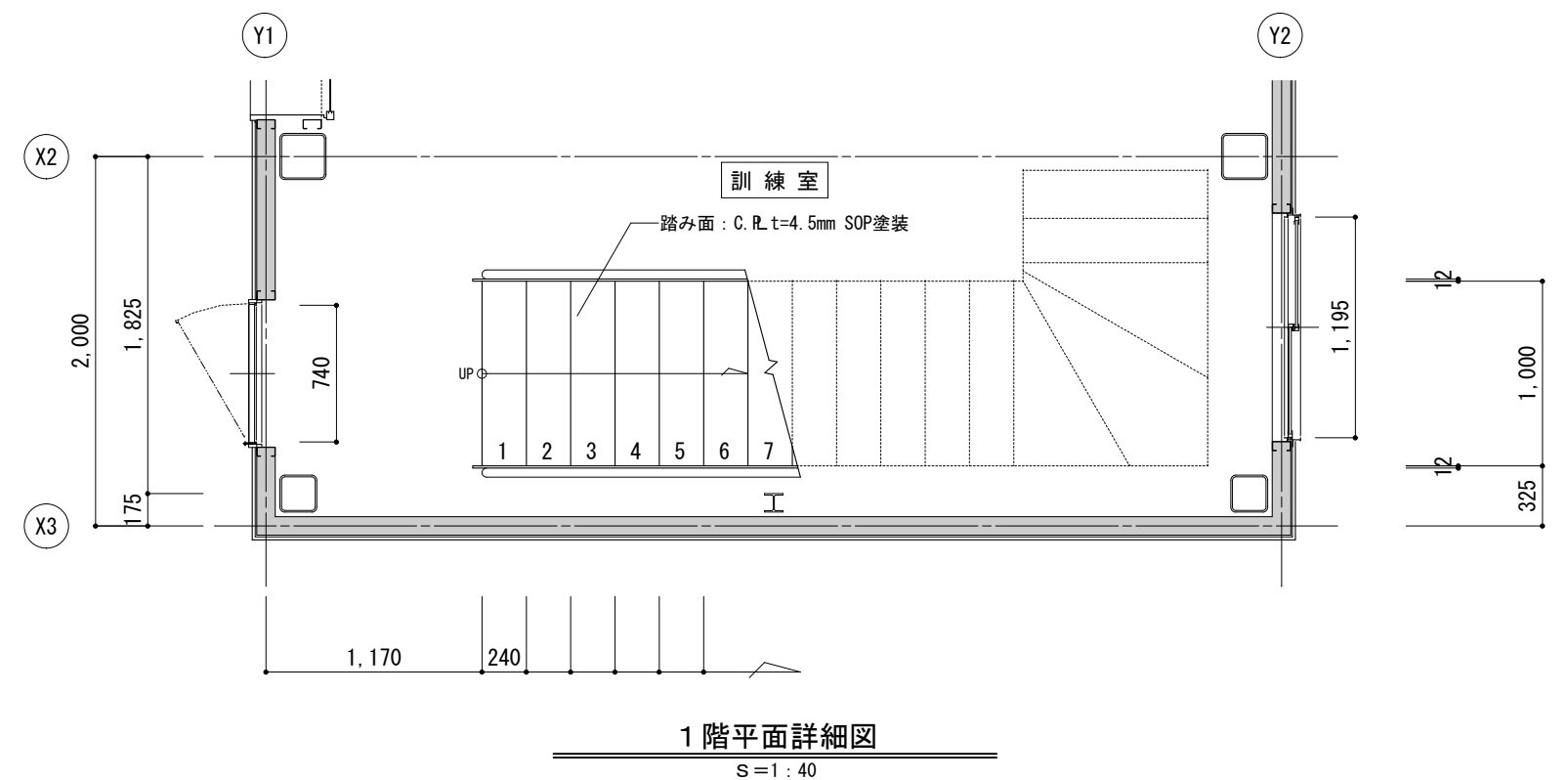
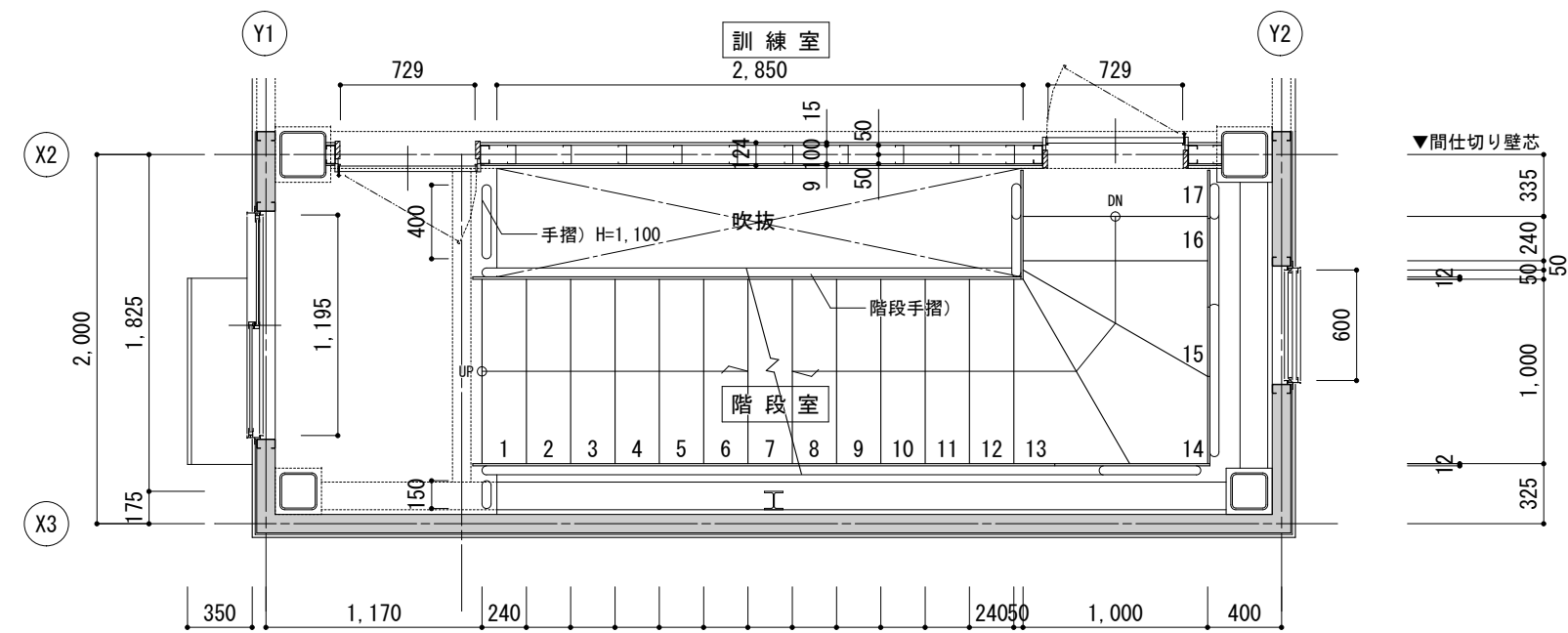
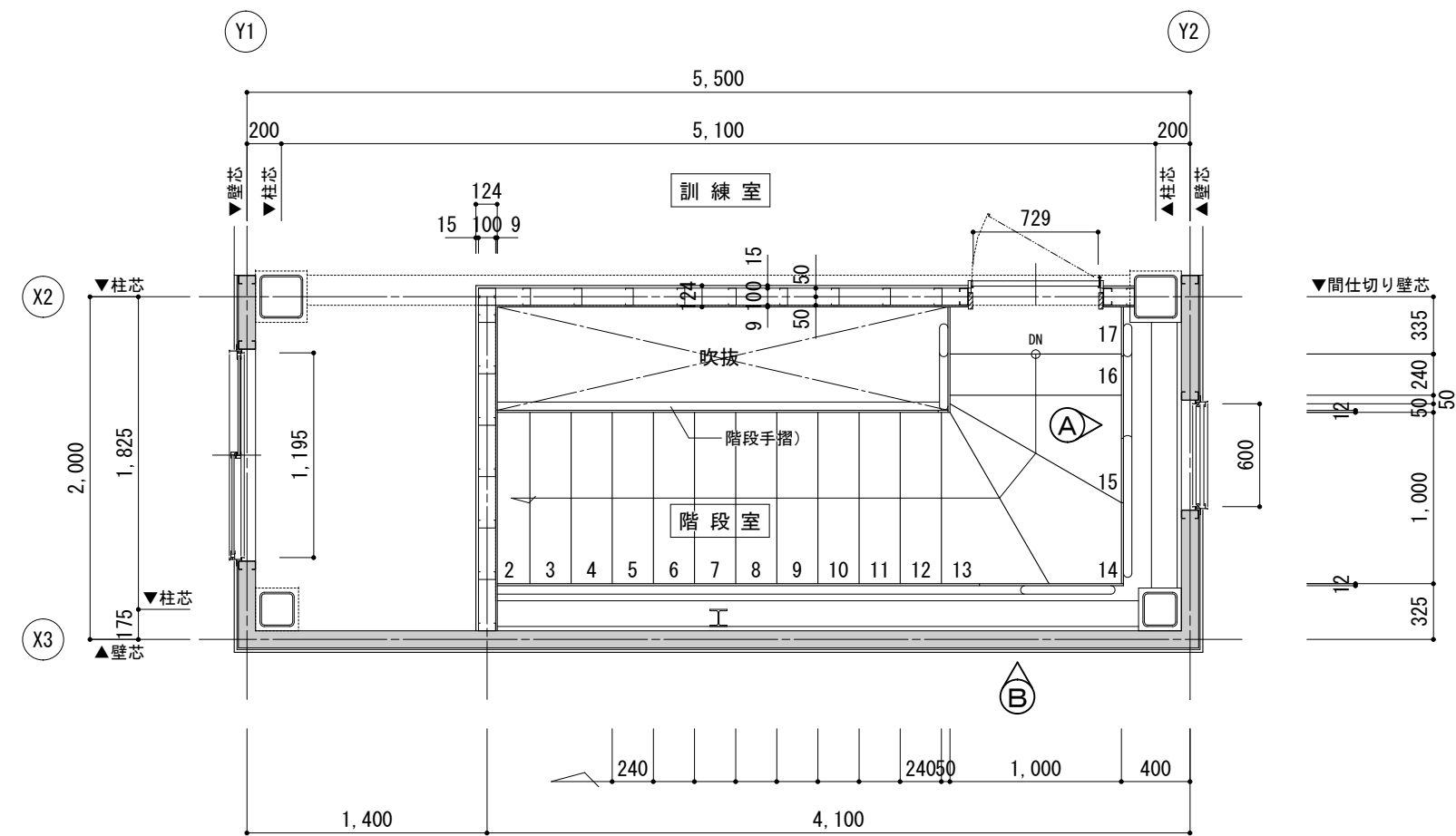
S = 1 : 50

矩 計 図

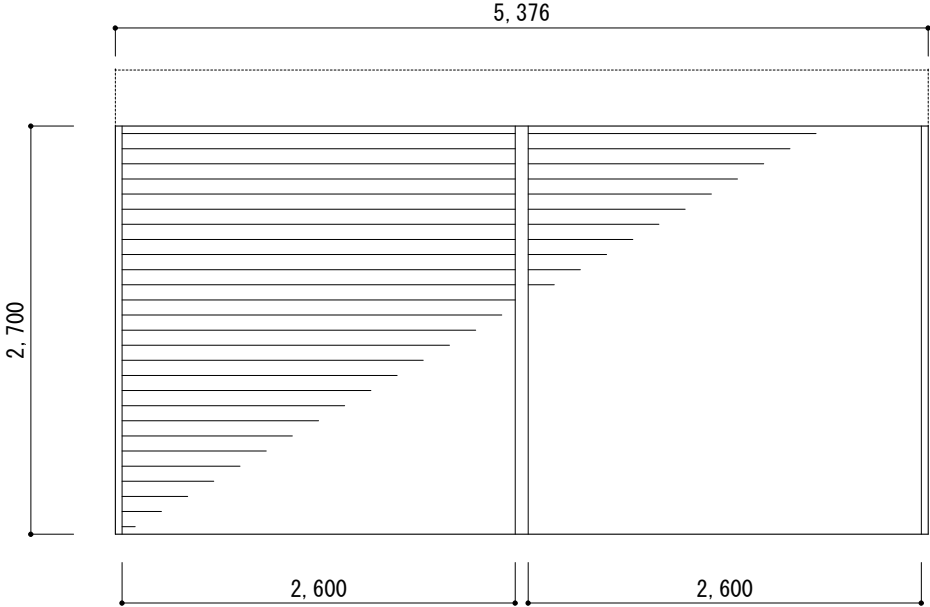
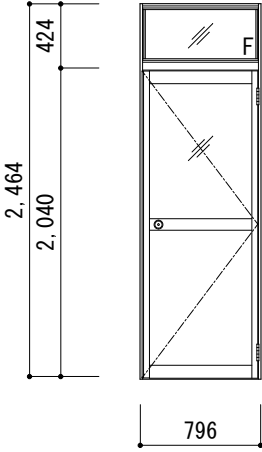
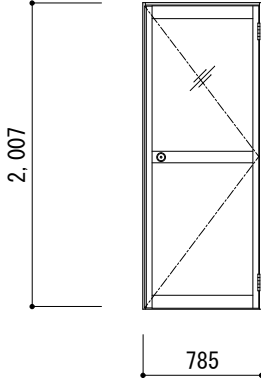
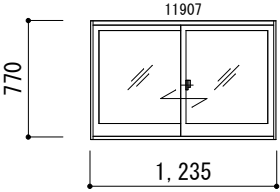
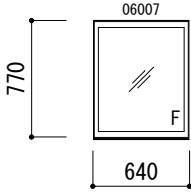
S = 1 : 50

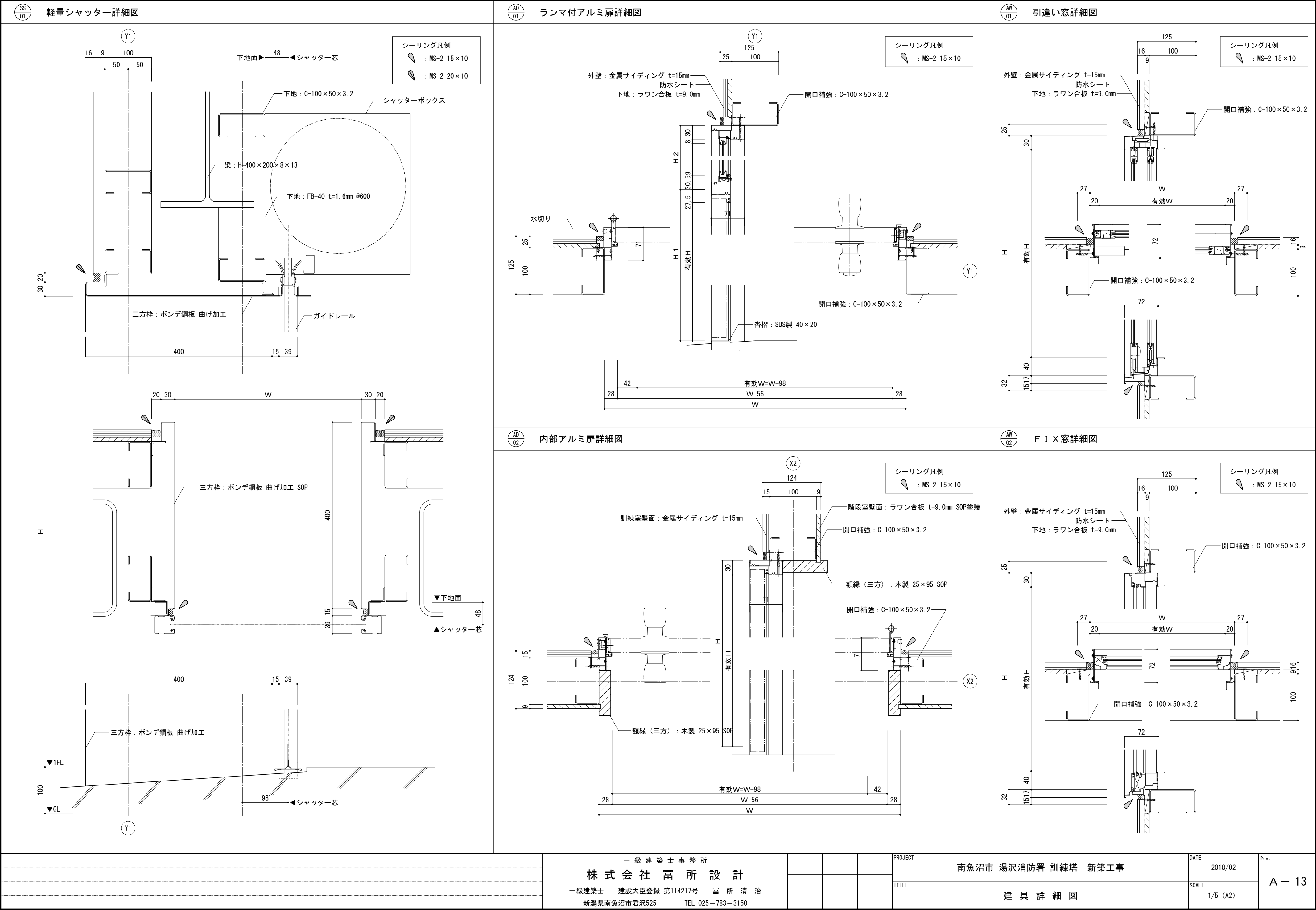
外部仕上表		
(A)	屋根	葺き板：カラー-GL鋼板 $t=0.4\text{mm}$ 横葺き 下葺き：アスファルトルーフィング940 野地板：耐火野地板 $t=18\text{mm}$ 母屋：C-100×50×20×2.3 S0P塗装
(B)	軒裏	リブ波カラー鋼板 $t=0.35\text{mm}$
(C)	破風・鼻隠し	木板下地 カラー-GL鋼板巻き $t=0.4\text{mm}$
(D)	外壁	ラワン合板 $t=9.0\text{mm}$ + 防水シート下地 金属サイディング 縦張り $t=15\text{mm}$ 胴縁：C-100×50×20×2.3 S0P塗装
(E)	水切り	カラー-GL鋼板加工 $t=0.35\text{mm}$
(F)	地覆	コンクリート打放し
(G)	開口部	住宅用アルミサッシ・ドア（半外付） 軽量シャッター，三方枠：ボンデ鋼板 S0P
(H)※	庇	既製品
(I)	登坂パネル	耐水合板 $t=12\text{mm}$ DP塗装（塗り分け） 下地：□45縦胴縁 + 2L-65×65×6 @600 ロープ擦れ止め：SUS製曲げ加工
(J)	訓練用手摺	φ60.5 $t=4.9$ 溶融亜鉛めっき（一部脱着式）
(K)	揚上用架台	φ76.3 $t=5.2$, φ60.5 $t=4.9$ 溶融亜鉛めっき
(L)	訓練用パイプ	φ60.5 $t=4.9$ 溶融亜鉛めっき
(M)	防雪ネット	SUS製金具・ワイヤー
(N)	デッキプレート小口塞ぎ	R-1.6 S0P塗装
(O)	雪囲い金物（市販品）	落とし板 4枚 WP

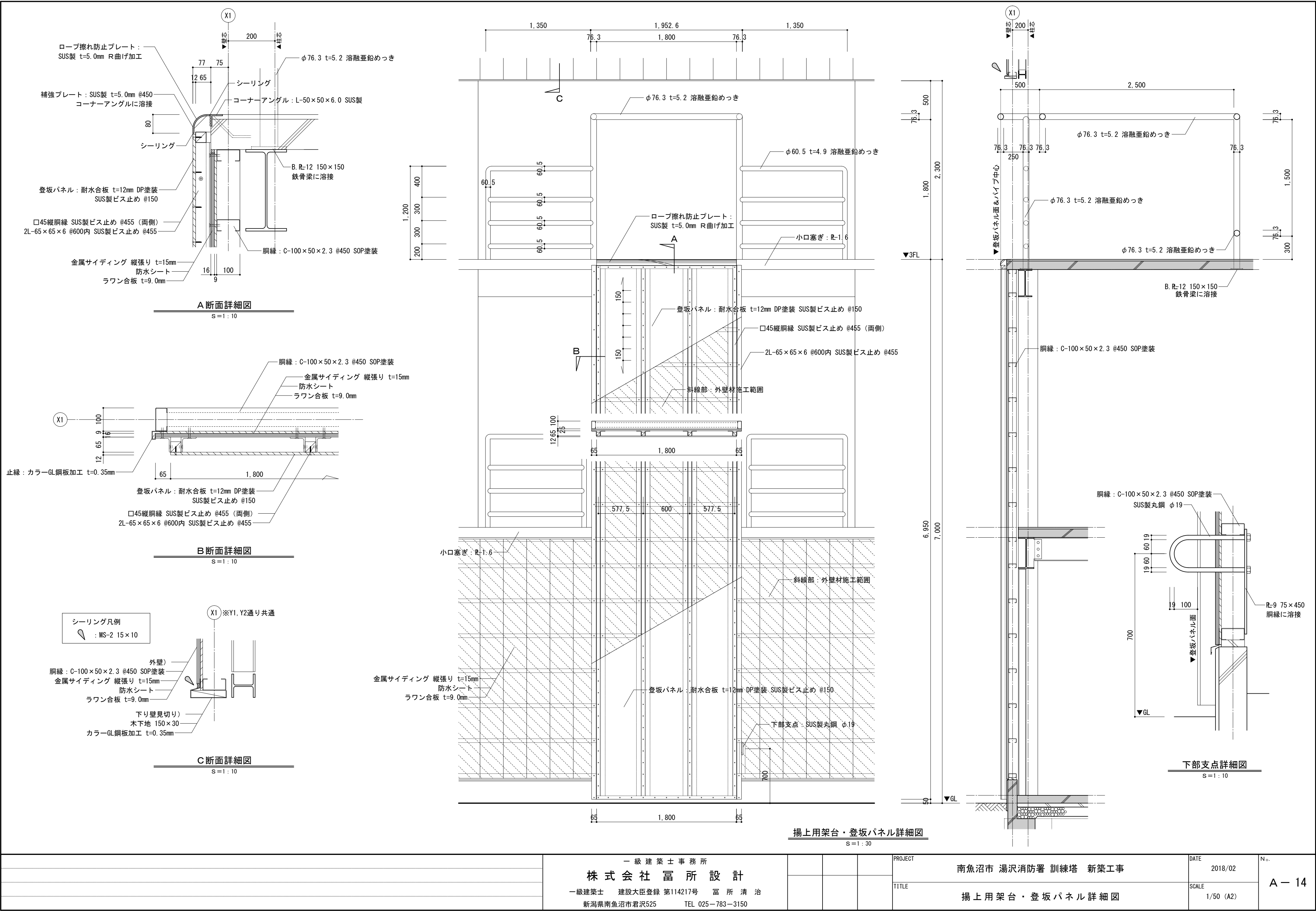
[illegible]



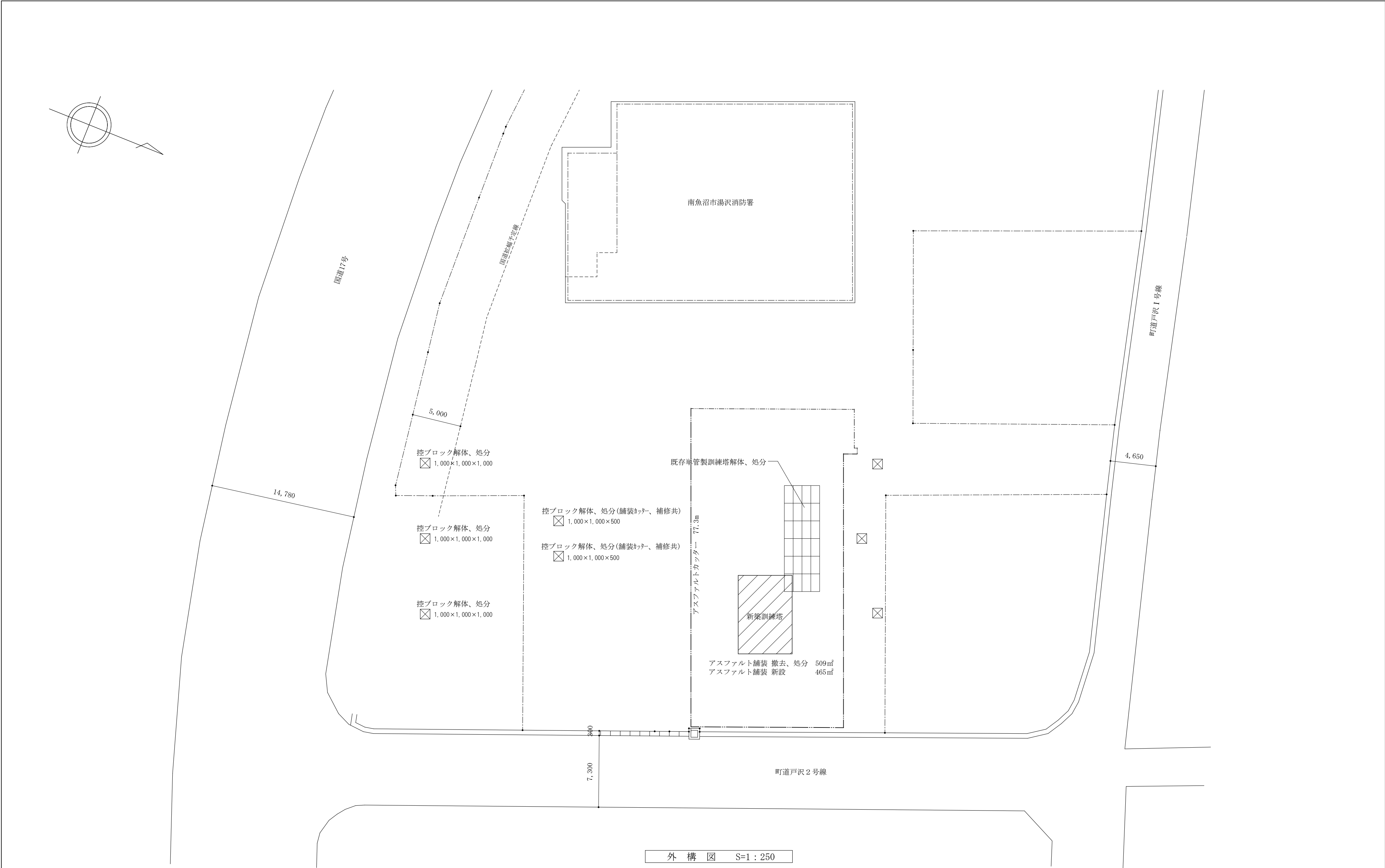
一級建築士事務所 株式会社 富所設計 一級建築士 建設大臣登録 第114217号 富所 清治 新潟県南魚沼市君沢525 TEL 025-783-3150				PROJECT 南魚沼市 湯沢消防署 訓練塔 新築工事	DATE 2018/02	No. A-11
				TITLE 階段詳細図	SCALE 1/40 1/10 (A2)	

記 号		数 量	SS 01	1F : 1 2F : 0 3F : 0	1	AD 01	1F : 1 2F : 0 3F : 0	1	AD 02	1F : 0 2F : 2 3F : 1	3	AW 01	1F : 1 2F : 1 3F : 1	3	AW 02	1F : 0 2F : 1 3F : 1	2
姿 図								住宅用 半外付けドア			住宅用 半外付けドア			住宅用 半外付けサッシ			住宅用 半外付けサッシ
名 称	見 込	軽量バランスシャッター			59	ランマ付片開きドア		71	片開きドア		71	引違い窓		72	FIX窓		72
場 所		1 F : 訓練室				1 F : 訓練室			2 F・3 F : 訓練室			各階 : 訓練室			2 F・3 F : 訓練室		
仕 上		塗装溶融垂鉛めっき				陽極酸化塗装複合皮膜			陽極酸化塗装複合皮膜			陽極酸化塗装複合皮膜			陽極酸化塗装複合皮膜		
材 種		鋼板製スラット t=0.8mm				アルミ形材			アルミ形材			アルミ形材			アルミ形材		
ガ ラ ス		-				網入り型板ガラス t=6.8mm / アルミパネル			透明ガラス t=3.0mm / アルミパネル			型板ガラス t=4.0mm×1ヶ所 / 透明ガラス t=3.0mm×2ヶ所			透明ガラス t=3.0mm		
金 物		錠 / ガイドレール / 補強中柱 / シャッターボックス / 附属金物一式				握り玉 / 吝摺 : ステンレス製 40×20 t=2.0mm / 附属金物一式			握り玉 / 附属金物一式			附属金物一式			附属金物一式		
備 考		三方枠 : ボンデ鋼板 / 取付下地 : C-100×50×3.2 + FB-1.6×40				-			額縁 : 木製 SOP			雪囲い金物・落とし板 4枚 WP (一階部分)					
記 号	数 量																
姿 図																	
名 称	見 込																
場 所																	
仕 上																	
材 種																	
ガ ラ ス																	
金 物																	
備 考																	
【 特 記 事 項 】		1. 施工図を作成し承認を受けた後、製作にかかること。 2. 金具類は全て見本又はカタログを提出し承認を受ける。 3. 建具は二重養生とすること。 4. クレセント及びオペレーターの取付位置はFL+800~1,500とすること。 5. 内部額縁、アングルの下端は結露受型とする。 6. D○は原則としてストップバー付とする。 7. 建具の開き勝手は平面図による。 8. 戸当り（壁付・床付）は現場係員の指示による。 9. 網戸はガラス繊維入り合成樹脂製とする。 10. 錠種類・位置は施設管理者との協議による															
						一 級 建 築 士 事 務 所 株 式 会 社 富 所 設 計 一級建築士 建設大臣登録 第114217号 富 所 清 治 新潟県南魚沼市君沢525 TEL 025—783—3150							PROJECT 南魚沼市 湯沢消防署 訓練塔 新築工事			DATE 2018/02	No. A－12
													TITLE 建 具 表			SCALE 1/50 (A2)	



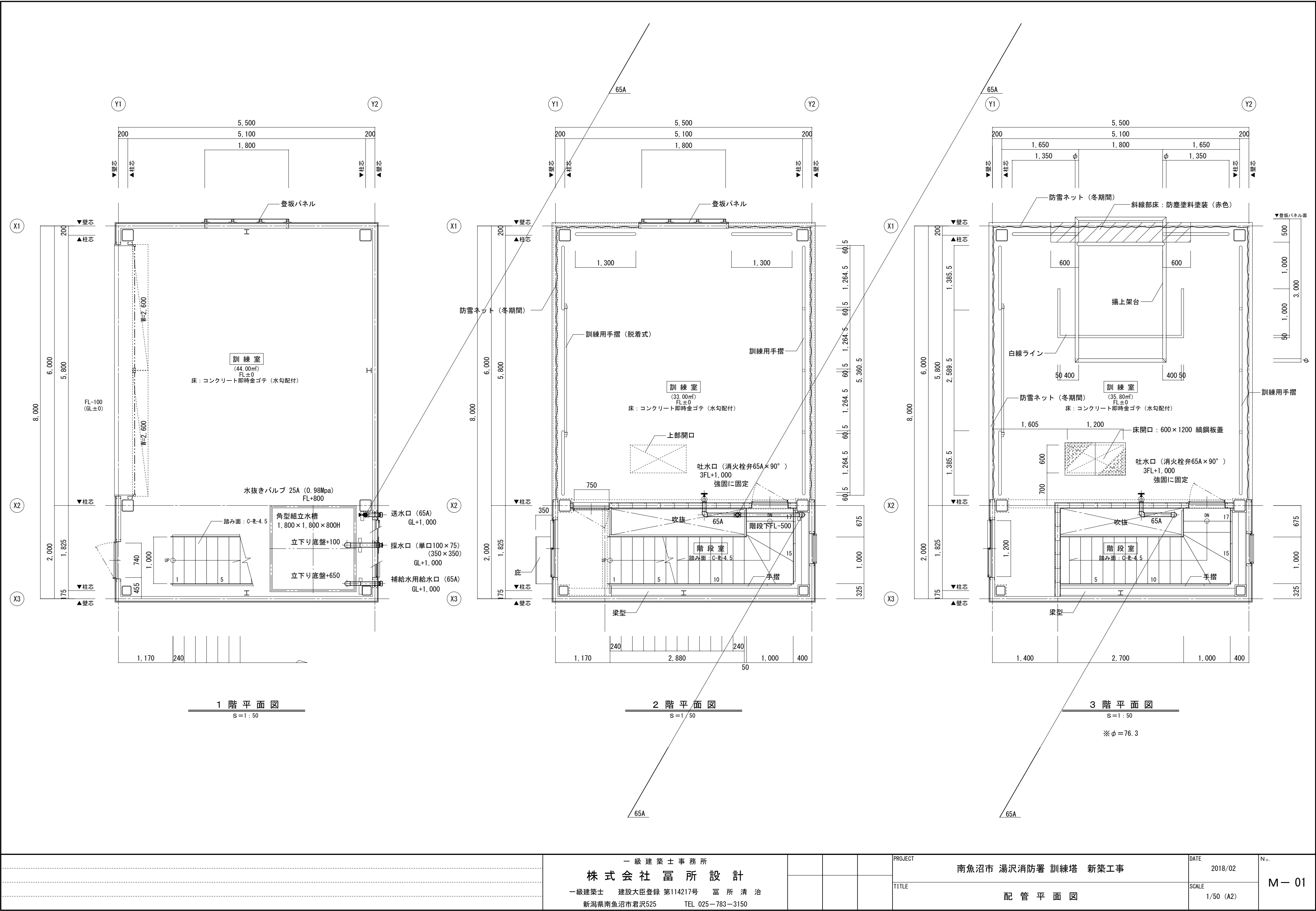


	一級建築士事務所				PROJECT	南魚沼市 湯沢消防署 訓練塔 新築工事	DATE	2018/02	No. A - 14
	株式会社 富所設計				TITLE	揚上用架台・登坂パネル詳細図	SCALE	1/50 (A2)	
	一級建築士 建設大臣登録 第114217号 富所清治 新潟県南魚沼市君沢525 TEL 025-783-3150								



外 構 図 S=1 : 250

	一 級 建 築 士 事 務 所 株 式 会 社 富 所 設 計 一級建築士 建設大臣登録 第114217号 富 所 清 治 新潟県南魚沼市君沢525 TEL. 025－783－3150				PROJECT	南魚沼市湯沢消防署訓練塔新築工事	DATE	2018/02	No. A－15
					TITLE	解体工事・外構図	SCALE	1/250	



一級建築士事務所 株式会社 富所設計 一級建築士 建設大臣登録 第114217号 富所 清 治 新潟県南魚沼市君沢525 TEL 025-783-3150				PROJECT 南魚沼市 湯沢消防署 訓練塔 新築工事	DATE 2018/02	No. M-01
				TITLE 配管平面図	SCALE 1/50 (A2)	

適用は 印を記入する。

S - 01

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

１．一般事項

（１）構造図面に記載された事項は、本基準図に優先して適用する。

（２）記号

d・・・異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D・・・部材の成 R・・・直径
@・・・間隔 r・・・半径 CL・・・中心線 L0・・・部材間の内法距離 h0・・・部材間の内法高さ
ST・・・あばら筋 HOOP・・・帯筋 S・HOOP・・・補強帯筋 φ・・・直径又は丸鋼

２．鉄筋加工、かぶり

（１）鉄筋末端部の折曲げ形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折曲げ角度90°は357筋、壁筋の末端部または357と同時に打ち込むT形及びL形梁のキャップタイヤにのみ用いる。
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(※4d以上)	8d以上(※4d以上)	
折曲げ内法寸法Rは、SR235は3d以上、SD295A、SD295B、SD345のD16以下は、3d以上、D19以上は4d以上				
※片持スラブ上端筋の先端				

（２）鉄筋中間部の折曲げ形状 鉄筋の折曲げ角度90°以下

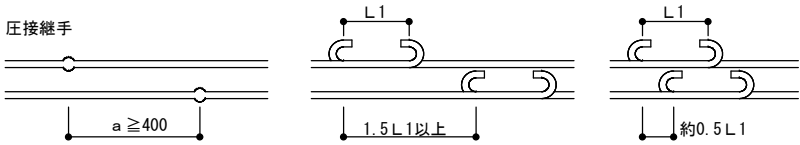
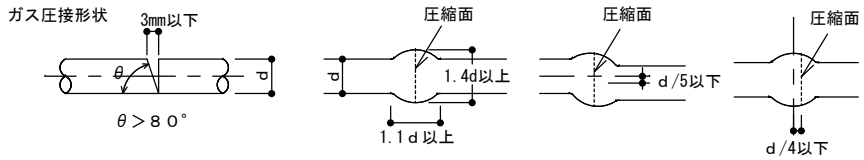
図	鉄筋の使用個所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16φ以下 D16 19φ以上 D19	3d以上
	上記以外の鉄筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16φ以下 D16 19φ～25φ D19～D25 28φ～32φ D29～D38	4d以上 6d以上 8d以上

（３）鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm2)	定 着 の 長 さ			特別の定着及び重ね継手の長さ (L1)
		一般 (L2)	下端筋 (L3)		
			小 梁	スラブ	
SR235	21 22.5 24	35 dフックつき	25 dフックつき	15 cmフックつき	35 dフックつき
	15 18	45 dフックつき			45 dフックつき
SD295A	21 22.5 24	35 dまたは25 dフックつき	25 dまたは15 dフック	10 dかつ15 cm以上	40 dまたは30 dフックつき
SD295B		40 dまたは30 dフックつき			45 dまたは35 dフックつき
SD345					

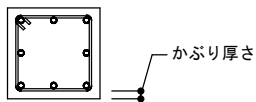
継手

- 末端のフックは、定着及び重ね継手の長さに含まない
- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
- 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
- D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
- 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない



（４）かぶり厚さ(単位:mm)

ひびわれ誘発目地部など鉄筋かぶり、厚さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する。

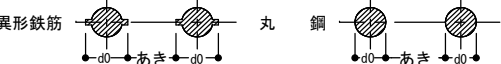


- 【注】
- 耐久性上有効な仕上がりがある場合、工事監理者の承認を受けて30mmとすることができる。
 - 耐久性上有効な仕上がりがある場合、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
 - コンクリートの品質及び施工方法に応じ、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
 - 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
 - () 内は、仕上がりがある場合。
改定により標準かぶり厚さは10mm増し

部	位	設計かぶり厚さ(mm)		最小かぶり厚さ(mm)
		設計かぶり厚さ	最小かぶり厚さ	
土に接しない部分	屋根スラブ	屋 内	30	20
	床スラブ	屋 外	40(1)	30(20)
	非耐力壁	屋 内	40	30
	柱	屋 外	50(2)	40(1)(30)
土に接する部分	は耐力壁	屋 外	50(3)	40
	換気壁	屋 外	50	40(4)
	柱・梁・床357・耐力壁	屋 外	50	40(4)
	基礎・擁壁	屋 外	70	60(4)

（５）鉄筋のあき

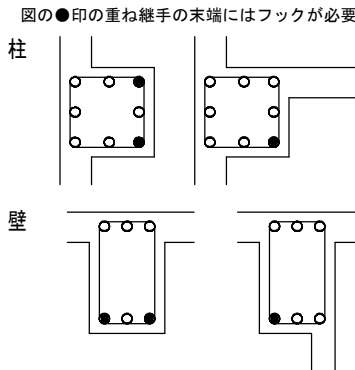
丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上
粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上



（６）鉄筋のフック

(a～fに示す鉄筋の末端部にはフックをつける)

- a. 丸鋼 b. あばら筋、帯筋 c. 煙突の鉄筋
d. 柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分の鉄筋（右図参照）
e. 単純梁の下端筋 f. その他、本鉄筋標準に記載する箇所

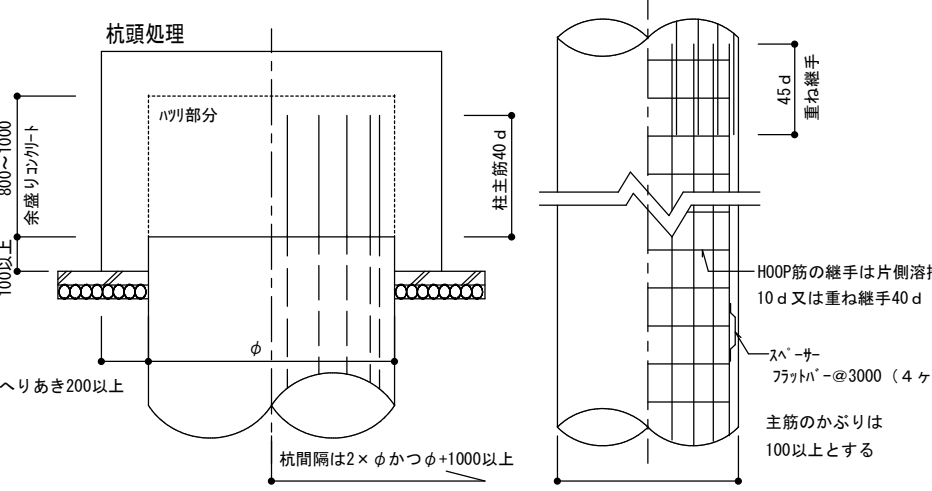


３．杭（地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。）

（１）所定の位置に止まらなかったPC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う

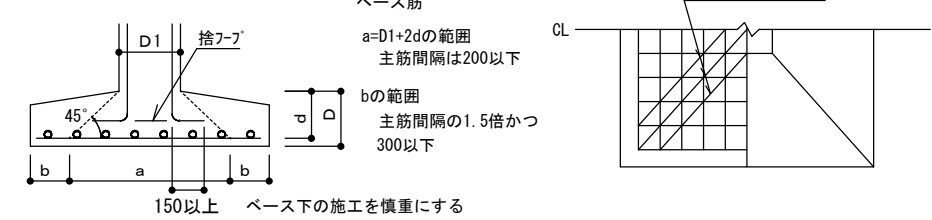
所定より高く止まった場合		所定より低く止まった場合	
杭 径	300φ、350φ、400φ	450φ、500φ、600φ	
補 強 筋	6-D13、8-D13	10-D13、8-D16	10-D16
HOOP	D10-φ150		

（２）現場打ちコンクリート杭

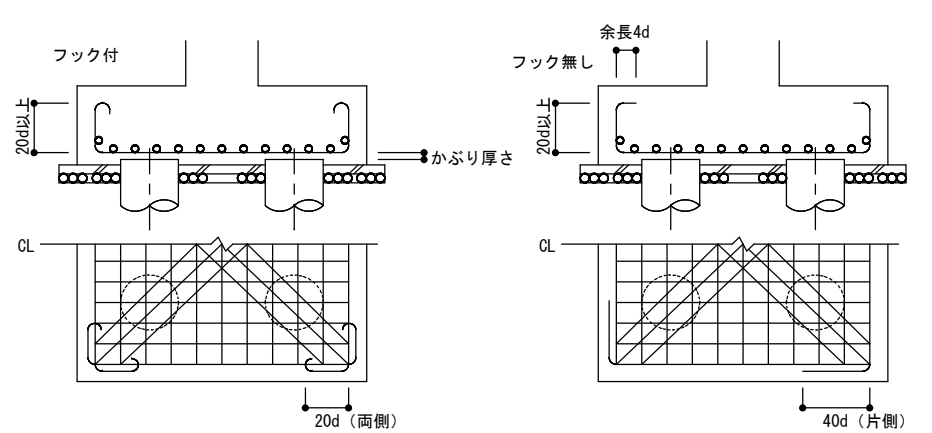


４．基 礎

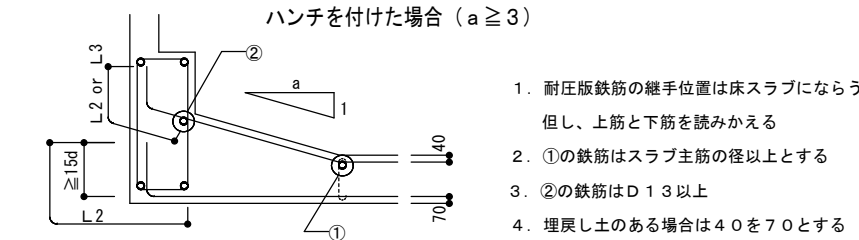
（１）直接基礎



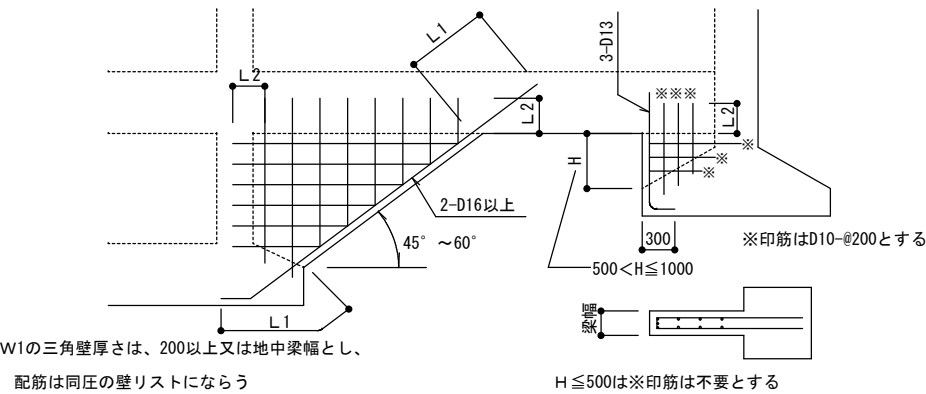
（２）杭基礎



（３）べた基礎

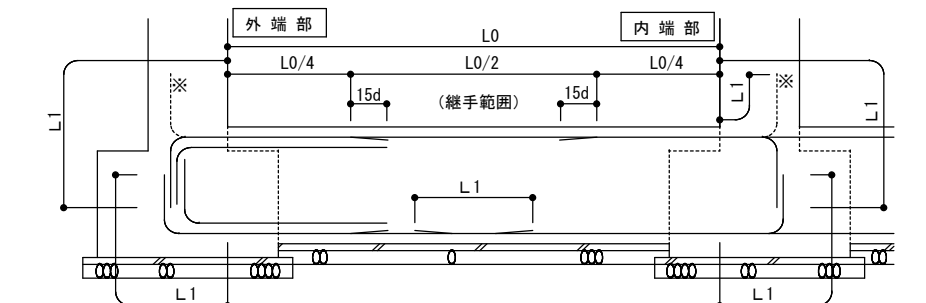


（４）基礎接合部の補強

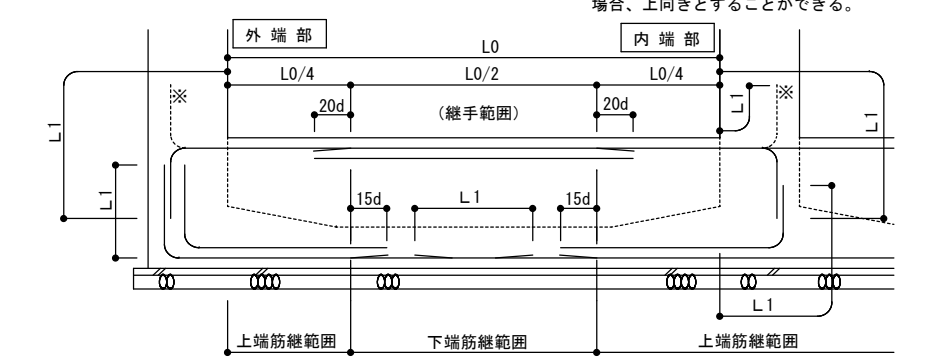


５．地 中 梁

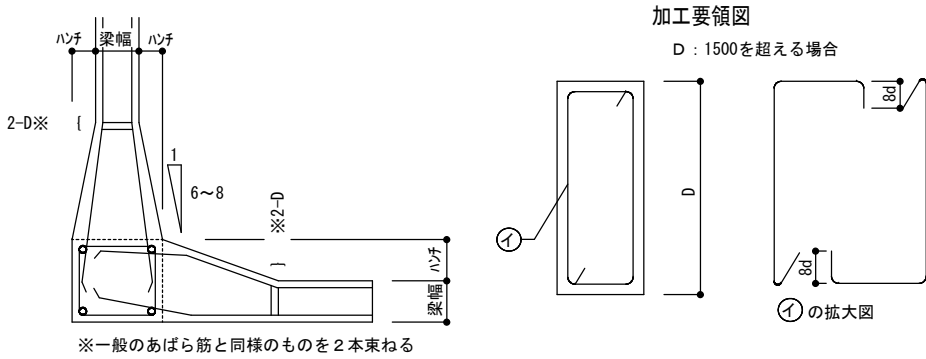
（１）独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）



（２）布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）

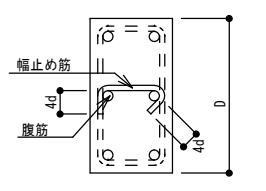


（４）水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

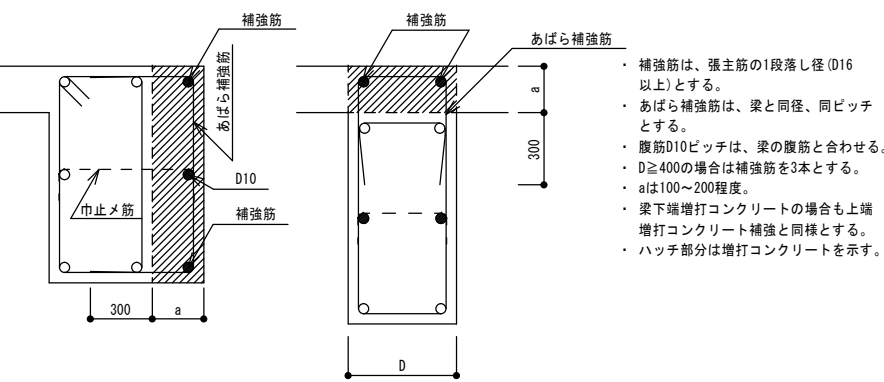


（５）幅止め筋の本数、加工

腹筋	D<600 不要	
	600≤D<900	2-D10(9φ) 1段
幅止め筋	900≤D<1200	4-D10(9φ) 2段
	1200≤D	D10(9φ) @300以内



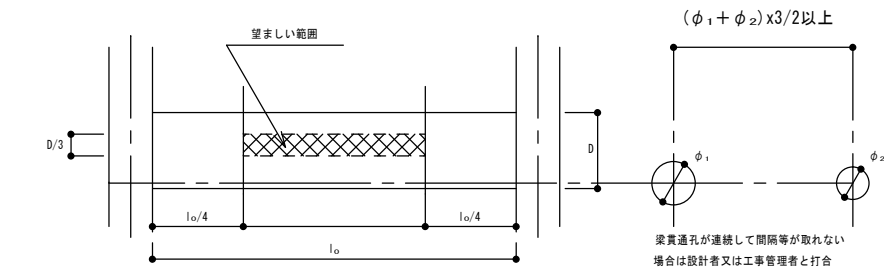
（２）梁



１１．梁貫通孔補強

（１）設置可能範囲

梁端部(スパンL/10以内かつ2D以内)はさける



（２）鉄筋標準配筋

但し、φ≤D/3とする

80≤φ≤100	100<φ≤150	150<φ≤250
折 筋 2-(2-D13)	折 筋 2-(2-D13)	斜 筋 4-(2-D13)
縦 筋 ST 2-D13	縦 筋 ST 2-D13-2#50	縦 筋 ST 2-D13-3#50
	横 筋 2-(2-D13)	横 筋 2-(2-D13)
		上横筋 ST 2-D13
φ>250 孔補強の有効範囲と定着長さのとり方 * 部分について計算で確認された場合は右記の位置、寸法によらずに良い。		

（３）既製品（使用するときは、設計者又は工事管理者と打合せのこと）

● リング型 □ バイプ型 □ 金網型 □ プレート型

(株) 栗本鉄工所 スﾊｰﾊﾘｰ 補強ﾀｲﾌﾟ SA, SB, SC, SD または、同等品

ウェブレン、ダイヤレン 等 日本建築センター評価取得品とする。

設計前に計画書を提出し、承認を得ること。

設計時に使用する評価取得品については計算書を提出すること。

・RC梁貫通孔の規定

a) 孔の径は、梁せい1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。

b) 孔の上下方向の位置は下図による。

	500≤D<700 d≥175
	700≤D<900 d≥200
	900≤D d≥250

c) 孔の中心位置の限度は、柱及び直交する梁(小梁)の面から原則として1.2D(Dは梁せい)以上離す。

d) 孔が並列する場合は、その中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。

鉄骨構造標準図（１）

１．一般事項

（１）材料及び検査

- (a) 構造設計仕様による
(b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする
但し、ベースプレートの厚さは除く
(c) 社内検査結果の検査報告書には、溶接検査、鉄骨精度及びその他の結果を添付する

（２）工作一般

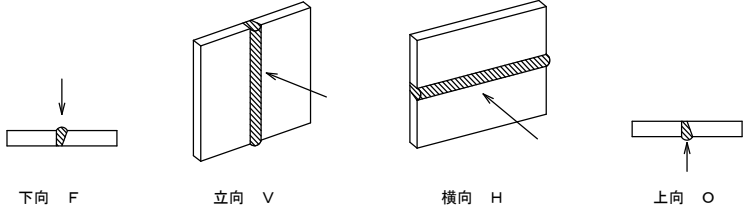
- (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を作成する
(b) 鋼管部材の分岐継ぎ手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
(c) 高張力鋼のひずみきょう正は、冷間きょう正とする

（３）高力ボルト接合

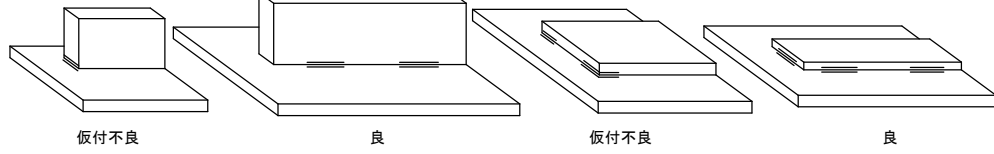
- (a) 本総めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない

（４）溶接接合

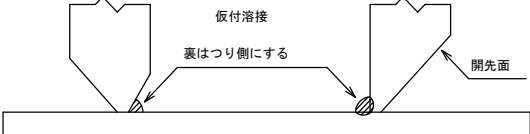
- (a) 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶接金属の性能を満足すること。
(b) 溶接技能者
溶接技能者は施工する溶接に適用するJIS Z3801（手溶接）又はJIS Z3841（半自動溶接）の溶接技術検定試験に合格し引継ぎ、半年以上溶接に従事している者とする
(c) 溶接機器
(イ) 交流アーク溶接機 300A～500A (ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
(ロ) アークエアガウジング機（直流） (ホ) 溶接電流を測定する電流計
(ハ) サブマージアーク溶接機一式 (ヘ) 溶接棒乾燥機
(d) 溶接方法
アーク手溶接（MC） ガスシールドアーク半自動溶接（GC）
セルフ（ノンガス）シールドアーク半自動溶接（NGC） アークエアガウジング（AAG）
(e) 溶接姿勢



- (f) 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う
(イ) 仮付位置
組立て溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける



- (ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する



(g) 溶接施工

(イ) エンドタブ

- 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部にはエンドタブを取り付ける

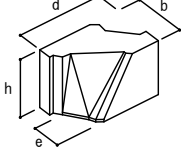
- I) スチールタブを用いる場合は、溶接性に問題のない材質とし、母材と同厚で同間先形状とする
スチールタブの長さは、35mm以上かつ2t以上とし、溶接終了後母材より10mm程度残し切断してグラインダー仕上とする

- II) 図形タブを使用する場合は、フランジ端部の溶接はバックステップを禁止し、フランジ外側から溶接を始めること
フランジ端部より外側に15mm程度以上確保でき、かつ、バスの数及び形状が確認できるものを標準仕様とする

- 参考：EGアークタブ（旭化成建材）等

採用	製品名称	高さ(h)	適用フランジ厚(d)	厚行(b)	幅	余盛部(a)
可	EGT20	20	≦16	46.0	30	18
可	EGT32	32	≦26	54.5	30	18
可	EGT50	50	≦40	67.1	30	18

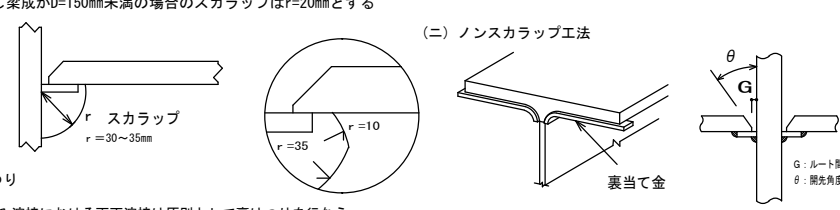
(単位：mm)



- (ロ) 裏あて金

- 溶接性に問題のない材質とし、厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上とする

- (ハ) スカラップ半径は30～35mmと、10mmのダブルアールとする
但し梁成り0～150mm未満の場合のスカラップはr=20mmとする



- (ホ) 裏はつり

- 完全溶込み溶接における両面溶接は原則として裏はつりを行なう。

- 裏はつりで健全な溶着部分が現れるまではつり取った後、裏溶接を行なう

- (ヘ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部を傷めない様に養生を行う

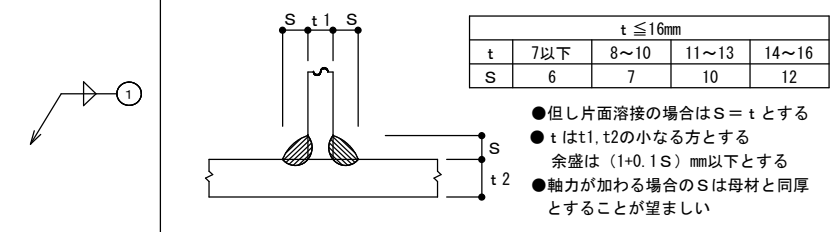
(５) 塗装

- 高力ボルト接合の摩擦面、コンクリートで被覆される部分およびロックワール吹き付け面は塗装しない。

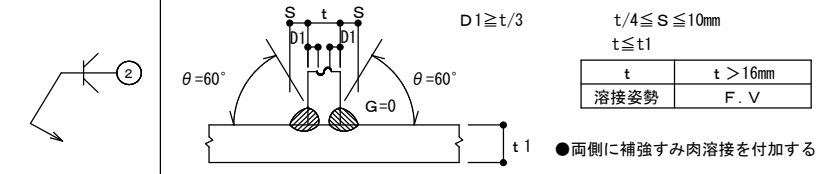
２．溶接基準図

(注) f：余盛 G：ルート間隔 R：フェース S：脚長 (単位mm)

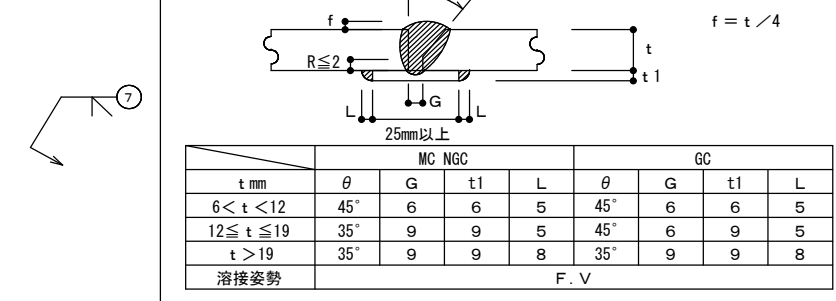
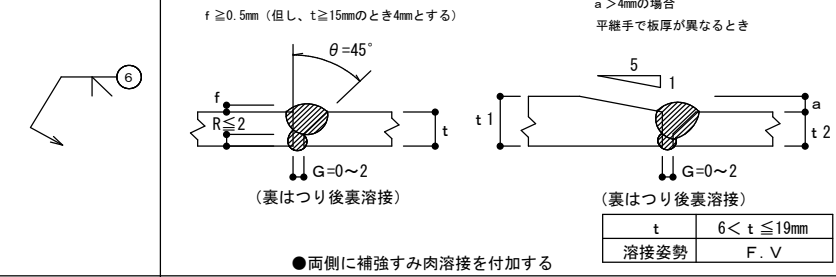
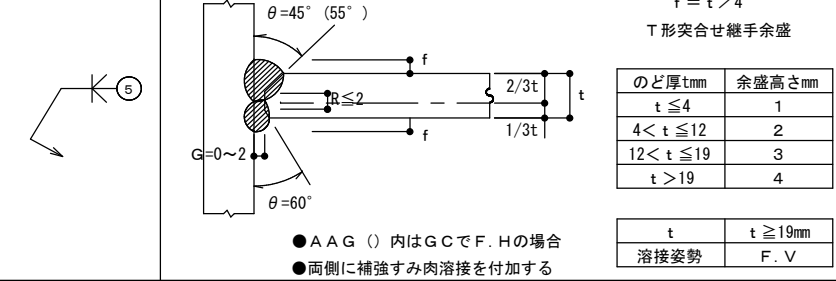
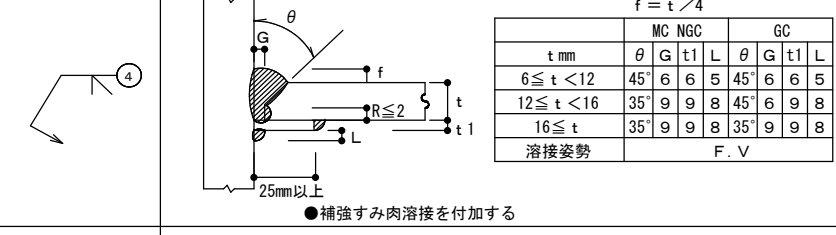
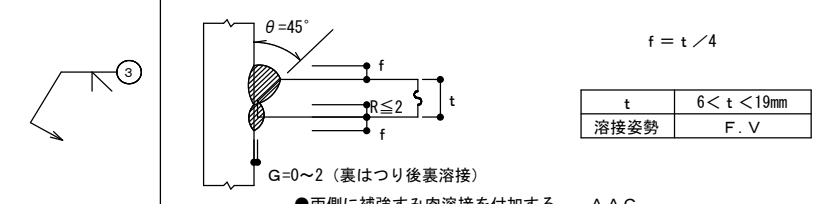
(１) スミ肉溶接



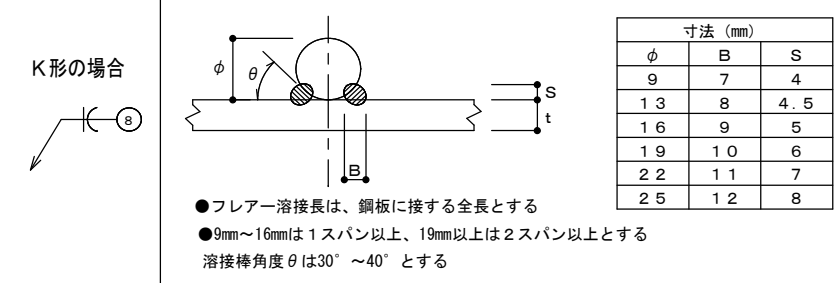
(２) 部分溶け込み溶接



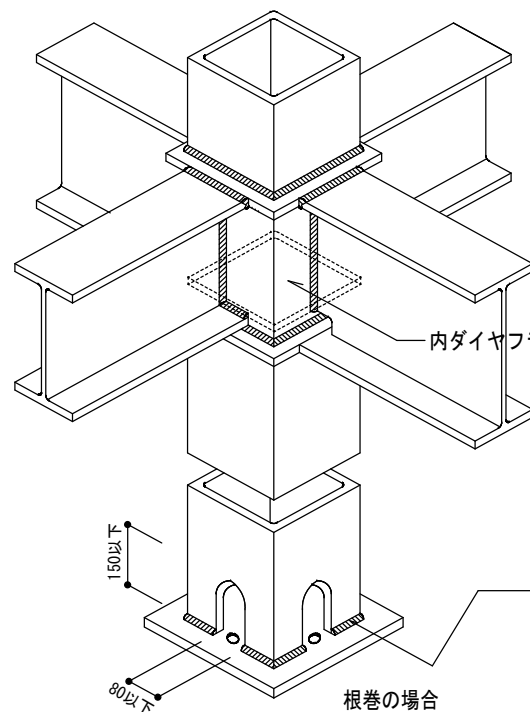
(３) 完全溶込み溶接



(４) フレアー溶接



◇溶接記号番号を○中に記入のこと
●BOX型 (通しダイヤフラムの場合)

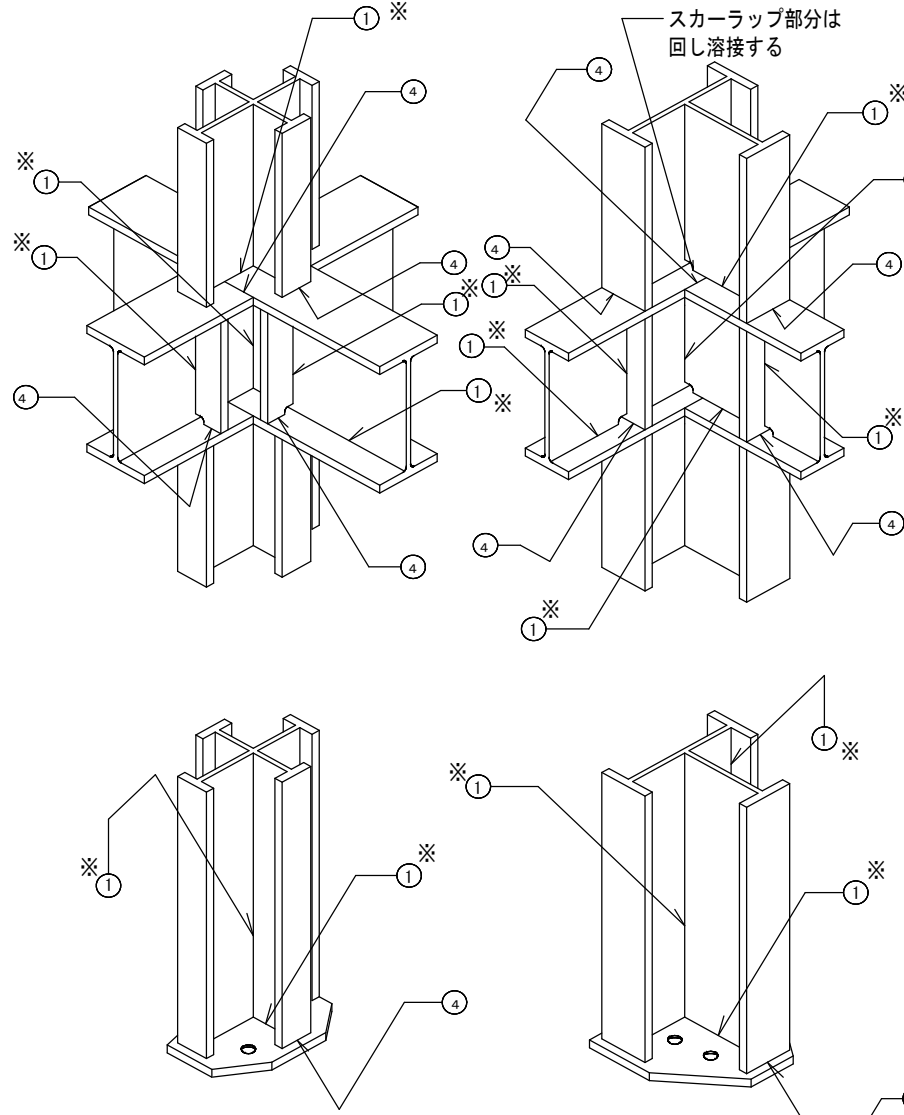


①※ t≦16mmの場合の溶接は、③～⑤とする

●鋼材種別による溶接条件

鋼材種別	溶接条件	入熱 (KJ/cm)	入熱温度差 (℃)
400N級鋼	JIS Z 3211, 3212, 3214 YGW-11, 15 YGW-18, 19 YGA-SOW, 50P	40以下	350以下
490N級鋼	JIS Z 3212, 3214 YGW-11, 15 YGW-18, 19 YGA-SOW, 50P	40以下	350以下

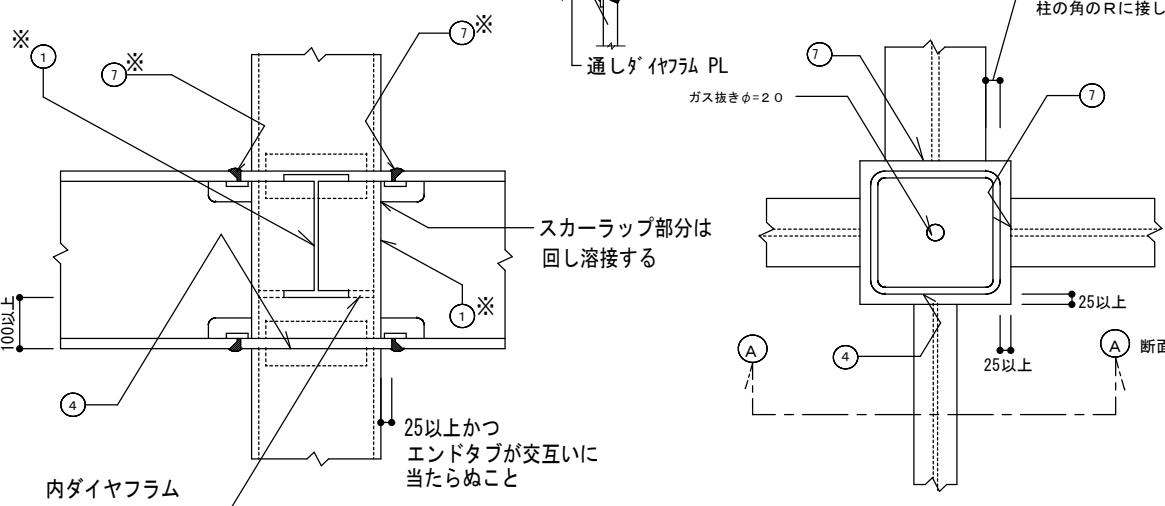
●H型、I型、H型



①※ t≦16mmの場合の溶接は、③～⑤とする

①※ 梁フランジは、通しダイヤフラムの(t)の内部で溶接する事

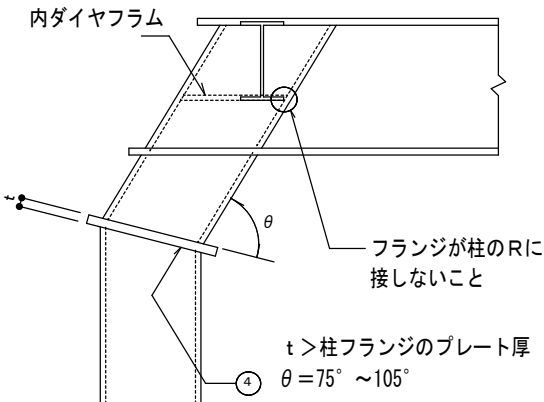
平面詳細図



①※ t≦16mmの場合の溶接は、③～⑤とする

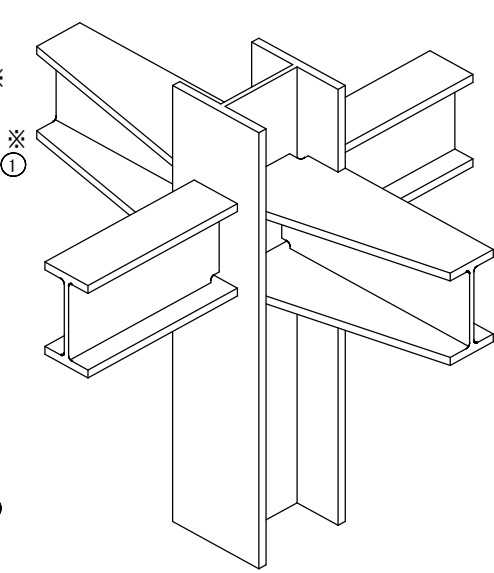
- 柱が途中で折れる場合
及び梁成り異なる場合

<柱材料：BCR295、BCP325を使用する場合>
ダイヤフラムは、SM490B-C、SM490同等以上の鋼材を使用する事
ダイヤフラム厚は、接合する柱、梁の最大厚の2/3以上とする事

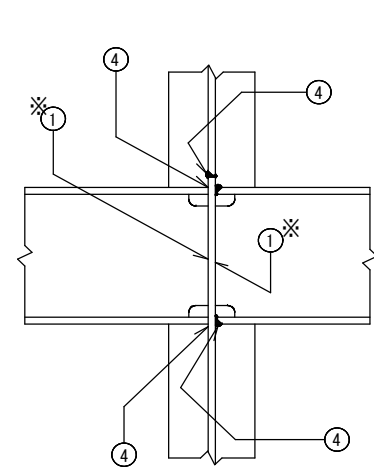


②※ t≦16mmの場合の溶接は、③～⑤とする

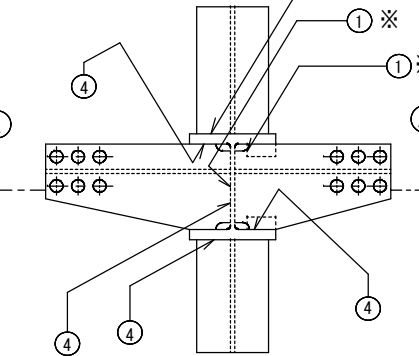
●B. H方式



① - ① 断面図



平面詳細図



①※ t≦16mmの場合の溶接は、③～⑤とする

南雲設計 新潟県新潟市六日町1036-7
一級建築士事務所 新潟県知事登録(ハ)第4332号
管理建築士 南雲 直
一級建築士 第200722号
構造設計一級建築士 第1854号

DATE 平成30年 3月 1日

SCALE

S-03

一級建築士事務所
株式会社 富所設計
一級建築士 建設大臣登録 第114217号 富所 清治
新潟県新潟市君沢525 TEL 025-783-3150

PROJECT 新潟県新潟市 湯沢消防署 訓練塔 新築工事

TITLE 鉄骨構造標準図（１）

鉄骨構造標準図 (2)

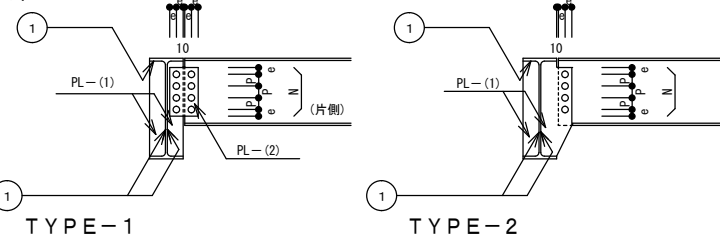
3. 継手基準、その他

(1) ボルトピッチ(P)、ボルト穴径・最小縁端距離 (mm)

呼 び	ポルト 穴 径	最 小 縁 端 距 離 (e)				ピッチ (P)	
		(1)	(2)	(3)	(2) (3) の比率	最 小	標 準
M16	18	40	28	22	40	40	60
M20	22	50	34	26	40	50	60
M22	24	55	38	28	40	55	60
M24	26	60	44	30	45	60	70

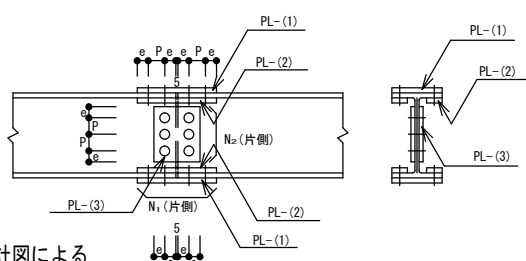
〔注〕 (1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上ならない場合の応力方向の縁端距離
(2) せん断縁・主動ガス切断機の場合の縁端距離
(3) 圧延縁・自動ガス切断機・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

(2) ピン接合継手リスト

[illegible]

(3) 梁剛接合継手リスト

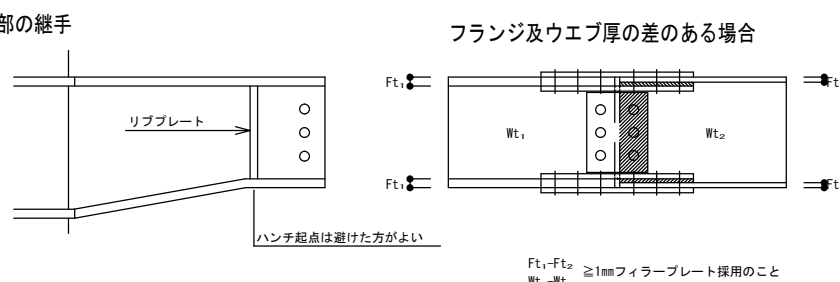
(SCSS-H97による)



注) 端部をBHとする場合の部材は設計図による

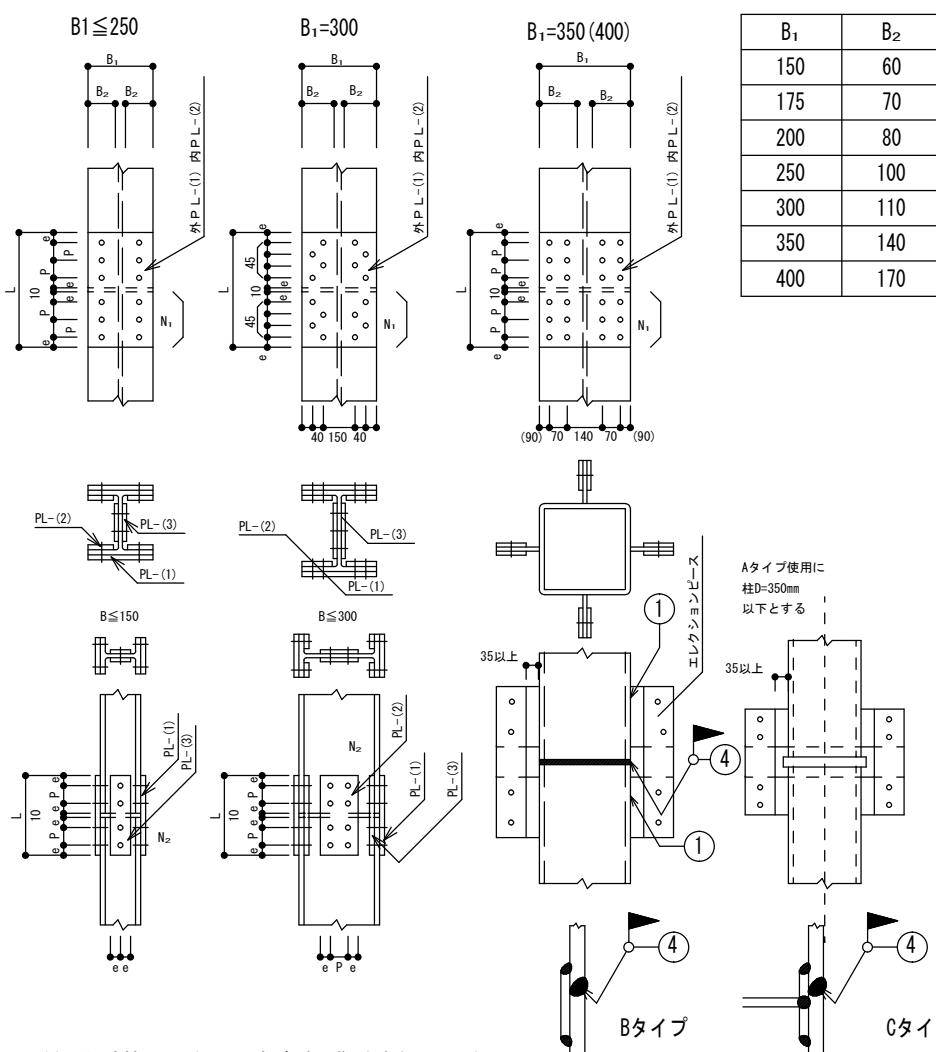
[illegible]

(4) ハンチ部の継手



ハンチ勾配は普通1:4程度であるが構造図による

(5) 継手リスト



注)現場溶接は原則として超音波深傷試験を100%行う

[illegible]

(6) 鉄筋ブレース (JIS規格品とする…JISA5540～5542…1982)

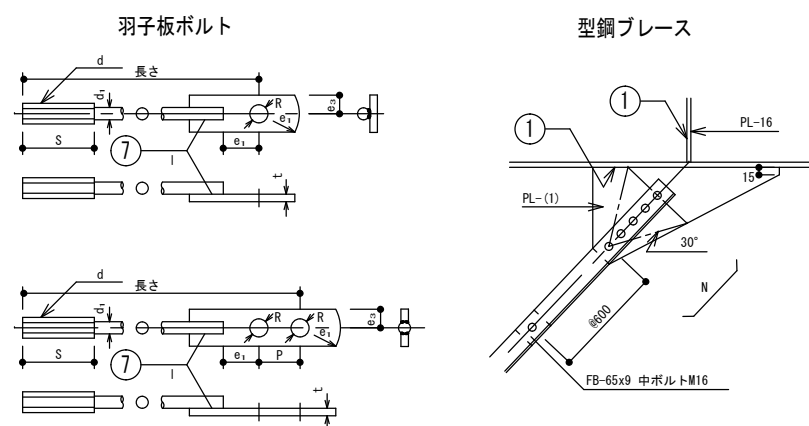
(a) 羽子板ボルト

ねじの呼び (d)			M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径 d_1	最 大		10. ⁸¹	12. ⁶⁵	14. ⁶⁵	16. ³³	18. ³³	20. ³³	21. ⁹⁹
	最 小		10. ⁶⁴	12. ⁴⁶	14. ⁴⁶	16. ¹¹	18. ¹¹	20. ¹¹	21. ⁷⁷
調整ねじ長さ	S		100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径 許容さ+0. -0.5mm	R		13	17	17	21. ⁵	21. ⁵	23. ⁵	21. ⁵
は し あ き (最小)	(2) C ₁		35	40	45	50	50	55	50
切 板 製	へりあき (最小)	(1) e ₂	22	28	28	34	34	38	38
	板 厚	t	4. ⁵	6	6	9	9	9	9
平 鋼 製	へりあき (最小)	(1) e ₂	19	25	25	32. ⁵	32. ⁵	37. ⁵	37. ⁵
	板 厚	t	4. ⁵	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付ボルト 穴心のあき (最小)	e ₃		47	52	59	66	66	73	70
溶 接 長 さ (最小)	l		40	50	55	60	75	85	85
(2)	種 類	JIS B 1186 2種高力ボルト (F10T) 又は JIS B 1180 中 8g 10. ⁹							
取付ボルト	ねじの呼び		M12	M16	M16	M20	M20	M20	M20
	本 数		1	1	1	1	1	1	2

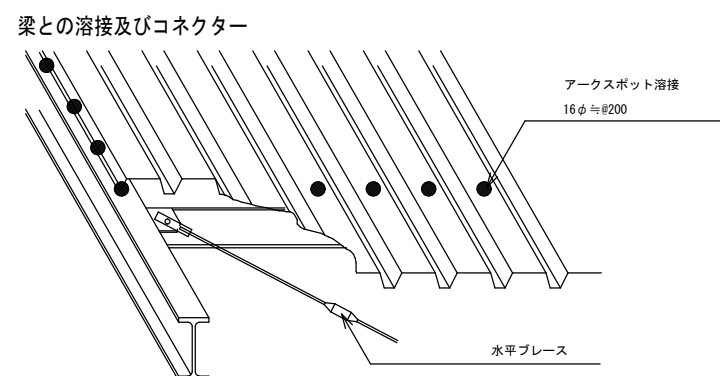
注 (1) e_1 、 e_2 が確保されていれば形状は自由でよい
(2) 羽子板とがセットプレートの場合は表に示す取付ボルトを使用し、一面（支圧）接合とする

(b) 型鋼ブレース

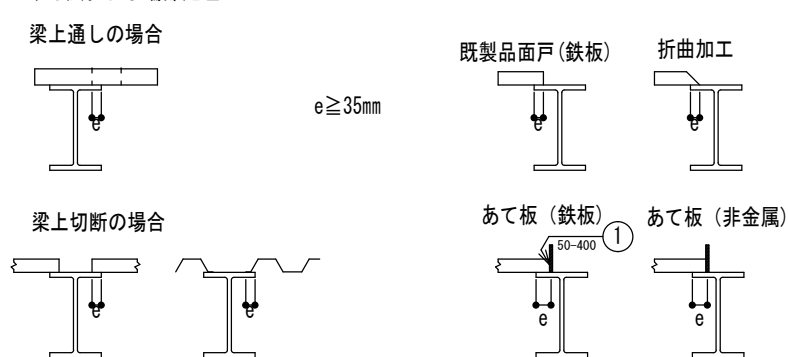
符 号	部 材	PL-(1)	N-径	



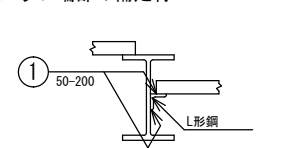
(7) デッキプレート (床剛性を考慮する合成床、合成は理のときは構造図参照)



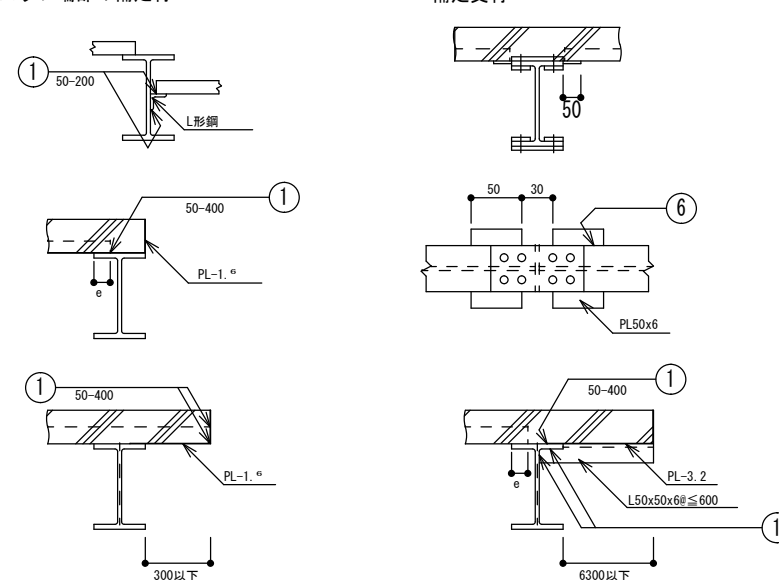
受梁へのかかり寸法および端部処理



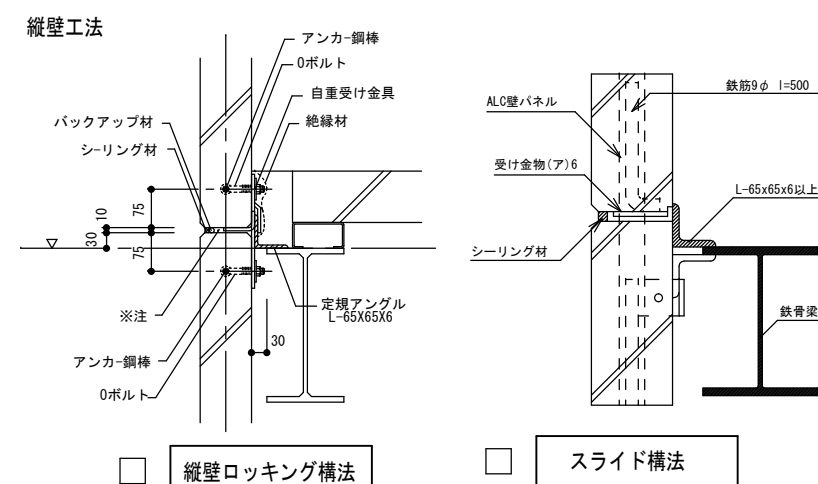
スラブ端部の補足材



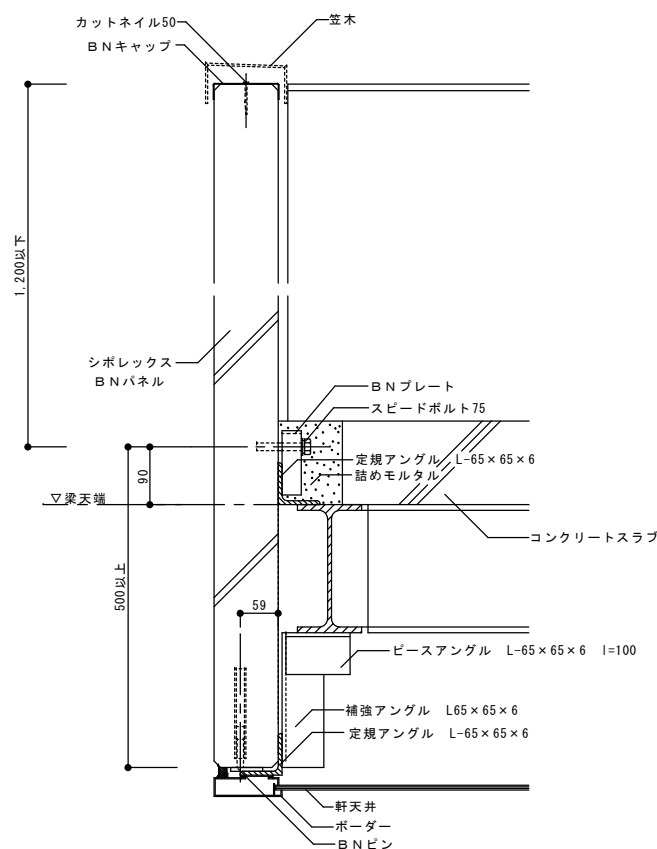
補足受材



(8) ALC取付け要領

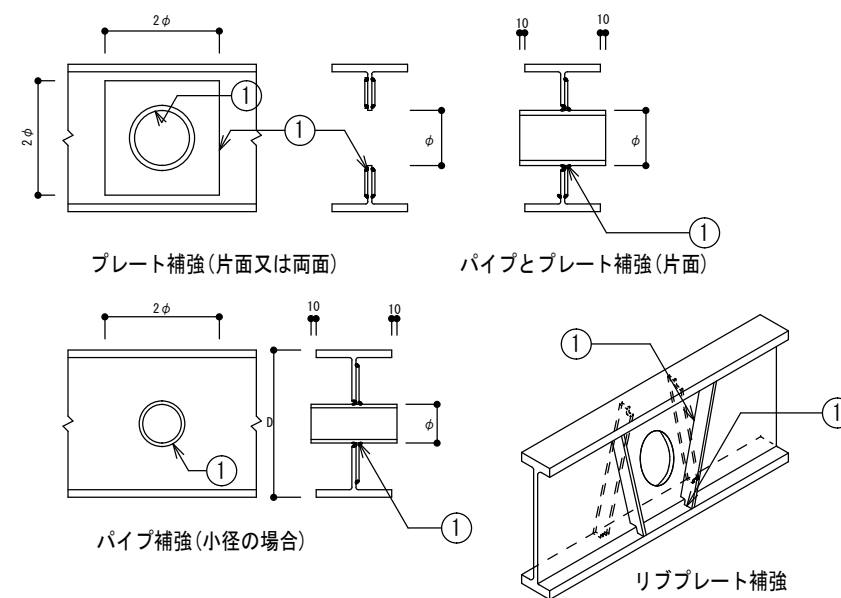


手摺壁部



(10) 梁貫通補強

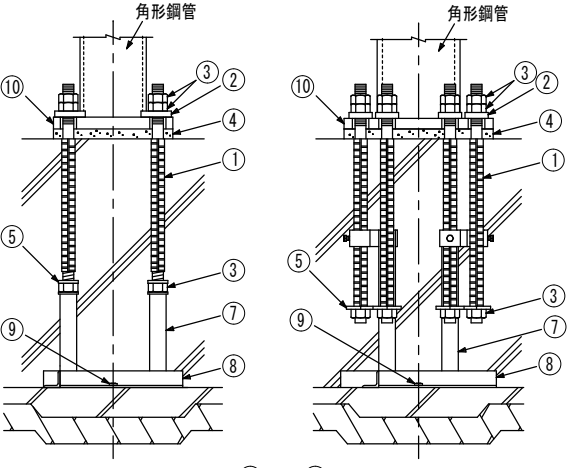
- ・計算で確認された場合は下記の位置、寸法によらずに良い。
- ・梁端部(スパンの1/10以内かつ2D以内)は避ける
- ・ $\phi \leq 0.4D$



(11) その他

1. 工法概要

1. 1 構成部材

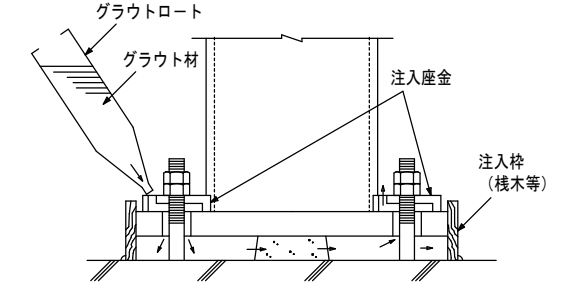


①アンカーボルト
②注入座金
③Mナット
④ベースパックグラウト(グラウト材)
⑤定着座金
⑥テンプレート

⑦フレームポスト
⑧フレームベース
⑨ステコンアンカー(コンクリートアンカー)
⑩ベースプレート

(注)上記①～⑩の構成部材はベースパック構成部品として供給される。
(注)上記⑥～⑨は現場状況により仕様異なる場合がある。

1. 2 柱脚の定着方法概要



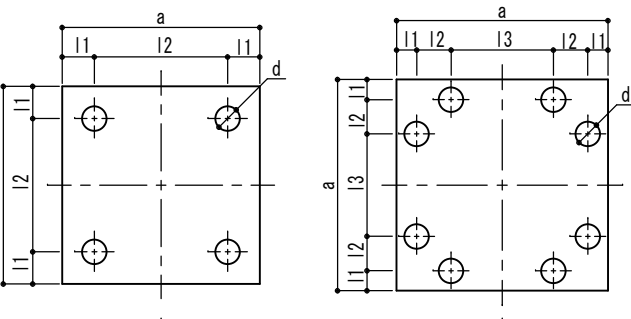
2. 柱

F値(N/mm ²)	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
295	BCR295	○

3. 構成部材・寸法

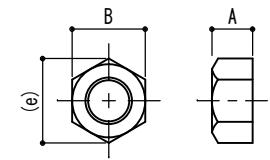
3. 1 ベースプレート

●材質
SN490B【JIS G 3136】



形状 (イ)形状 (ハ)

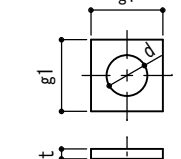
3. 3 Mナット【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】



呼び	A	B	単位 mm
M27	22	41	47
M30	24	46	53
M33	26	50	58
M36	29	55	64
M39	31	60	69

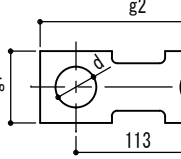
3. 4 定着座金

i) アンカーフレーム Aタイプの場合



単位 mm				
適用アンカーボルト	g1	t	d	材質
M27	55	9	28	SS400
M30	55	9	31	
M33	60	9	34	
M36	65	12	37	
M39	80	12	40	

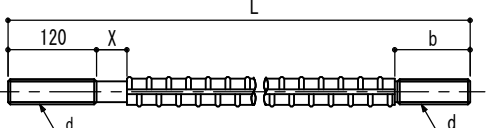
ii) アンカーフレーム Cタイプ の場合



単位 mm					
適用アンカーボルト	g1	g2	t	d	材質
M30	55	168	9	32	SS400
M33	60	173	9	35	
M36	65	178	9	38	

3. 2 アンカーボルト (Mアンカーボルト)【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

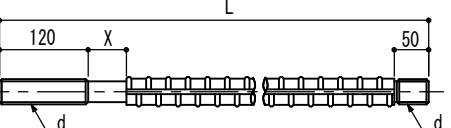
i) アンカーフレーム Aタイプの場合



単位 mm					
呼び d	異形部呼び名	L 注1)	X	b 注1)	基準強度(N/mm ²)
M27	D29	650	45	128	490
M30	D32	695	45	133	490
M33	D35	690, 735	45	95, 140	490
M36	D38	770	60	130	490
M39	D41	770, 810	60	98, 135	490

注1) 据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

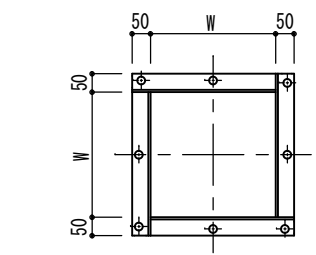
ii) アンカーフレーム Cタイプ の場合



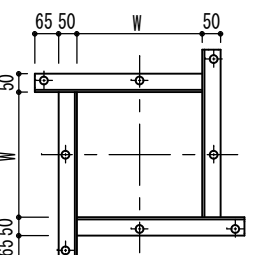
単位 mm				
呼び d	異形部呼び名	L	X	基準強度(N/mm ²)
M30	D32	695	45	490
M33	D35	720	45	490
M36	D38	770	60	490

3. 6 フレームベース

i) Aタイプ



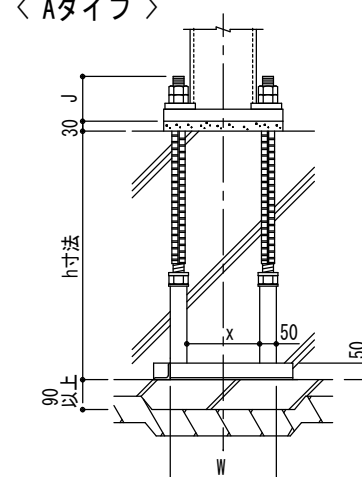
ii) Cタイプ



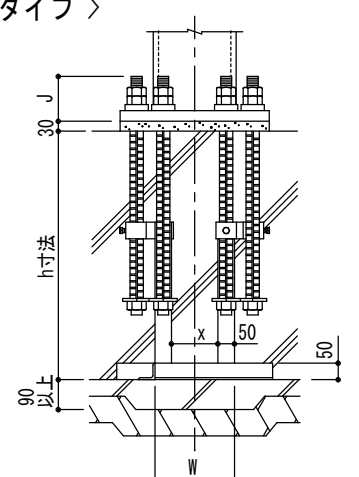
3. 7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●ベースパックの据付け高さ(h寸法)はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ(最低h寸法)は下表に記載の値とする。

< Aタイプ >



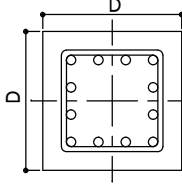
< Cタイプ >



4. コンクリート柱型

4. 1 形状・材質

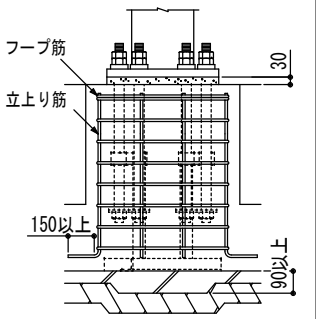
●形状
柱型寸法を標準から変更する場合は、別紙「ベースパック柱脚工法における柱型寸法最大・最小値一覧」による。



●コンクリート
普通コンクリートとし、設計基準強度は21N/mm²以上とする。

●鉄筋
SD295 (D13, D16)
SD345 (D19, D22)

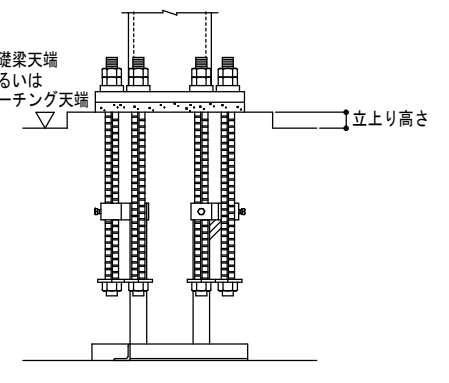
4. 2 配筋



※トップフープはダブルとする

4. 3 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。
※ただし基礎立上がり高さが50mmを超え300mm以下の場合、Lシリーズを使用することができる。




5. 工場製作 (溶接)

■組立
●ベースプレートの中心線(㏽き線)に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法 (完全溶込み溶接)
●完全溶込み溶接とする。(JASS 6 鉄骨工事による)

完全溶込み溶接の開先標準 (JASS 6 鉄骨工事 2007年版より)

図	溶接方法	適用板厚 T (mm)	ルート間隔 G (mm)	ルート面 R (mm)	開先角度 α1 (°)	溶接姿勢			
	被覆アーク溶接	6～	7	-2, +0 (-3, +0)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1 : 45	-2.5, +0 (-5, +0)	下向き
			9	-2, +0 (-3, +0)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1 : 35		
		6～	6	-2, +0 (-3, +0)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1 : 45	-2.5, +0 (-5, +0)	下向き
			7	-2, +0 (-3, +0)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1 : 35		

許公差・記号+∞は制限無しを示す。
・2段書きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許公差(上段:管理許公差、下段括弧内:限界許公差)を示す。

6. 工事場施工

6. 1 基礎工事

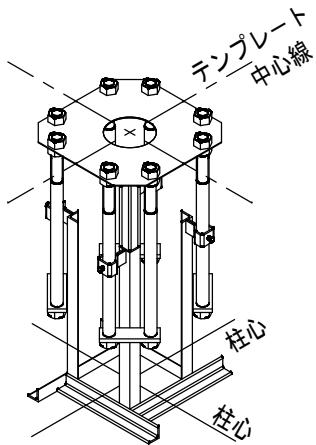
●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6. 2 アンカーボルト据付け

●アンカーボルト(フレーム)の組立ては、4隅のアンカーボルト4本で組立てを行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許公差は下図による。



図

標準許公差

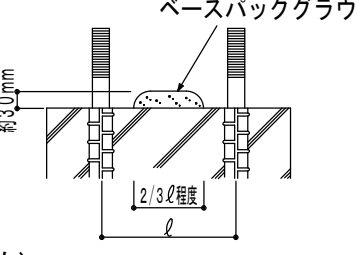
6. 3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト(フレーム)との取り合いを考慮する。

●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6. 4 建方

●レベルモルタルはベースパックグラウト(グラウト材)を使用し、大きさは右図による。



6. 5 アンカーボルトの本締め(弛み止め)

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

6. 6 ベースパックグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋(6kg)に対して、計量カップで1.0～1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7. 本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者(元請)の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち6. 2アンカーボルト据付け及び6. 6ベースパックグラウトの注入は、ベースパック施工技術委員会によって認定された有資格者(ベースパック施工管理技術者・施工技能者)が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

一級建築士事務所
株式会社 富所設計
一級建築士 建設大臣登録 第114217号 富所 清 治
新潟県南魚沼市君沢525 TEL 025-783-3150

PROJECT
南魚沼市 湯沢消防署 訓練塔 新築工事

DATE
平成30年 3月 1日

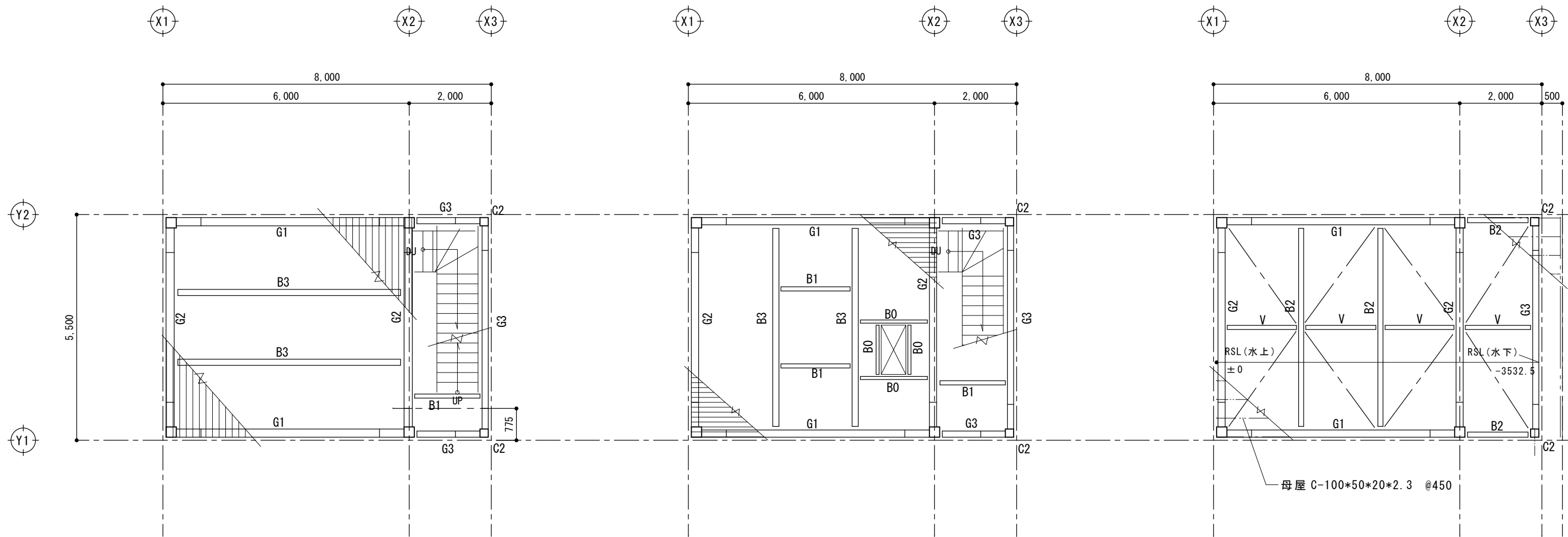
TITLE
ベースパック柱脚工法 設計 標準図

SCALE

南 雲 設 計 新潟県南魚沼市六日町1036-7
一級建築士事務所 新潟県知事登録(ハ)第4332号
管理建築士 南雲 直
一級建築士 第200722号
構造設計一級建築士 第1854号

N.

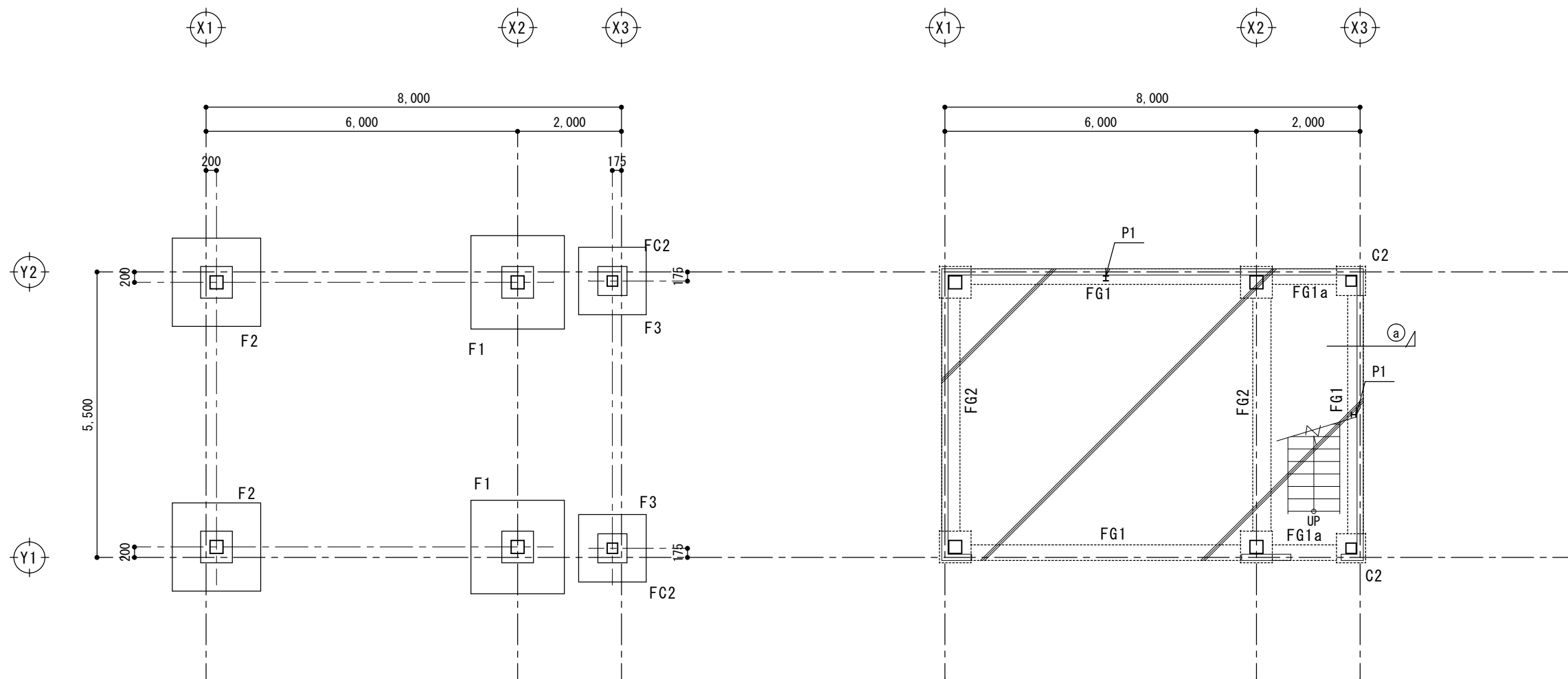
S - 05



2 階 伏 図
特記なき柱全て C1

3 階 伏 図
特記なき柱全て C1

R 階 伏 図
特記なき柱全て C1

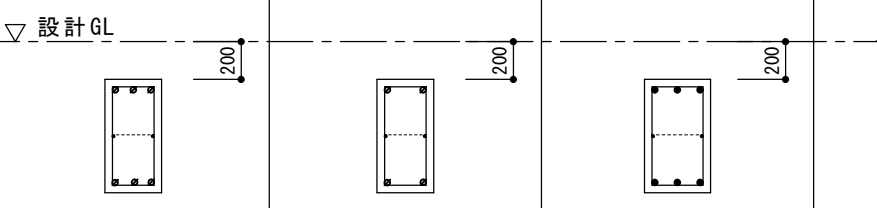


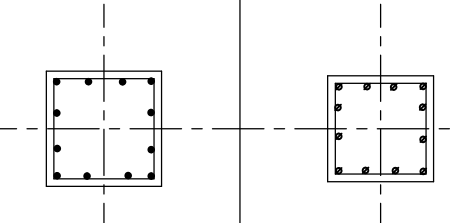
基 礎 伏 図
特記なき基礎首 FC1
特記なき 柱芯=基礎芯

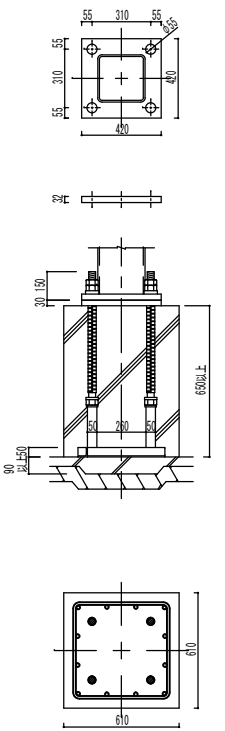
1 階 伏 図
特記なき柱 C1

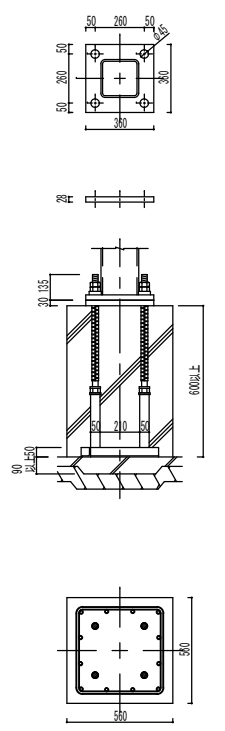
南 雲 設 計 新潟県南魚沼市六日町1036-7
一級建築士事務所 新潟県知事登録(ハ)第4332号
管理建築士 南 雲 亘
一級建築士 第200722号
構造設計一級建築士 第1854号

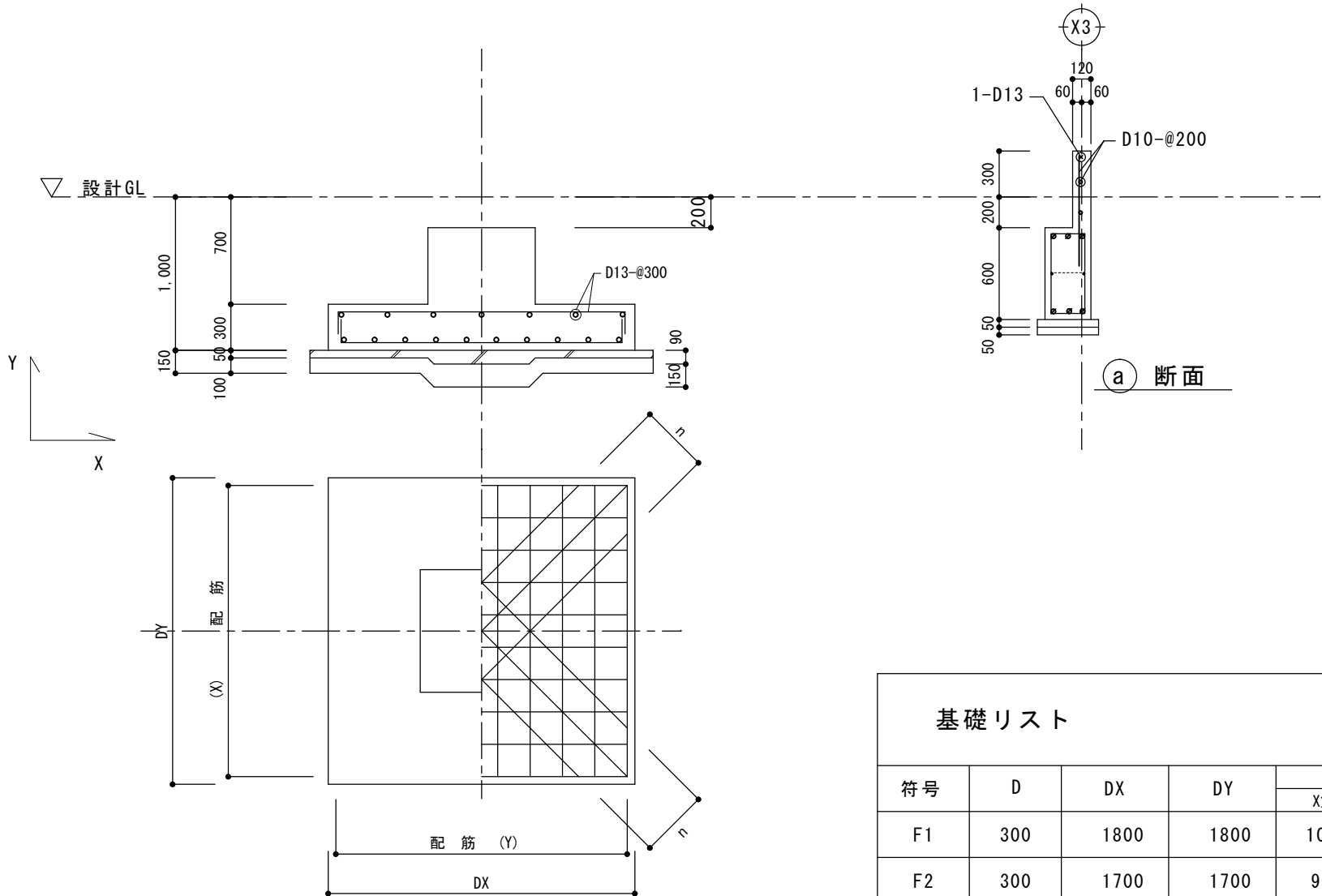
一級建築士事務所 株式会社 富 所 設 計 一級建築士 建設大臣登録 第114217号 富 所 清 治 新潟県南魚沼市君沢525 TEL. 025-783-3150			PROJECT 南魚沼市 湯沢消防署 訓練塔 新築工事	DATE 平成30年 3月 1日	No. S - 07
			TITLE 各 階 伏 図	SCALE 1/100	

地中梁リスト				
符号	FG 1	FG 1a	FG 2	
b x D	300×600	300×600	350×600	
位置	全域	全域	全域	
断面				
上端筋	3-D16	2-D16	3-D19	
下端筋	3-D16	2-D16	3-D19	
ST	□D10-@200	□D10-@100	□D10-@200	
腹筋	2-D10	2-D10	2-D10	
巾止め	D10-@1000	D10-@1000	D10-@1000	

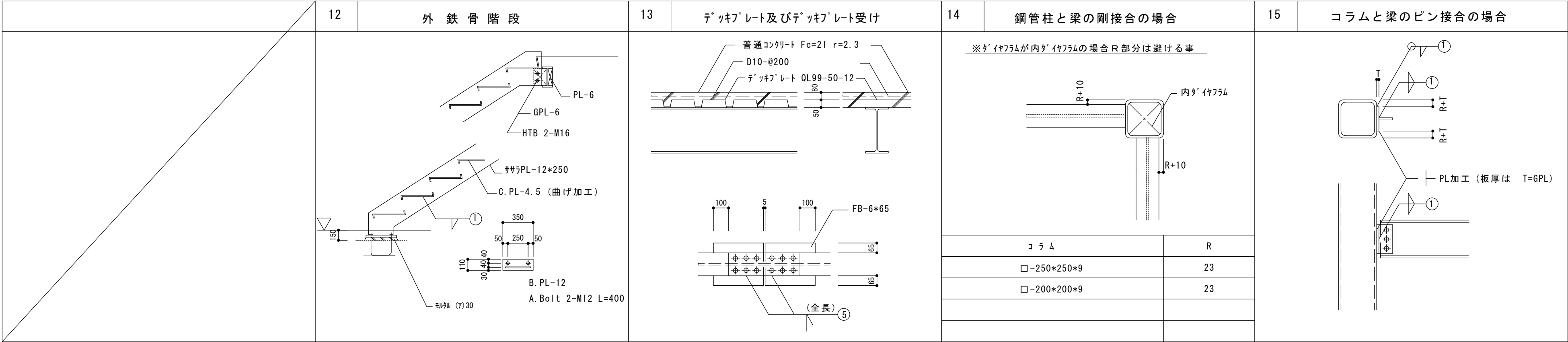
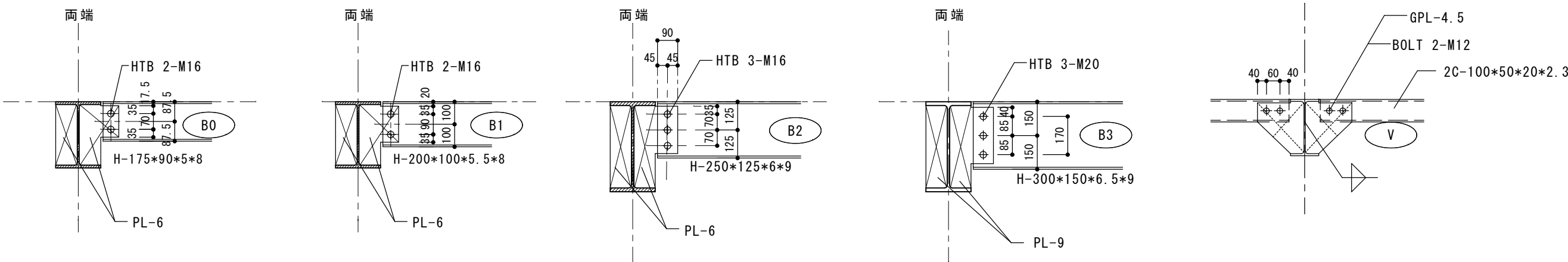
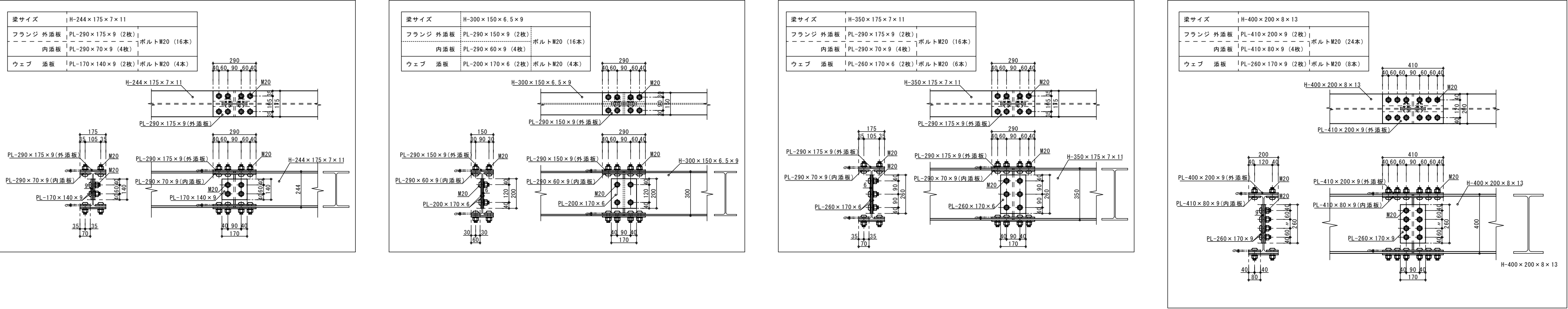
基礎首リスト		
符号	FC 1	FC 2
b x D	610×610	560×560
位置	全域	全域
断面		
主筋	12-D19	12-D16
Hoop	□D13-@100	□D13-@100

ベースパック 25-09V	
	
柱部材	□250×250×6 □250×250×9
ベースプレート	420×420×32
アンカーボルト	4-M36 (SD490)
コンクリート柱断面	610×610
立上り筋	12-D19 (SD345)
フープ筋	D13φ100 (SD295)
スリット設計基準強度	21N/mm ² 以上

ベースパック 20-09V	
	
柱部材	□200×200×6 □200×200×8 □200×200×9
ベースプレート	360×360×28
アンカーボルト	4-M30 (SD490)
コンクリート柱断面	560×560
立上り筋	12-D16 (SD295)
フープ筋	D13φ100 (SD295)
スリット設計基準強度	21N/mm ² 以上



基礎リスト							
符号	D	DX	DY	配 筋			備 考
				X方向	Y方向	斜め方向	
F1	300	1800	1800	10-D13	10-D13	3-D13	
F2	300	1700	1700	9-D13	9-D13	3-D13	
F3	300	1300	1300	7-D13	7-D13	3-D13	



各軸組共通

1)

横開口補強

2C-100*50*20*3.2 GPL-4.5 2-M12

縦開口補強

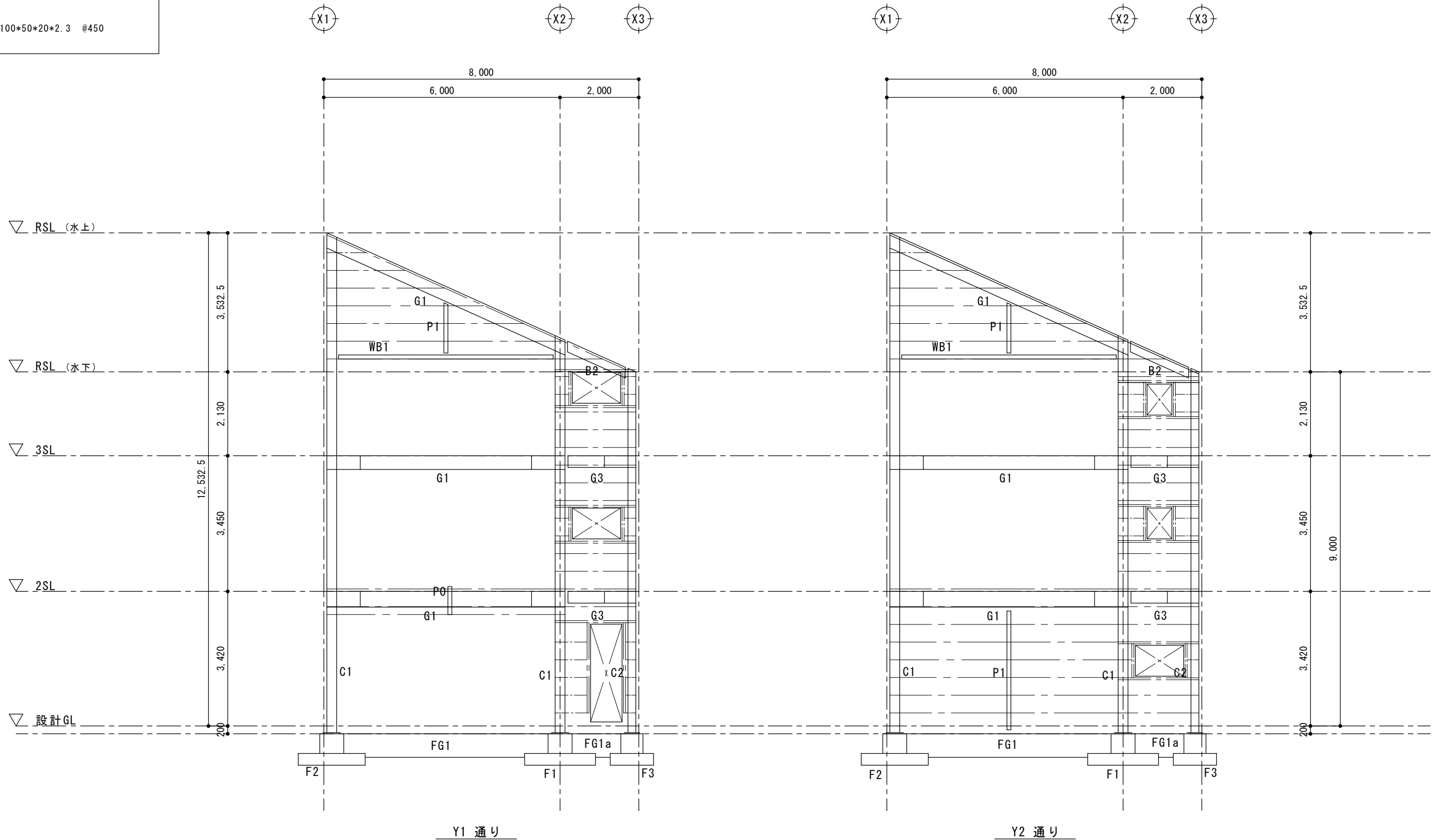
2C-100*50*20*3.2 GPL-4.5 2-M12

B. PL-4.5 A. Bolt 2-M12

3)

胴縁

C-100*50*20*2.3 @450



※特記なき大梁現場ジョイント位置は柱面より 600 とする

<div>南 雲 設 計 新 潟 県 南 魚 沼 市 大 町 1036-7 一 級 建 築 士 事 務 所 新 潟 県 知 事 登 録 (ハ) 第 4332 号 管 理 建 築 士 南 雲 亘 一 級 建 築 士 第 200722 号 構 造 設 計 一 級 建 築 士 第 1854 号</div>									
				一 級 建 築 士 事 務 所		PROJECT		DATE	
				株 式 会 社 富 所 設 計		南魚沼市 湯沢消防署 訓練塔 新築工事		平成30年 3月 1日	
				一級建築士 建設大臣登録 第114217号 富 所 清 治		TITLE		SCALE	
				新潟県南魚沼市君沢525 TEL 025-783-3150		軸 組 図 (1)		1/100	
								S - 11	

南 雲 設 計 新潟県南魚沼市六日町1036-7
一級建築士事務所 新潟県知事登録(ハ)第4332号
管理建築士 南雲 直
一級建築士 第200722号
構造設計一級建築士 第1854号

各軸組共通

1)

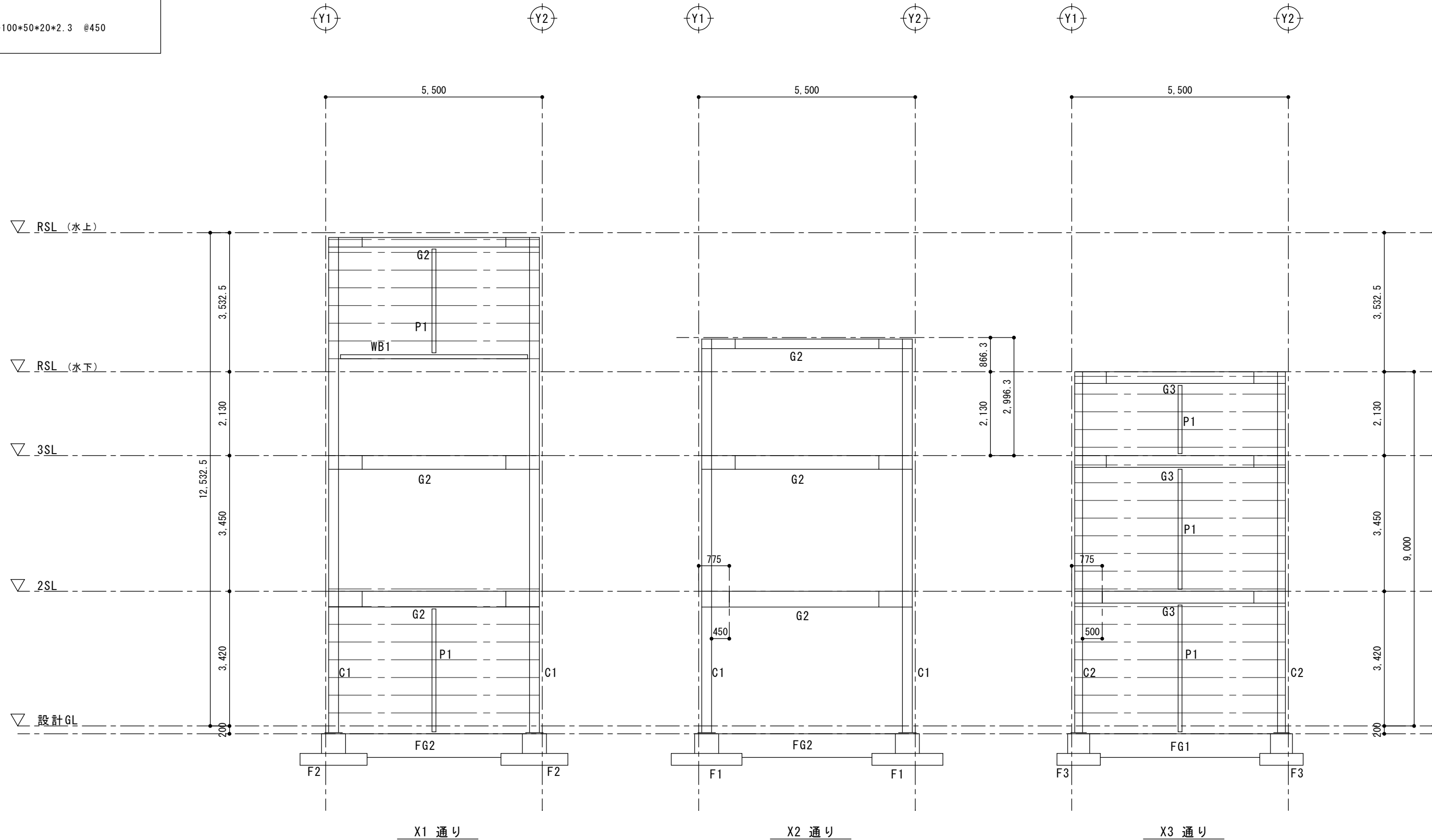
横 開口補強 2C-100*50*20*3.2 GPL-4.5 2-M12

縦 開口補強 2C-100*50*20*3.2 GPL-4.5 2-M12

B.PL-4.5 A.Bolt 2-M12

3)

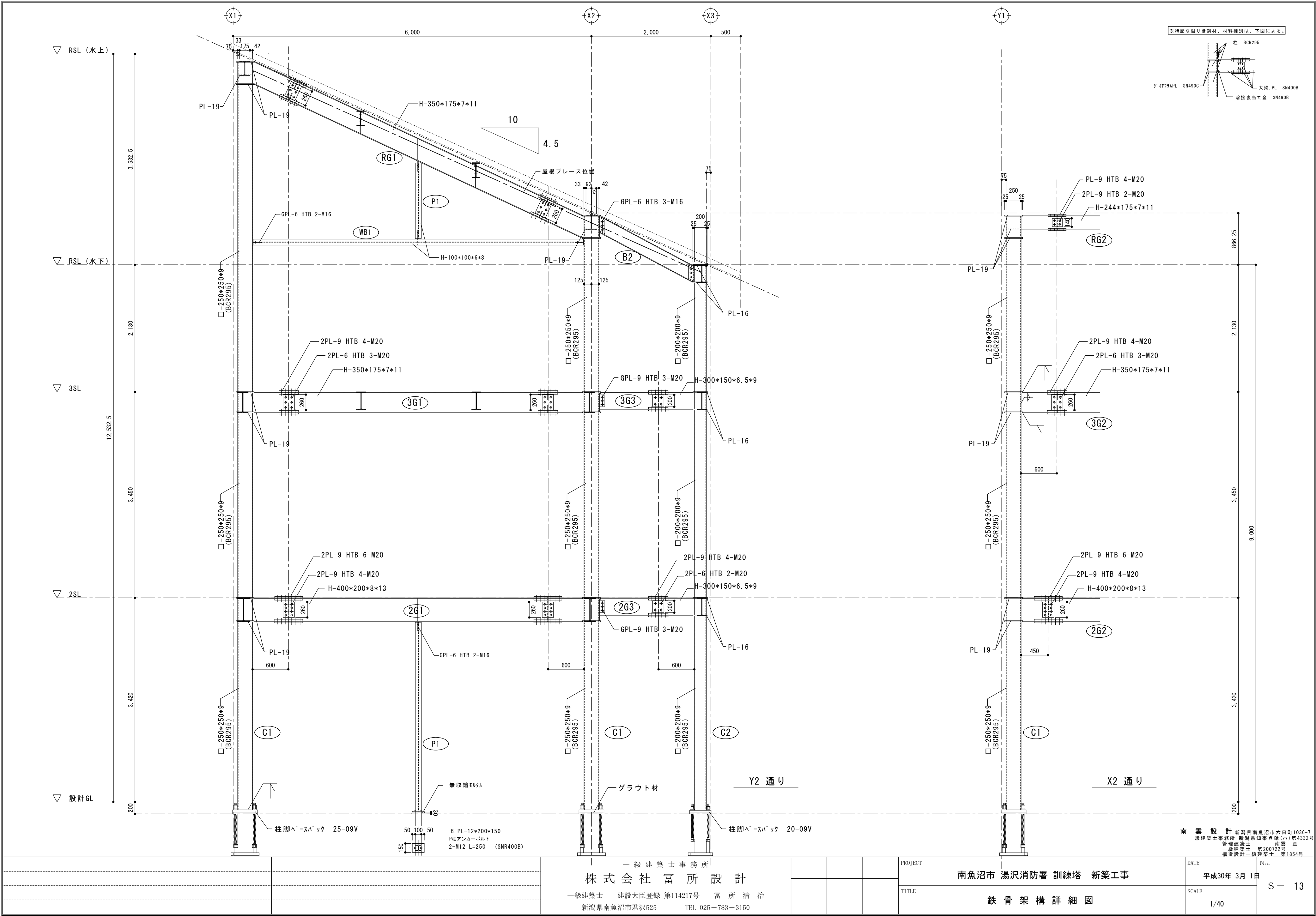
胴 縁 C-100*50*20*2.3 @450



※特記なき大梁現場ジョイント位置は柱面より 600 とする

南 雲 設 計 新潟県南魚沼市六日町1036-7
一級建築士事務所 新潟県知事登録(ハ)第4332号
管理建築士 南 雲 直
一級建築士 第200722号
構造設計一級建築士 第1854号

		一 級 建 築 士 事 務 所 株 式 会 社 富 所 設 計 一級建築士 建設大臣登録 第114217号 富 所 清 治 新潟県南魚沼市君沢525 TEL 025-783-3150				PROJECT 南魚沼市 湯沢消防署 訓練塔 新築工事	DATE 平成30年 3月 1日	No. S - 12
						TITLE 軸 組 図 (2)	SCALE 1/100	



一級建築士事務所 株式会社 富所設計 一級建築士 建設大臣登録 第114217号 富所 清治 新潟県南魚沼市君沢525 TEL 025-783-3150			PROJECT 南魚沼市 湯沢消防署 訓練塔 新築工事	DATE 平成30年 3月 1日	No. S - 13
			TITLE 鉄骨架構詳細図	SCALE 1/40	